

330
457

政治學叢書

稻田周之助著

殖
民
政
策

330-452

政治學叢書



殖
民
政
策

稻田周之助著

明治
45. 5. 31
内交

序言

本邦
唯一の殖民地学校

一本書ハ、學生ノ殖民政策ヲ研究スルモノ、爲メニ序述セルモノニシテ
カメテ教科書ノ體ヲ具フルヲ期ス。

日本
唯一の殖民地学校

二著者東洋協會専門學校ニ於テ、殖民政策ヲ講義スルコト四回。講義一
回毎ニ、其稿案ヲ改メタレトモ、猶ホ未タ己ノ意ニ滿タサル所アリ、此ニ
更ニ思索修正シテ本書ヲ公ニス。本書トテモ、敢テ自ラ其意ニ滿テリ
トハセスシテ寧ロ暗處ノ耻ヲ明地ニ暴ラスノ感ナキ能ハスト雖モ、之
ヲ公ニスルハ則チ大方ノ是正ヲ求ムル所以ニシテ、之ニ依テ諸先輩ノ
批評ヲ得、若クハ自ラ其瑕瑜ヲ覺ルヲ得ハ、著者ノ願ヒ則チ足ル。

三著者嘗テ明治二十六七年頃、印度馬來半島諸地ニ遊ヒ、英國其他ノ殖民
經營ヲ觀テ之ヲ壯ト爲シ、爾來殖民經營ニ關スル著書、論文、統計表、調査

報告書ノ類ヲ求メテ、之ヲ研究スルヲ怠ラス。而シテ今ニシテ之ヲ觀レハ、僅カニ二十星霜ノ間、世界殖民政策幾多ノ變遷アリ、其設置ノ成敗其經畫ノ得喪、錯落指示スヘキモノアリ。是ニ由リテ之ヲ推セハ、今日ヨリ十年二十年ノ後ニ及テ、今日ノ事ヲ觀ルトキハ、其變遷亦多大ナルモノアルヘク、世界諸國民ノ殖民經營カ、今猶ホ試驗中ニ屬スルモノ多キト同時ニ、殖民政策研究者、亦其論理ト計數トノ上ニ多クノ未決問題ヲ有スルモノタルコトヲ自覺セサルヘカラス。

四著者、殖民政策ヲ講義スルニ當リテ、最モ其參考書ヲ擇フニ苦シミタリ初メ

Timmermann — die europäischen Kolonien

Leroy-beaulieu — de la colonisation chez les peuples modernes

等ニ依リタレトモ、是等ハ專ラ歴史的事實ヲ採録スルニ方メテ、往々ニ

シテ蕪雜ニ流ル、處アリ、其浩翰茫然タルハ偶々殖民政策ノ原理要領ヲ知ルニ不便ナルモノアリ。

Köhner — Kolonial politik

ハ簡ニ過クルモ、其要約甚タ喜フヘク、特ニ其法理的推論ニ富メルハ、甚タ教科書ニ適スルニ似タリ、本書ノ體裁ノ、ケブネルノ書ニ類スル處アルハ、則チ此ニ取レルモノニ外ナラス。

五著者、過般、京都同志社大學殖民政策ノ講義ヲ擔任スルコトヲ約ス、然ルニ一身上ノ都合ニテ、長ク當地ヲ離レテ京都ニ滞在スルヲ得ス、則チ其講義要領ヲ豫シメ學生ニ提示セハ、其講座ニ臨ムノ日ハ、單ニ其ノ足ラサルヲ補フヲ以テ足レリ、是レ即チ京都滞在ノ日數ヲ寡クシテ、而シテ善ク其擔任ノ義務ヲ果タス所以ニシテ、是亦本書ヲ刊行スルノ理由ノ一ナリ。書成ルノ日、其若干部ヲ同大學ニ寄贈シ之ヲ其圖書室ニ備附

クルヲ乞ハント欲ス

明治四十五年五月

四

稻田周之助

殖民政策目次

| | |
|---------------|----|
| 第一編 總 說 | 一 |
| 第一章 殖民地及殖民政策 | 一 |
| 第二章 殖民政策研究ノ方法 | 六 |
| 第三章 殖民經營ノ目的 | 九 |
| 第四章 殖民地ノ種類 | 一二 |
| 第一 法律上ノ區別 | 一三 |
| 一、殖民地(狹義) | 一四 |
| 二、保護國 | 一八 |
| 三、租借地 | 二〇 |
| 四、勢力範圍 | 二三 |

目次

一

1470

二

第二編 經濟上ノ區別……………二七

一、農業殖民地……………二八

二、拓殖殖民地……………二八

三、商業殖民地……………二九

第五章 世界殖民地ノ梗概……………三一

第六章 移民問題……………三五

第二編 歷史的研究……………四〇

第一 歐米諸國ノ殖民經營……………四〇

第二 大日本帝國ノ領土……………四五

第三編 殖民地ノ統治組織……………五九

第一章 殖民地統治權……………六〇

第二章 母國ニ於ケル統治機關……………六七

第三章 殖民地統治機關 上……………七五

第四章 殖民地統治機關 下……………八四

第五章 立法司法及行政……………九〇

第一 立法……………九一

第二 司法……………一〇二

第三 行政……………一一一

一、內務行政……………一二二

二、財政……………一二三

第一 母子國間ノ財政關係……………一二四

第二 殖民地ノ租稅制度……………一三三

第三 殖民地ノ公債……………一五〇

第四編 統治政策……………一五七

第一章 對人政策.....一五七

一、土著人民ニ對スル政策.....一五八

二、勞力供給問題.....一六五

第二章 土地制度.....一七七

一、殖民地ニ於ケル土地兼併及ヒ投機賣買ニ對

スル政策.....一七九

二、土地ノ分配及ヒ保持ニ關スル政策.....一八四

三、土地ニ關スル私權ノ確保.....一九四

第三章 交通運輸.....二〇四

一、總說.....二〇四

二、陸上交通運輸機關.....二一一

三、水上交通機關.....二二五

第四章 産業政策.....二三一

第五章 貨幣及金融機關.....二三九

一、貨幣制度.....二三九

二、銀行制度.....二四一

三、臺灣及ヒ朝鮮ノ制度.....二四二

目次 終

殖民地政策

稻田周之助著

第一編 總說

第一章 殖民地及殖民政策

殖民地トハ、獨立國家ニ屬スル所ノ領土ノ謂ナリ。

此意義ヲ明ニスルニハ、先ツ國家ノ何モノタルコトヨリ、解説シ來ラサルヘカラス。國家ハ、一定ノ國土ノ上ニ定着シテ、統治組織ヲ成ストコロノ人類ノ、永續的團體ナリ。此ノ統治組織ヲ成スヤ、主權者アリテ、統治權ヲ

殖民地及
殖民政策

總攬シ、其國家ノ獨立ト、單一不分割的有體タルコト、ヲ體表ス。其ノ永續的團體タルヤ、之ヲ證スルノ歴史アリ、之ヲ明カニスルノ國民的確信アルヘキヤ言ヲ待タス。

此獨立國家ノ、外ニ對スル行動ハ、極メテ多樣ナリ。外交、軍事、經濟的經營及ヒ殖民事業等、一々此ニ枚擧スヘカラス。國家カ、其本來ノ國土ノ外ニ於テ、土地ヲ支配スルノ權能ヲ行使スル處ヲ目シテ、是ヲ殖民地ト云フ。

殖民地ニ於ケル、政治上及ヒ經濟上ノ經營ノ體用ヲ正シ、其施設ノ利害得失ヲ闡顯スルコト、是ヲ殖民論若クハ殖民政策ト云フ。

政治學上ノ論理ヲ以テ之ヲ解説スルトキハ、殖民地及ヒ殖民政策ノ義ヲ述フルコト、此ノ如ク單純且明白ナリ。併ナカラ、其事實ニ就テ之ヲ正スニ及テ、却テ幾多ノ疑義ヲ生スルコトナキ能ハサルハ何ソヤ。蓋シ其用語ノ疑似ニ陥リ易キコト其一ナリ。國家及其領土ノ現象極メテ錯綜セ

ルモノアルコト其二ナリ。

今日ノ殖民地即チ Colony ナル語ハ、羅典 Colonia ヨリ出テ來リ、恰モ英語ノ Planting ト同義ニシテ、國民其故土ヲ去リテ、新タナル土地ヲ開拓スルコトヲ指示スニハ、甚タ適當ナリ。併ナカラ、故土ヨリ人ヲ移シテ開拓ノ事ニ從ハシムルコトニ此語ヲ通用スルノ餘、一國家内ノ、一地方ヨリ他地方ニ住居ヲ移シ、開拓ヲ行フコトヲモ、殖民ト稱スルノ例アリ、獨逸ノポーゼン西プルシヤ等ニ於ケル、北米合衆國ノ中央西部ニ於ケル拓殖經營ノ如キ是レナリ。或ハ其ノ當ラサルニ氣附キテ、Internal Colonization ナル語ヲ用ユルモノアリト雖モ、國民其本土内ノ事ニ從フモノニ之ヲ擬スルハ徒ラニ混淆ヲ招クノ嫌アリ。又其ノ國民故土ヲ去ルノ事タルヨリ、大凡其故國ヲ出去ルモノハ、皆殖民ヲ以テ之ヲ目スルモノナキニアラスト雖モ、其ノ出テ自國ノ殖民地ニ赴カスシテ、他ノ獨立國家ノ領土ニ赴クモノハ、移民

國內拓殖

移民

民 Emigration ナリ。國民其本土ヲ去リテ、其國家ノ領土權ノ存スル處ニ就テ居ルニアラサレハ、殖民ヲ以テ目スヘカラス。且殖民地ハ、必スシモ其本土人民ヲ移植スルヲ要セス、只一定ノ土地ノ上ニ、獨立國家ノ支配權成立スルトキハ、之ヲ殖民地ト爲シ得ヘキナリ。

又事實問題トシテ、本土若クハ母國ト、其殖民地トハ、何ヲ基準トシテ分別スヘキカ、或土地ハ本土ノ一部ナリヤ、殖民地ナリヤト云フコトニ就テ、疑問ヲ生スルコトアリ。法律家ノ之ニ關スル議論、時ニ甚タ喧シキヲ見ル。蓋シ國家ノ發達、領土ノ擴張等ハ、主トシテ歴史的事實ニシテ、憲法法律ニ先チテ存シ、憲法法律ト相離レテ、其形ヲ成スコト多キヲ以テ、法文又ハ法理ヲ以テ之ヲ解説スル能ハサル場合コレナシトセス。我朝鮮臺灣等ハ、憲法ノ行ハル、範圍内ナルヤ、樺太ハ殖民地ナルヤト云フカ如キ疑問ハ、皆法律家ヨリ提起シ來レルモノナラサルハナシ也。或ハ憲法ノ行ハル、

本土
殖民地
トノ
區別

處ハ、本土ニシテ、然ラサルトコロハ殖民地ナリト云フモ、是レ循環論理ナリ。或土地カ、殖民地ナリヤ本土ナリヤト云フ疑問ハ、主トシテ其土地ニ憲法カ行ハル、ヤ否ヤト云フ爭議アル場合ニ於テ起リ來ル。或ハ又法律ノ施行區域ノ異同ニ依リテ、本土ト殖民地トヲ別シト云フモ、一ノ獨立國家ノ内ニ於テ、處ニ依リテ其ノ法律ヲ異ニスルモノアリト雖モ、之ヲ目シテ殖民地ト爲サ、ルノ實例甚タ多キヲ如何セン。且本土ト殖民地ト、其民事刑事法規ヲ異ニスルハ、已ヲ得スシテ然ルトコロナレトモ、殖民地統治ノ理想ハ、漸次法律ノ統一ヲ圖ルニアリテ、殖民地ノ社會狀態ノ進歩スルニ從テ、其法律ヲ母國ト共通ニスルコトニ務ムルハ、自然ノ勢ニシテ、法域ヲ以テ相分ツト云フハ、統治ノ目的ト相容レサルナリ。只殖民地ノ政治的進歩經濟的發達ヲ全クスルニ及ヒテハ、隱然一國家ノ姿ヲ成シ、其ノ母國トノ關係ハ、聯邦又ハ連合國家ノ狀態ヲ以テ之ヲ推スヘキモノア

以。英國ノ殖民地タル加奈陀、濠太刺利亞、南阿弗利加ハ、皆其憲法アリテ、立憲政治ヲ行ヒ、印度ハ未タ立憲政治ヲ行ハサレトモ、英國 King ハ印度ノ Emperor ナリ。是等ノ例ニ由リテ之ヲ稽フルトキハ、今日殖民地ト稱スルモノ、狀態多様ニシテ、之ヲ畫一スヘカラサルノミナラス、其ノ將來ノ變遷、亦豫シメ知ルヘカラサルモノアリ。從テ事實問題ニ就テ各種ノ疑問ヲ生シ來ルハ洵トニ已ヲ得サルトコロナリ。然リト雖モ其原則トシテハ、先ツ其主體タル獨立國家ノ何モノタルヲ詳ニシテ、而シテ後ニ之ニ附屬スルトコロノ領土ニ及ブ、母國ト殖民地トノ區別ハ、是ニ由ルノ外ニ、解說ノ道アルナシ。

第二章 殖民政策研究ノ方法

殖民政策
ハ政治學

殖民政策ハ、政治學ノ一分科ニシテ、其原理原則ハ、並トシテ之ヲ一般政治

リノ一科ナ

學上ノ定説ニ求ムルモ、其實用的要件ハ、即チ立法行政司法等ノ法律學行
政學ニ關スルモノニアラサレハ、則チ農工商等經濟學上ノ問題ナリト云
フヲ妨ケス。且其經濟法律行政上ノ研究ニ屬スルモノモ、其ノ獨立國家
ニ適用スルトコロノ通則ト相容レサルモノ甚タ多キ爲メニ、先ツ通則ヲ
解スルモノニアラサレハ、其變體ヲ知ル能ハサルノ情アリ。從テ殖民政
策ヲ研究スルモノハ、其本然ノ政治學ニ依ルモノヨリハ、寧ロ經濟學若ク
ハ法律學行政學ニ就テ、其力ヲ用ユルコト多カラサルヘカラサルノ實ア
リ。

歐米諸國學者專門家ノ殖民政策ニ關スル著書、多クハ殖民歴史ニアラサ
レハ則チ殖民ニ關スル應用經濟論ノ類ニシテ、政治若クハ法制上ヨリ之
ヲ解說セルモノハ甚タ稀レナリ。又政治學若クハ法律學ノ著書ニシテ
殖民地ノ事ニ言及セルモノハコレ有リト雖モ、概ネ太々簡ニ過キテ其要

ヲ得ル能ハス、是レ今日、此科ヲ學ハントスルモノ、最モ不便ヲ感スルトコロナリ。

且殖民政策ヲ研究スルノ要ハ、自國ノ實地問題ヲ解説シ、及ヒ實用的理義ヲ明カニスルニアリテ、我國ノ學者専門家タルモノハ則チ我國ノ殖民經營ノ由テ來ルトコロヲ尋ネテ、其理義ノ存スルトコロヲ求メ、其利害得失ヲ論スルノ必要上、外國ノ事例ヲ相参照スルニ止リ、其力ヲ用ユヘキハ、主トシテ我國ノ殖民政策ニアリ。我帝國ノ對外經營ヲ始ムル日尙ホ淺シト雖モ、單純ナル領土アリ、租借地アリ、朝鮮ハ嘗我保護國タリシコトアリ、又南滿洲ニ於テハ、租借地以外ノ勢力範圍アリ、其政治上及ヒ經濟上ノ關係ハ極メテ錯綜セリ。且我日本民族ハ、數千年ノ歴史ヲ有スル大國民ニシテ、其領土的發達ノ次第亦自ラ見ルヘキモノアリ。故ニ我帝國ノ爲メニ、一ノ獨立セル殖民政策ノ研究ヲ成ヌヲ得ヘキナリ。

第三章 殖民經營ノ目的

殖民經營
ノ目的

古來世界國民、皆其殖民經營ニ熱中シ、コレカ爲メニ努力シテ、其勞苦ト費用トヲ吝マサルノミナラス、時ニ戰爭ノ危險ヲモ避ケサルコトアリ、是レ皆一定ノ目的ヲ此ニ存シテ、之ヲ成遂クルニ急ナルカ爲メナリ。中世以後、西班牙、葡萄牙、諸國、專ラ殖民經營ヲ務メタル時代ニアリテハ、殖民者ノ志ハ、新ニ領土ヲ獲テ、其土人ヲ使役シ、其鑛產物ヲ得ルニアリ。間々其新領土ノ貢納ヲ收ムルヲ目的トシタルモノ亦コレ無キニアラスト雖モ、遂ニヨク其目的ヲ成遂ケタルモノナク、偶々一度ハ其目的ヲ達シタルカ如クニシテ、遂ニ失敗ニ終ラサルナシ。今日、世界各國民ノ目的トスルトコロハ、則チ較々コレニ異レリ。其一ハ曰ク、本土ノ過剩人口ヲ移出スル處ヲ求ム。

其二ハ曰ク、本土人民ノ爲メニ、食物、原料品供給ノ道ヲ開ク。

其三ハ曰ク、國家ヲ防禦シ、又ハ兵力ヲ擴張スル爲メナリ。

其四ハ曰ク、文明ヲ進メ、人道ヲ明カニスルカ爲メナリ。

其五ハ曰ク、宗教ヲ擴張スル爲メナリ。

是等ハ最モ世上ニ有リ觸レタル主張ニシテ、今日文明富強國民ノ殖民經營ヲ始ムルモノ、其一若クハ二ヲ以テ其目的ト爲サ、ルナク、就中本土ノ過剩人口處理ヲ云フモノ最モ多キカ如クナレトモ、其過剩人口トイフ事實ハ果シテ存在セリヤ、假令コレ有リトスルモ文明富強國民カ其殖民地ニ移居シテ、以テ其本土ノ人口ノ増殖ヲ避ケタリト云フ事實ハ、未タ嘗テ存在セサルナリ。其本土人民ノ爲メニ食物原料品ノ供給ヲ豊富ニスルトイフコトハ、今日ノ殖民經營上最モ可能的ナルヤ論ナシト雖モ、實際ヲ云ハ、食物原料品ノ供給者ハ、必スシモ其殖民地タラスシテ、外國若クハ

外國ノ殖民地ニ之ヲ求ムルモノ甚タ多シ。特ニ殖民地ノ商工業發達シ及ヒ人口増加スルトキハ、其原料品又ハ食物ヲ輸出スルノ力ハ遞減セサルヘカラス。其ノ國家ヲ防禦シ、又ハ兵力ヲ擴張スル爲メニスル殖民經營ナルモノハ、稀レニコレ有ルヲ見ルト雖モ、多クノ場合ニ於テハ、領土ノ擴張ハ、其自身兵力ノ擴張ヲ要求シ、大ナル陸海軍ノ擴張ヲ爲サ、レハ、其防備ヲ充實スル能ハサルノ情アリ。而シテ宗教ヲ擴ムル爲メニ此事ニ從フト云フコトハ、古時ニ於テ其例甚タ多ク、文明人道ノ說ハ、今日モコレ無キニアラスト雖モ、單純ニ此目的ノ下ニ殖民經營ヲ爲スモノハ鮮ク、概ネ其背後ニ他ノ目的アリテ存スルヲ推知スヘシ。蓋シ一ノ獨立國家カ其領土權ヲ伸長シ、殖民經營ヲ爲ス所以ノモノハ、自動的ニ、其國民ノ意思ニ依リテ、自己ノ所定ノ目的ノ爲メニスルモノアルト同時ニ、他動的ニ、實際關係若クハ四圍ノ情形ニ餘義ナクサレテ、其事ニ從フモノ亦甚タ多キ

ヲ以テ、論理的ニ之ヲ盡一スルコトハ不可能ナリ。是レ今日學者論客ノ言甚タ區々ナリト雖モ、能ク一貫ノ理ヲ示スモノナキ所以ナリ。

千九百八年三月十八日、獨逸殖民大臣、デルンブルヒ帝國議會ニ臨ミテ演說シテ曰ク、殖民經營ハ、其形式ノ如何ヲ問ハス、常ニ本國民ノ經濟的利益ノ爲メニ、殖民地ノ土地財源動植物及ヒ土民ヲ利用スルモノタリ、從テ本國民ハ、其高度ノ、文明ト、道德的觀念ト、進歩セル制度トヲ其反對給附トシテ土民ニ與フルノ義務アリト、是レ實際家ノ言トシテハ、甚タ其要ヲ得タルモノニシテ、今日ノ殖民經營ノ大要ハ殆ト此外ニ出テサルナリ。

第四章 殖民地ノ種類

大凡獨立國家ノ支配スルトコロノ領土ハ、總テ之ヲ殖民地ト云フ。是レ固ヨリ、廣義ニ之ヲ稱スルモノタリ。若シ其領土ニ就テ、仔細ニ之ヲ檢ス

ルトキハ、其體用一様ナラスシテ、詳密ニ之ヲ語ラハ、一ノ土地、一ノ住民、各々特殊ノ性格ヲ具フルノミナラス、時ニ依リ事ニ觸レテ、其趣ヲ異ニスルモノアリテ、是等ハ、一々事實ニ就テ之ヲ解説スルノ外ナキナリ。

只學問上ノ研究ハ、其相同シキ所ノモノヲ通シ、其相異ナル所ノモノヲ別チテ、互ニ相尋釋シ、以テ其理義ヲ明カニスルヲ期ス、本章殖民地ノ種類ヲ說クモノ、亦此趣意ニ出ツ。

從來殖民地ヲ區別スルモノ、其基準ヲ法律上ニ置クモノト、經濟上ニ之ヲ求ムルモノトアリテ、二者共ニ研究上ノ便益多シ。

第一 法律上ノ區別

法律上、即チ國法及ヒ國際法上ヨリ、殖民地ノ種類ヲ區別スルモノハ、之ヲ分チテ、狹義ノ殖民地、保護國、租借地、勢力範圍ノ四ト爲ス。

法律上ノ區別

一 殖民地(狹義)

地狹義殖民

殖民地ナル語ヲ廣義ニ用ユルトキハ、國家ノ支配權ノ及フトコロノ地域ノ總稱ナリ。然ルニ之ヲ狹義ニ用ユルトキハ、國家ノ支配權ノ及フトコロノ地域ニシテ、其領土ハ、完全且無條件ニ、其獨立國家ニ屬スルモノヲ指ス。其ノ國家ノ所屬領土タルコトハ、本土ト相異ナルナシ。只國民性、統治關係及ヒ其歴史、史上ヨリ相區別シテ、其本來ノ獨立國家ヲ成ストコロノ土地ヲ本土ト爲シ、其ノ然ラサルモノヲ殖民地ト爲スト云フノミ。

殖民地ニシテ、其人文發達シ、且本土ノ事物ト相同化スルトキハ、遂ニ相抱合シテ、本土ノ一部トナリ、一國家ヲ相成スコトハ、歴史ノ上ニ數ハ之ヲ見ルトコロナリ。又理論ヲ以テ云ハ、殖民地ニシテ、其人文發達シ、其實力本土ト相等キモノハ、本土ト相合シテ、連合的國家ヲ組成スヘキ可能性ヲ

有スルモノタリ。

本土ト殖民地トノ區別ハ、主トシテ政治上ノ事實、若クハ政治學上ノ意味ヲ以テ之ヲ定ムヘクシテ、法理論トシテハ、其基準ヲ求ムヘキ資料甚タ乏シ、只佛蘭西千七百九十五年憲法第六條、佛蘭西ノ殖民地ハ共和國ノ完體ノ一部 (*Parties intégrantes*) ニシテ、同一憲法ノ下ニ在リトイフ明文ヲ設ケタルハ、蓋シ國法ノ上ニ、殖民地ニ關スル規定ヲ見ルノ矯矢ナルヘク、此憲法ハ、實施ノ効果ヲ見ルノ違ナクシテ、千七百九十九年ノ憲法之ニ代リタルトモ、佛國ニテ共和政體トナルトキハ、必ス此精神ヲ承體シテ殖民地ノ議員ヲ元老院及ヒ代議院ニ參列セシムルヲ例トス。此殖民地ヲ、本土ト畫一ノ下ニ立タシメント欲スル政策ヲ名ケテ、*Système des rattachements* ト爲シ是亦殖民地ヲ治ムルノ一方針タリ。アルゼリアヲ佛蘭西本土ノ一部トシテ、行政上ノ組織ヲ定メタルカ如キハ、則チ此方針ヲ實現セルモノニ

外ナラスシテ、是皆千七百九十五年憲法ノ影響ナリ。併ナカラ此憲法ハ、古來佛國君主又ハ宰臣カ、殖民地ヲ以テ己ノ私營物ノ如クシ、專縦ヲ極メタル反動的思想ヲ表明セルモノニシテ、決シテ其ノ實行のタルヤ否ヤヲ窮メタルモノニアラス、是レ同國共和政府ノ殖民政策カ、常ニ半上落下ノ態ヲ見メス所以ナリ。且其第六條ノ文字其自身カ大矛盾ヲ含メリ、何トナレハ「佛蘭西ノ殖民地ハ」ト云テ「佛蘭西ノ總テノ領土ハ」ト云ハサルハ即チ本土ノ外ニ殖民地ナルモノ、存在セルコトヲ自證スルモノニシテ、本條ヲ實施スルトモ、殖民地ハ本土ノ外ニ隔立スヘケレハナリ。

千八百三十一年二月七日制定白耳義憲法ハ、千八百九十二年、其第二條ニ一項ヲ加ヘテ「白耳義カ取得スヘキ殖民地、海外領地、又ハ保護地ハ、特別法ヲ以テ之ヲ統治ス」トイフコトヲ規定シタルヲ以テ、其母國ト殖民地トノ法律關係ハ甚タ明白ナリ。其他立憲國ニ在リテ、其憲法ノ施行區域ヲ明

示又ハ默示セルモノハ憲法ノ行ハル、處ヲ本土ト爲シ、然ラサル所ヲ殖民地ト爲ス、但千九百六年五月六日制定露西亞憲法第一條ヲ以テ、露西亞帝國ハ一ニシテ不分割的ナルコトヲ明示シ、更ニ其第二條ニテ、芬蘭公領ハ露西亞帝國ノ分離スヘカラサル部分ヲ成シ、其內事ハ特別立法ニ基クトコロノ特別制度ニ依ツテ支配セラレヘシト爲シタルハ、一見芬蘭ヲ殖民地ト爲スノ義ナルヤ否ヤ疑ハシキカ如クナレトモ、憲法ノ精神ハ之ヲ帝國ノ不分割的完體ノ内ニ收ムルニアルコト、明白ナルノミナラス、特別統治若クハ特別法域タルコトハ、必スシモ殖民地タルコトノ要件タラサルヲ以テ、芬蘭ハ殖民地ニ非スト解スルヲ正當トス。其他法律上、殖民地ナルヤ、本土ノ一部ナルヤ、疑ハシキ事實問題ヲ生スルコトコレ有ルヘシト雖モ、一々此ニ舉クル能ハス、要ハ前述ノ原則ヲ推シテ、其撰擇スル所ヲ知ルニアリ。

一一 保護國

保護國

保護國ハ、一ノ國家トシテ、其存在ヲ保ツト雖モ、他ノ優等國家ノ下ニ立チテ、其保護ニ依頼スルモノニシテ、保護者タル優等國家ハ、其國ノ内政ノ改良ヲ圖リ、及ヒ其外交ヲ擔當スルニ依リテ、保護關係ヲ結フモノトス。

保護關係ノ基礎ヲ成スモノハ條約ナリ、優等國家ト其ノ保護ヲ受クル國家トノ間ノ條約ヲ以テ、之ヲ取極ムルモノ最モ多キニ居ルト雖モ、時トシテハ國際條約ニ基テ、保護關係ヲ成スコト亦コレ有リ。

優等國家カ一ノ國土ヲ保護シテ、其内政ヲ改良シ、其外交ヲ擔當スルノ結果トシテ、其政治上及ヒ經濟上ノ實權ヲ總攬シ、之ニ就テ自己ノ殖民政策ヲ行フハ、古今ノ實例ノ示ストコロニシテ、保護關係ノ設定ハ、主トシテ其周圍ノ形勢ノ甚タ切迫セルモノアルノ時ニ於テスルヲ以テ、優等國家カ、

其保護權ニ依リテ施置作爲スルトコロノモノハ、概シ緊切ヲ極メ、尋常殖民地中、往々其自治ニ放任シテ其内事ヲ問ハサルモノアルニ對シテ、甚タ其趣ヲ異ニスルモノアリ。從テ保護關係ヨリ變シテ、純乎タル殖民地トナリ、優等國家ニ併合セラレテ、其領土トナルノ例、甚タ寡カラサルナリ。

今日保護國ヲ有スルモノ、其處務ノ規程ヲ定ムルニ當リテ、之ヲ外務省所轄ノ下ニ置クヲ通則ト爲ス。是レ保護國ハ、仍ホ國家トシテノ存在ヲ失ハスシテ、其保護關係ハ、主トシテ條約及ヒ外交關係ニ起因スルヲ以テナリ。併ナカラ是レ專ラ其通則ヲ云フニ止リ。實際ハ保護國ヲ治ムルノ事ハ、一般殖民地ト相異ナルコトナキ爲メニ、殖民省ヲシテ、其實務ヲ取ラシムルノ例亦コレ有リ、佛蘭西ハ、殖民省ヲシテ其保護國タル交趾支那ノ事務ヲ擔當セシメ、英國ハ印度大守ヲシテ、印度保護國ヲ關轄セシム、皆其實際ノ便宜ニ從フモノニ外ナラサルナリ。

三 租借地

租借地

租借地ハ、一ノ國家カ、國際條約ニ依リテ、他ノ國家ノ領土ノ一部ヲ占領シテ、之ヲ統治スルモノニシテ、條件附領土權ノ一種ナリ。其條件ノ主要ナルモノハ、其占領ニ年限ヲ附スルコトナリ、租借地ノ讓與者ハ、其主權ヲ己ニ保留シ、其讓受者ハ、其條件ノ範圍内ニ於テ、其殖民的經營ヲ行フモノトス。

今日世界殖民史上、租借地ノ例ヲ見ルコト甚タ稀レナリ。千八百八十八年ザンジバル王、其領土ヲ英國ノ東部阿弗利加會社ニ租與シ、其期限ヲ五十箇年ト爲ス、其後契約ヲ更改シテ、永借地ト爲シ、會社ハ其領土ヲ支配スルコトニ就テ、十分ナル權能ヲ享有シタリ、是レ租借地ノ一先例タリ。然レトモ其設定ハ、殆ト民法的契約ニ基クノミナラス、租借權者ハ一ノ殖民

會社ニシテ、國家直接ノ事ニアラス。其他、北米合衆國ノ玖瑪ニ於ケル借地、白耳義ノ英國ヨリ上ナイルノ地ヲ借リタル、佛蘭西ノナイジャノ地ヲ英國ヨリ借リタル、亦租借地ノ例ヲ以テ之ヲ推スヘシ。

租借地ノ最モ完全ニ成立セルモノ、清國ニ於テ初メテ之ヲ見ル。其膠洲灣、滿洲、九龍、廣洲等ニ於テ設定セルモノ即チ是レナリ。

清國租借地

清國ニ於ケル、各國租借地ノ性質ハ、其ヲ設定セル國際條約ニ就テ之ヲ見ルノ外ナシ。千八百九十九年二月六日清獨條約第二條ニ曰ク、今ヤ清國皇帝ハ、獨逸ニ割與スルニ、膠洲灣南涯ノ地域永借ノ特權ヲ以テスルモノトス。第三條ニ曰ク、清國政府ハ、此地永借年限間ハ、該割地ニ對スル主權ノ行使權利ヲ舉ケテ自ラ之ヲ行ハス云々。千八百九十八年三月二十七日露清條約第一款、大清國皇帝陛下、特允將旅順口、大連灣二處及鄰近相連之海面、租與俄國、惟中國帝權、不得損礙。第二款前畧、惟租界境內、俄羅斯應

全享租主權利。トアリテ、此二箇ノ條約ハ、殆ト其時ヲ同クシテ、同様ノ關係ノ下ニ設立セラレタレトモ、其文字ハ則チ相同シキ能ハサルハ甚タ奇トスヘク、露國トノ條約ハ、清國ノ權利ヲ保明スルニ切ナルニ對シテ、獨逸トノ條約ハ、獨逸ノ權利ノ爲メニ表示スルトコロ多キアリ、コレカ爲メニ其解説甚タ區々タリ。或ハ租借條約ヲ以テ、完全ナル領土ノ割讓ナリト爲シ、或ハ之ニ反シテ、此種ノ條約ハ、其地域ノ統治權ヲ委任スルニ止リ、主權ハ讓與國ニ保留セラル、モノト爲ス。租借地ニ於ケル、讓受國ノ殖民經營ノ實際ヨリ云ハ、前者其當ヲ得タルカ如クナレトモ、法律論トシテハ、後者其眞ニ近シト爲ス。

此千八百九十八年ノ露清條約上ノ租借權ハ、日露戰爭後、我日本帝國ニ移轉シテ、其地域ハ今我支配ノ下ニ在リ。乃チ明治三十八年ポーツマス條約第五條、露國政府ハ、清國政府ノ承諾ヲ以テ、旅順口大連灣並ニ其附近ノ

領土及飲水ノ租借權其他……ヲ日本政府ニ移轉讓渡スト云フコトヲ約束シ日本政府ハ則チ同年ノ日清條約ヲ以テ、清國政府ノ承諾ヲ得テ、其租借權ヲ確立シタリ。由是觀之、租借地ナルモノハ、條約關係ニ依リテ支配セラレ、其條約上ノ權利ヲ移轉スルモ亦讓與國ノ承諾ヲ要スルコトヲ知ルヘク、領土權トシテハ、最モ制限セラレタルモノト謂ハサルヘカラス。

四、勢力範圍

勢力範圍ハ、別ニ利益範圍ノ稱アリ。一ノ獨立國家カ、他國ノ領土内、若クハ無主ノ地ニ就テ、其權勢ヲ樹テ、其利益ヲ占ムルノ目的ヲ以テ、他ノ國家ヲシテ此地域ニ干繋スルコト無カラムルモノヲ云フ。此地域ニ於ケル一ノ獨立國家ノ權利ハ、*ius excludendi alias* ナリ。此權利ハ、此地域ニ干繋スルコト無カラシメント欲スル所ノ他國家トノ條約ニ依ツテ設定シ得

勢力範圍
ノ性質

ヘク其ノ多クハ、勢力範圍ヲ設定スルノ必要アル國家間ノ相互的條約ノ形ヲ以テ成立ス。

勢力範圍ナルモノハ、其領土權タル性格極メテ薄弱ナルノミナラス、此語ハ、政治上及ヒ外交上、ニ對シ濫用セラル、爲メ、往々ニシテ無意義ニ失スルコト無キニアラスト雖モ、歐羅巴諸國ノ殖民歴史ヲ尋釋スルトキハ、コレ有ルノ洵トニ已ヲ得サルモノアルヲ知ルヲ得ヘシ。

中世以後、西班牙葡萄牙諸國、盛ニ殖民經營ヲ行フノ時ニ當リテ、其ノ領土獲得ノ觀念太々簡ナリ。乃チセバスタアン、カボットハ、帆船ノ甲板上ヨリ北亞米利加ノ海岸ヲ瞻望シテ、自ラ發見者ト稱シ、之ニ依リテ其領土獲得者タルコトヲ主張シ、羅馬法王、アレキサンデル第九世ハ、フェルデナン^ド及エサベラニ、西半球全部ニ於テ、領土ヲ獲得スルコトヲ許シタリ。此ノ如キ思想ハ、後世ニ傳リテ、近代ニ及ヒ、歐羅巴諸國ハ、阿弗利加ニ於テ、濱

領土思想

背面地

伯林會議

勢力範圍ノ由來

海地ヲ領有スルモノハ、其背面地ヲモ領有スルノ權利アルコトヲ主張スルコト久シ。然リト雖モ、背面地ナルモノ、固ト漠然トシテ際涯ナシ、且各國交互ニ背面地領有ヲ主張スルトキハ、遂ニ其領土權ノ衝突ヲ來タスコトヲ避クヘカラス、是レ千八百八十五年、伯林ニ於ケル列國會議ニテ、背面地領有權ヲ排斥シ、大凡土地ハ、確實ニ占領ヲ爲スニアラサレハ、領土權ヲ成サスト云フ原則ヲ立ルニ至レル所以ナリ。然ルニ列國ノ阿弗利加領土獲得熱ハ、此條約締結以後ニ於テ、却テ熾盛ヲ加フルモノアリ。其ノ確實ナル占領ヲ爲ス能ハサル土地ニ就テ、自己ノ勢力ヲ樹テ、利益ヲ占ムルノ素地ヲ作ル爲メニ、其土地ヲ相爭フヘキ懸念アル國家ト國家トノ間ニ條約ヲ結ヒテ、一國家ノ甲地域ニ對スル經營ニ就テ、他國家之レヲ妨クルコトナキ代償トシテ、他國家ノ乙地域ニ對スル經營ニ就テ、一國家之ヲ妨クルコトナキヲ約束ス、斯クシテ、甲地ヲ稱シテ一國家ノ勢力範圍ト爲シ、

乙地ヲ稱シテ他國家ノ勢力範圍ト爲ス、是レ即チ列國其阿弗利加領土獲得熱ヲ満足スル爲メニ、伯林條約ノ裏ヲ搔キタルモノト云フヘシ。英獨間、千八百八十六年南阿弗利加大平洋岸カメルーン境界等ニ關スル諸條約、千八百九十八年東阿弗利加境界サンジバル、グイテユ及ヒデラゴア灣ニ關スル諸條約アリ、英佛間、千八百八十五年トーゴ、カメハーン條約、千八百九十四年レーキシヤツド條約、千八百九十八年アルゼリア、ニジャー

ル、ソコト、マダカスカルニ關スル條約、千八百九十九年東スーダン境界條約等アリ、皆此種ノ條約ニ屬セリ。其他英佛間、暹羅ニ關スル協商、英露間波斯ニ關スル協商、獨露間、波斯ニ關スル協商、亦其類ヲ同クス。

其他千八百九十八年中、英國ハ、清國政府ヲシテ楊子江流域ヲ他國ニ割讓セサルコトヲ宣言セシメ、佛蘭西ハ、東京邊境諸省及ヒ海南嶋ニ就キ、我日本ハ福建省ニ就キ、同様ノ宣言ヲ求メタルヨリ、是等不割讓地域ヲ以テ、其

宣言ヲ要求シタル國ノ勢力範圍ト爲スモノナキニアラスト雖モ、所謂不割讓宣言ナルモノハ、清國自ラ其領土ノ完全ヲ保明セルモノニ過キスシテ、要求者ハ何等領土の權利又ハ利益ヲ得ルコトナシ、特ニ清國雲南省ハ英國政府ノ解釋ニ由レハ、楊子江流域タリ、佛國政府ノ解釋ニ由レハ、東京邊境ノ諸省ノ一タリ、一地域ニシテ兩者ニ共通ナルヲ見テモ、不割讓地域ハ勢力範圍ヲ以テ目スヘカラサルコト明白ナリ。又當時英露兩國間ニ、清國ニ於テ互ニ鐵道ヲ敷設セサル範圍ヲ協商シタルコトアリ、俗ニ之ヲ鐵道範圍ト爲スモ、是亦英露兩國企業上ノ契約ニ過キスシテ、何等領土權的性質ヲ含マサルナリ。

第二 經濟上ノ區別

經濟上ノ區別

古來經濟學者、好ミテ殖民地ノ經濟狀態ニ依リテ之ヲ分類ス。從テ其分

類方法二三ニシテ止ラサレトモ、此ニ暫ク其簡明ナルモノニ從ヘハ、之ヲ農業殖民地、拓殖殖民地、及ヒ商業殖民地ニ分ツヘシ。

一、農業殖民地

農業殖民地

農業殖民地トハ、其氣候、風土、人民ヲ移植スルニ適シ、其土地ハ耕作ニ適スルモノヲ指シ、加奈陀、濠太刺利亞、南阿弗利加、北阿弗利加及ヒ亞細亞ノ一部等コレニ屬ス。

二、拓殖殖民地

拓殖殖民地

此ニ拓殖殖民地ト云ルハ、獨逸語 *Pflanzungs Kolonien* ノ謂ナリ。印度東亞細亞、阿弗利加、中央亞米利加、西印度、南亞米利加、南洋各地コレニ屬シ、其地熱帶ニ在リ、殖民地的產物ヲ供給スルモノヲ指ス、故ニ或ハ之ヲ熱帶殖民

ト爲ス。

三、商業殖民地

商業殖民地

商業殖民地ハ、其地交通ノ要路ニ當リ、物貨集散ノ一中心點ヲ成スモノ、謂ナリ。香港、新嘉坡、亞典ノ如キ則チ此類ナリ。以上諸地ハ、其面積極メテ狹小ニシテ、其天然物若クハ地産ハ見ルニ足ラスト雖モ、其交通貿易上ノ地位極メテ重要ナルモノアリ、從テ是等商業殖民地ハ、自由港制度ヲ以テ、其港市ノ繁榮ヲ保ツヲ例トス。

以上三種ノ外ニ、經濟上ノ見地ヨリシテ、殖民地ノ類別ヲ設クルモノ、一二ニシテ足ラスト雖モ、只類別ヲ示シ得ルト云フニ止リテ、學問的研究ノ爲メニ實益ヲ見サルヲ以テ、此ニ之ヲ省クベシ。其他刑人殖民地ナルモノアリ、遠隔ニシテ、人口稀薄ナル處ヲ開拓スルニハ、刑徒ヲ送致シテ、其事ニ

服セシムルヨリ輕便且經濟的ナルハナク、今日開明殷富ヲ以テ誇ルト云フ殖民地ニシテ、其昔ハ刑徒流謫ノ處タルカ如キハ、世間其例甚タ饒カナリト雖モ、今日ハ之ヲ實行スル處甚タ稀レナリ。又殖民地ヲ其ノ占ムル所ノ地位、例セハ熱帶、溫帶、寒帶ニ依リテ分類シ、人種ノ區別、文明ノ程度、若クハ領土獲得ノ狀態ニ基テ、其異同ヲ算スルモノアリト雖モ、是レ皆學者自ラ其説明ノ便宜ニ依リテ相取捨スルモノニ外ナラス。若シ其實際ヲ云ハ、農業殖民地ト、拓殖殖民地トハ、多クノ場合ニ於テ相混一スヘク、一ノ殖民地ニシテ、經濟上ノ各種類ノ、二若クハ三ヲ兼スルモノモ亦コレ無キニアラス、是レ此ニコレヲ簡單ニ説キ去リテ、其要ヲ擧クルニ止メタル所以ナリ。獨リ法律上ノ區別ニ至リテハ、其論理自ラ明白ナラサルヘカラスシテ、本章較々之ヲ辯析スルニ力メタルハ、其ノ相混淆スヘカラサルモノアルヲ以テナリ。

第五章 世界殖民地ノ梗概

殖民地ノ梗概

試ニ此地球上ノ土地及ヒ人口ヲ三種ニ別ツ其第一ハ獨立國家ニ屬スルモノ、其二ハ殖民地ニ屬スルモノ、其三ハ以上二者何レニモ屬セサルモノ則チ是レナリ。而シテ今日ニアリテハ、其第三ニ屬スルモノハ極メテ寡クシテ、其大部分ハ則チ其第一若クハ第二ニ屬スヘク、其統計ニ就テ之ヲ要約スレハ、左ノ如キ言ヲ爲スヲ得ヘシ。

- 一、獨立國家ニシテ、殖民地ヲ支配スルモノハ、悉ク北半球ノ溫帶ニ在リ。
- 二、殖民地ニ屬スル人口ノ四分ノ三ハ、熱帶ニ在リ。
- 三、地球上ノ陸地ノ五分ノ二ハ殖民地ナリ。
- 四、世界總人口ノ三分ノ一ハ、殖民地ニ屬ス。
- 五、殖民地ノ輸入ハ、年々約三十億圓其四十パーセントハ其母國ヨリ輸入

セルモノタリ。

獨立國家ト其殖民地トノ面積及ヒ人口ニ就テハ、明治四十三年末、我拓殖局ニ於テ調査セルモノ、甚タ其要ヲ得タリ。

| | 面積 | 人口 |
|----------|------------|-------------|
| ▲英國 | 一一、四六七、二九四 | 三九六、二九四、七五四 |
| 本國 | 一一一、四〇〇 | 四五、〇〇八、四二三 |
| 殖民地 | 一一、三四五、八九四 | 三五一、二八六、三三一 |
| 内譯 | | |
| 印度 | 一、七七三、〇八八 | 二九四、三一七、〇八二 |
| 其他の亞細亞 | 一五三、六九四 | 七、七八二、八二九 |
| 歐洲 | 一一九 | 二三一、二〇四 |
| 濠洲及太平洋諸島 | 三、一九〇、一六八 | 五、九九七、一一一 |
| 亞弗利加 | 二、二〇三、九一五 | 三三、六〇六、八〇五 |
| 亞米利加 | 四、〇二四、九一〇 | 九、三四一、二九〇 |
| ▲米國 | 三、七〇三、〇三四 | 八四、八一七、四〇九 |
| 本國 | 二、九七四、一五九 | 七五、九九四、五七五 |

| | | |
|-------|-----------|------------|
| 殖民地 | 七二八、八七五 | 八、八二三、八三四 |
| 内譯 | | |
| 市哇 | 六、四九九 | 一五四、〇〇一 |
| アラスカ | 五九〇、八八四 | 六三、五九二 |
| ホルトリコ | 三、四三五 | 九五三、二四三 |
| 比律賓 | 一二七、八五三 | 七、六三五、四二六 |
| グアム | 二〇〇 | 一一、七六〇 |
| サモア | 五四 | 四、八一二 |
| ▲佛國 | 四、九八三、一八〇 | 八〇、九〇五、八九五 |
| 本國 | 二〇七、〇五四 | 三九、二五二、二四五 |
| 殖民地 | 四、七七六、一二六 | 四一、六五三、六五〇 |
| 内譯 | | |
| 亞細亞 | 三二〇、一七六 | 一六、五九四、〇〇〇 |
| 亞弗利加 | 四、四二一、九三四 | 二四、五七六、八五〇 |
| 亞米利加 | 三五、二二二 | 三九七、〇〇〇 |
| 大洋洲 | 八、七四四 | 八五、八〇〇 |
| ▲獨國 | 一、二三六、六〇〇 | 七五、一七八、二七八 |

| | | |
|--------|-----------|-------------|
| 本國 | 二〇八、七八〇 | 二〇八、七八〇 |
| 殖民地 | 一、〇二七、八二〇 | 一、〇二七、八二〇 |
| 內譯 | | |
| 亞弗利加 | 九三一、四六〇 | 一四、一二〇、〇〇〇 |
| 亞細亞 | 二〇〇 | 三三、〇〇〇 |
| 太平洋諸島 | 九六、一六〇 | 三九三、〇〇〇 |
| ▲露國 | | |
| 本國(歐露) | 六、八七八、八七五 | 一四三、一五八、五〇〇 |
| 殖民地 | 一、九一一、五四二 | 一二五、二〇一、九〇〇 |
| 內譯 | | |
| コウカサス | 一八〇、六〇三 | 一〇、九〇八、四〇〇 |
| 西比利亞 | 四、七八六、七三〇 | 七、〇五九、二〇〇 |
| ▲日本 | | |
| 本國 | 二六〇、八六九 | 六五、七七二、四九二 |
| 殖民地 | 一四六、五五四 | 四九、五八一、九二八 |
| 內譯 | | |
| 朝鮮 | 一一三、二一四 | 一六、一九〇、五六四 |
| 八六、〇〇〇 | | 一三、四八四、六二二 |

移民問題

第六章 移民問題

殖民ト移民トハ、一二甚タ相類似セル點アル爲メニ、之ヲ混視スルモノアリト雖モ、其性格ハ全ク相異リ、其政治上及ヒ經濟上ノ關係亦相同カラサルナリ。

人類其故土ヲ去リテ、他郷ニ勞作スルコトアリ、俗間之ヲ目シテ殖民又ハ移民ト云フ。然リト雖モ、殖民ハ、國家ノ領土的經營ナリ、時ニ母國ノ人民ヲ新領土ニ移出スルコトアリト雖モ、必スシモコレ有ルヲ必要トセスシテ、母國人民ヲ移出セサルモ、殖民經營タルヲ妨ケス。只其經營スルトコロハ、則チ國家ノ領土權ノ及フ處タルコトヲ要ス。然ルニ移民ハ之ト異

| | | |
|-----|--------|-----------|
| 臺灣 | 一三、四五八 | 三、二五二、五八九 |
| 樺太 | 一二、五〇〇 | 二六、二三六 |
| 關東洲 | 一、二五六 | 四二七、三二七 |

リテ、國家ノ領土權ト何等ノ關係ナク、國民其故土ヲ去リテ、他ノ國家ノ土地又ハ他國ノ殖民地ニ赴キ、其勞作ニ服スルモノヲ謂フ。殖民ハ主トシテ國家的經營ナリ、移民ハ主トシテ個人的營利行爲ナリ。

歐羅巴ノ移民

歐羅巴ハ、中世以後、到ル處人口不足ヲ見サルナク、從テ經濟上ヨリ、其人民ヲ移出シタルコトナシ、只宗教若クハ人種間ノ軋轢ヨリシテ、故土ヲ去リテ新世界ニ赴クモノ甚タ寡シトセスシテ、北米合衆國ナルモノハ則チ此種人民ニ依リテ、其基礎ヲ成シタリ。其後千八百二十年代、英國工業界初メテ蒸汽機械ヲ使用スルニ及ヒテ、工業勞働者其職ヲ失フモノ極メテ多數ナリ、英國政府則チコレカ救護ノ道ヲ求メテ、盛ニ之ヲ米國及ヒ濠洲ニ移出シタレトモ、其成績ハ極メテ不良ニシテ、到ル處英國移民排斥論ヲ高メタリ。蓋シ英國ニテ、出シ遣ルトコロノモノハ、米國濠洲等ニテ、之ヲ入ル、ヲ欲セサル劣等勞働者ナリ、米國濠洲ニテ、移入セント欲スルモノハ

英國ニテ、移出スルヲ欲セサルモノタリ。千八百四十年ジョン、ラッセルノ議院ニ報告スル所ノモノ、亦此趣旨ニ外ナラス。併ナカラ是ヨリ後歐羅巴大陸ニハ、戰爭、革命、騷動、饑饉、不景氣相續キ、他ノ一方ニハ航海業ノ進歩ト、米國ノ實業ノ發達トアリテ之ヲ誘フアリ、大陸人民、是ヨリ蕩々トシテ海ヲ渡リテ他ノ半球ニ赴ケリ。所謂移民ノ大勢ナルモノハ、此ノ如クニシテ其形ヲ成シ、獨逸ノ如キハ、千八百八十年代ニハ、年々二十萬人以上ノ移民ヲ出シタリ。同國ハ、商工業ノ發達ニ伴フテ、移出者減少シテ、今日ニテハ二萬人ヲ越ルコトナシト雖モ、奧洪國、露西亞、伊太利、巴爾幹諸地、今仍ホ盛ニ出稼人ヲ出シ、愛蘭人ハ、總數九百萬人ナレトモ、其五百萬人ハ既ニ故土ヲ去リテ他郷ニ住シ、歐羅巴大陸ヨリ移出スル出稼人ハ年々百五十萬人ヲ下ラス。而シテ是等移民ヲ受ケ入ル、モノハ、主トシテ北米合衆國ニシテ、同國ハ、年々多キハ百二十萬人、少キハ七八十萬人ヲ收容ス。

移民ノ原因及利害

移民ハ個人ノ營利行爲ニ出ルモノナリト雖モ、其原因ハ、概シテ生民不幸其堵ニ安サルニアリ。從テ多ク移民ヲ出ス處ニシテ、繁盛般富ナルハナク且移民ヲ出スコト多キトキハ、其本土ニ於テ勞力ノ缺乏、産業ノ不振ヲ來タシ、徵兵制度自治制度等、皆其惡影響ヲ受ケサルナシ。是レ各國共ニ移民制限法ヲ嚴ニシ、且國民ヲシテ其故土ニ定着セシムル爲メニ、甚タ力ムル所以ナリ。移民制限法ノ重ナルモノヲ舉クレハ、千八百九十七年獨逸移民法、千九百一年伊太利移民法、千九百三年奧地利移民法等ニシテ、我移民保護法亦嚴格ナル制限主義ヲ取レリ。歐羅巴諸國ノ法律ハ、主トシテ移民周旋及ヒ輸送ヲ業トスルモノヲ取締リ、大凡移住出稼ヲ誘導スヘキ手段方法ハ、總テ禁止シ、廣告、引札、張札、演說等ニ就テ、嚴ニ之ヲ厲行シ、又旅行免狀、渡航免許等ニ依リテ其移出セントスルモノヲ制限シ、兵役ヲ免カレントスルモノ、家族扶養ノ義務若クハ債務ヲ避ケントスルモノヲ禁遏

移民制限法

移民收容
有害
混濁
入國者制限法

ス。我移民保護法亦其第四條ヲ以テ、行政廳ハ、移民保護ノ爲、若ハ公安保持ノ爲、又ハ外交上必要ト認ムルトキハ、移民ノ渡航ヲ差止メ、又ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得ト規定ス。

而シテ他國ノ移民ヲ受ケ入ル、モノハ、之ニ依リテ貧困者、疾病癡癩者、無教育者、不德義漢ヲ招對シテ、其社會ノ混濁ヲ速クノミナラス、人種的軋轢、職業的爭鬭ヲ滋クスルヲ避クヘカラス。北米合衆國ハ、天賦無限、勞力ノ需要甚タ盛ナリト稱スルモ、仍ホ入國者多キニ從テ、國中失職者ヲ出スコト甚タ多キヲ見ルノミナラス、内外勞働者間ニ、利害ノ一致ヲ缺クコト數ハナリ。是レ北米合衆國、濠洲及ヒ南阿弗利加ニ於テ入國者制限法ヲ設ケテ、其取締ヲ嚴ニスル所以ニシテ、米國ノ千八百六十二年、六十九年、七十五年、八十五年、九十一年ノ諸法律ニテ、漸次入國者ノ制限ヲ嚴密ニシ、英國千九百四年ノ法律、亦入國者ニ對シテ嚴格ナル制限主義ヲ取レリ。契

入國者制限法

約勞働者ノ入國ヲ禁スルモノハ、北米合衆國ト濠洲トニシテ、南阿モ、近ク此主義ヲ取レリ。

乃チ移民ハ、之ヲ出スモノ、其國ノ利益ニアラスト爲シ、之ヲ受ケ入ル、モノ、亦甚タ之ヲ喜ハス、兩者共ニ、法律及ヒ行政手段ヲ以テ之ヲ制限スルニ急ナレトモ、移民ノ流動、今仍ホ已マサルハ、畢竟世間未タ其堵ニ安セサルモノ多キニコレ由ルヘシ。

移民流動今仍ラモ
ヤルハ畢竟在古未ゾ
其堵ニ安セサルニ在リ

第二編 歷史的研究

第一 歐米諸國ノ殖民經營

歐羅巴ノ古代、希臘羅馬ノ世ニ於テ、既ニ殖民ナル語アリテ、人民其故土ヲ去リテ、居處ヲ求ムルモノアリ、遠隔ノ地ヲ得テ、團體生活ヲ經始スルモノアリト雖モ、其事、今日ノ殖民經營ト相同カラス、又其ノ施設スルトコロノ

モノハ、今日ノ事實ト、何等ノ連絡モコレ無キヲ以テ、此ニ之ヲ述フルノ必要ナシ。

然ラハ近世ノ殖民經營ノ來歴ハ、何ノ時ニ遡リ得ヘキカ、*Age of Discovery* ハ曰ク歐羅巴ノ殖民史ハ、千四百四年、ジエンド、ベゼンコトカカナリ一嶋ヲ獲得シタル時ニ始ル。當時ハ、恰モコルムバスカ海洋ニ航行シテ、歐羅巴ノ爲メニ領土發見時代ヲ開キタルヲ以テ、近世ノ殖民事業ハ、此ニ其端ヲ起シタルモノト云フヲ得ヘシト。ベゼンコトハノルマン人ナリ、カナリー嶋ヲ占領シテ後、其權利ヲ西班牙國王ニ讓渡シタリ。乃チ近世殖民史ハ、西班牙葡萄牙ニ起ルト云フヲ妨ケサルナリ。

十五世紀及十六世紀中、西班牙葡萄牙ノ領土獲得貿易擴張ヲカムルヤ、其活動世界ヲ驚カスモノアリ。蓋シ古代地中海ニ臨メル各地人民、頗ル對外經營ヲ好ミ、就中フェニシヤ人最モ其智識技能ニ富ム。西班牙葡萄牙

歐羅巴人
ノ殖民經營

諸國ハ、乃チ之ヲ繼承シ、其航海術ノ進歩ト、商業上ノ智識トヲ利用シテ、以テ其功ヲ收ム。コロムバスハフエニシヤ人ナリ、バスコ、デ、ガマ亦其傳承スルトコロヲ等シクス。此二人ハ則チ西班牙葡萄牙諸國ノ爲メニ、其殖民經營ノ基礎ヲ開キタリ。

是ヨリ先キ、十三世紀中葉、伊太利旅行家マルコポロ深ク支那内地ニ入り元ノ始祖ヲ助ケテ、其政務ニ參與シ、當時最モ東洋ノ事ヲ解スルノ人タリ。其著書一タビ歐羅巴ニ傳ハルヤ、之ニ依リテ、大ニ西歐諸國民ノ領土發見熱ヲ高ム。其書中日本ノ事ヲ記シテ、國中金銀寶石ヲ以テ充滿シ、家屋橋梁皆貴金石ナルコトヲ述フ、コロムバスノ航海ノ目的ハ、則チ此日本ヲ發見スルニアリシヲ傳フ。其後、織田、豐臣時代及ヒ徳川幕府ノ時ニ當リテ、西班牙其他諸國ノ我ニ來リ交ヲ求ムルモノ、其志專ラ殖民經營ニアリシハ、蓋シ其由來久シキモノアリ。

十五六世紀、西班牙葡萄牙諸國民盛ニ領土ヲ擴張スルヤ、大陸諸國相臨ミテ風ヲ成シ、大凡國ヲ成スモノ、皆殖民經營ヲ企テサルハナク、デーン、ブラ、ンデンブルグ、侯領ノ小國ヲ以テシテ仍ホ多クノ殖民地ヲ有スルコトヲ以テ誇ト爲スニ至ル。

然リト雖モ、此時代ニ於ケル西班牙葡萄牙諸國ノ殖民政策ナルモノハ、其新領土ノ人民ヲ使役シテ、其土地ノ天富ヲ畧取スルニアリテ、就中鑛業ハ當時ノ主一目的タリ、乃チ其金銀等貴金屬ヲ採取シテ、之ヲ母國ニ收ムルニ專ラニシテ、其農業ノ發達ヲ圖リ、商業ノ利益ヲ進ムルト云フカ如キハ當時ノ爲政者ノ殆ト知ルニ及ハサルトコロナリ。且其土人ヲ虐使シ、財物ヲ誅求スルニ專ナルヤ、到ル處一揆反亂ヲ激成シテ、統治頗ル困難ヲ極メ、遂ニ其殖民地ノ多クヲ失ヒ、母國モ亦疲弊ヲ招クニ終レリ。

英國ハ、西班牙葡萄牙諸國ノ失敗ノ後ヲ承ケテ、大殖民國トナリ、東西西半

球到ル處ニ其領土ヲ獲得シ、專ラ商業ノ發達ヲ圖リ、其土着人民ヲ治ムルノ方法ハ、大ニ從來ノ諸國ニ異ナリテ、殖民地人民ノ利益ノ爲メニ、殖民地ノ經營ヲ進ムルト云フヲ旨トス。北米合衆國獨立ノ事アリテ後ハ、一層殖民地ニ自由自治ヲ許シテ、土着人民ヲシテ、其堵ニ安シ其業ヲ樂マシム。其加奈陀、濠洲及ヒ南阿弗利加ハ、憲法ノ下ニ自治政治ヲ行ヒ、印度及ヒ埃及人民、皆英國政府ノ善政美法ノ下ニ心服セサルハナク、今日殖民經營ヲ爲スモノ、皆英國ノ政策ヲ取リテ模範ト爲スノ風アリ。尤モ英國ノ放任主義、亦時ニ議スヘキモノニアラスシテ、往年英相チエムバレン帝國主義ヲ唱ヘテヨリ以來、母子國間ノ關係ヲ親密ニシ共働共助ノ實ヲ舉クヘシト云フ議論、一世ヲ風靡スルモノアリ。但其互惠關稅經畫ハ、未タ其功ヲ全クスルニ至ラス、國防費分擔、陸海防備ノ配布等ニ就テハ未タ其具體的成案ヲ見ル能ハサルナリ。

歐羅巴ニ於テ、英國ニ次クモノヲ佛蘭西ト爲ス。舊時ニ於ケル佛國ノ對外經營ハ、概テ失敗ニシ歸タレトモ、第三共和政府ノ施設ハ則チ甚タ見ルニ足ルモノアリ。且其亞細亞阿弗利加ニ於テ、廣大ナル領土ヲ所有シ、其殖民地及ヒ保護國皆地中海沿岸ニ形勝ヲ占ムル等、亦世界ノ大殖民國トシテ、英國ト相雁行スルニ足ル。其他獨逸、和蘭、白耳義諸國、亦各々相當ノ海外領土アリテ、頗ル其經營ニカム。

北米合衆國ハ、由來亞米利加ノ陸上ノ經營ニ專ラニシテ、手ヲ海外ニ伸スコトナカリシガ、近年布哇ヲ併合シ、並律賓ヲ獲得シ、及ヒ巴奈馬運河ヲ經始シテヨリ後、頗ル殖民經營ニ志アルモノ、如シ。

第二 大日本帝國ノ領土

我大日本帝國、殖民經營ヲ以テ世ニ知ラレタルハ、最近ノ事ニ屬スレトモ

國神ノ本
土

其國土發達ノ次第ハ、其由テ來ル甚タ久シキモノアリ。

北進ノ次
第

太古ハ茫漠未タ詳ニ之ヲ知ル能ハサレトモ、我大和民族ハ、其初メ居テ日向國ニ定メ、其ヨリ海ヲ涉リテ、大和國ニ移リ、此ニ民族國ヲ成スノ基礎ヲ立タルモノニシテ、神武天皇は、まの岡ニ登リ、やまごの國形ヲ見放タマヒテ、蜻蛉ノ臂咭セル如ト宣給ヒシコトアリ、又萬葉集、舒明天皇登香具山望國之時御製歌ニハ、山常庭村山有等取與呂布天乃香具山騰立國見乎爲者國原波煙立籠海原波加萬目立多都何憐國會蜻嶋八間跡能國者トアリテ、天皇ハ西曆六百二十九年ヨリ六百四十年ニ至ル間、御世治メタマヒルナリ、此時代ニ於ケル我國情ハ、御歌ニ依ツテ、其一端ヲ知ルヲ得ヘク。我皇朝ノ初メニハ、九州ニ熊襲アリ、東北ニハ蝦夷アリ、中央ニスラ土蜘蛛其他ノ土族アリテ、皇軍ニ反抗シタリト云ヘハ、其多事推シテ知ルヲ得ヘク熊襲先ツ平キ、中央部漸ク皇化ニ浴スルニ及ヒテモ、東北地方ノ經營ハ極

中世ノ情
形

メテ遅々タリ。多賀城碑ハ、天平寶字年中、即チ八世紀ノ半頃ニ建ツルトロノモノニシテ、碑ニ去蝦夷國界百二十里ナル文字アリ、古代ノ百二十里ハ今日ノ二十里ナリ、多賀城趾ハ仙臺ニ在ルヲ以テ、仙臺ノ北二十里ハ、蝦夷ノ領土タリシコトヲ證スヘシ。其後桓武帝ノ御世、坂上田村麿東征シテ、津輕海峽ニ達シ、其膽澤城ヲ築キタルハ西曆八百二年ニアリ。其後後花園帝嘉曆三年、即チ千四百四十三年、武田太郎信廣海ヲ越テ蝦夷ノ國ニ進入シ、土地ヲ經テ七十里、今ノ松前即チ是レナリ。中古以後、我爲政者其力ヲ內政ニ專ラニシテ、對外經營ヲ事トセス、內亂亦頻々タルヲ以テ、天下復タ領土擴張ヲ圖ルモノナク、却テ元寇ノ來リテ我ヲ征服セントスルアリ、其後西班牙葡萄牙亦我ヲ殖民經營ヲ行フノ地ト爲サント企ルニ至ル。中世以後、歐洲及諸國殖民地獲得ヲ相競フノ時ニ至リテ、我國民獨リ退嬰是レ專ラナリシハ、此間國內戰亂斷エス、政府有力

者共ニ其力ヲ對外經營ニ致スニ違アラサルニ由ルヘク、我自ラ對外經營ヲ爲サ、ルノミナラス、却テ他國民ノ野心ヲ逞クスル處トナリ、之ヲ前ニシテハ元寇ノ來リ侵スアリ、之ヲ後ニシテハ西班牙葡萄牙等我ニ就テ殖民政策ヲ行ハントシタルコトスラコレ有リ、既ニシテ徳川幕府ハ、外國ト交通スルノ危險ヲ虞リ、寛永鎖國令ヲ發シテ、一切船舶ノ出入ヲ禁シ、只和蘭船ニ限り、長崎ニ出入スルコトヲ許シ、以テ幕末ニ至ル。中世退嬰ノ日ニアリテモ、我國民雄心壯圖ニ富ミ、織田豊臣時代及ヒ徳川初年ニアリテハ我船舶ノ遠洋航海ニ從事スルモノ極メテ多カリシカ、寛永鎖國令ノ爲メニ悉ク絶止シタリ。

然リト雖我帝國領土擴張ノ事ハ、此鎖國ノ間ニ其端ヲ起シ、開國維新ニ及ヒテ、最モ其ノ發暢ヲ見ル。

徳川幕府ノ末葉、我北邊ノ事ヲ傳フルモノ頻々タリ、幕府則チ間宮林藏松

樺太

田傳十郎ニ命シテ樺太ヲ探檢セシム。樺太ハ蝦夷人韃靼人ノ互市場ニシテ、兩民族雜處シテ、數々紛争ヲ醸シ、蝦夷人常ニ我松前藩ノ保護ヲ求ム、韃靼人ハ、則チ露國官憲ノ後援ヲ恃ミテ、放縱至ラサルナシ。且露西亞ハ其東方經營ヲ進ムルニ從テ、權勢ヲ此ニ樹ツルヲ力メ、此ニ日露兩國ノ交渉ヲ引起スニ至ル。初メ安政二年(一八五五)日露條約、薩哈連島ハ日露兩國間ニ境界ヲ定メス、總テ舊ニ依ルコトヲ約定シタレトモ、其不便且不條理ナルヤ論ナク、文久二年(一八六二)我使節松平石見守等、露都ニ赴キテ、コレカ爲メニ交渉談判ヲ重ネ、遂ニ北緯五十度ヲ境界トシテ、同島ヲ日露ノ間ニ相分チ、其境界線ハ實地ニ就テ測定スルコトヲ約ス。其以後幕府大政ヲ奉還シ、皇政維新ノ事アリ、內政多事、境界測定ヲ爲サス、露都條約亦消滅ス。維新後、副島外務卿ハ、露國ニ交渉スルニ、其樺太ニ對スル權利ヲ放棄セシムル代償トシテ、我ヨリ二百萬兩ヲ支拂フヘキコトヲ以テシ、議未

タ成ラス、偶々黒田北海開拓使長官樺太ハ磯崎不毛ノ地須ク之ヲ放棄シテ専ラカヲ北海道ニ盡スヘキコトヲ建議スルアリ。政府乃チ榎本駐露公使ヲシテ、露相ゴルチャコフト協商セシメ、樺太千島交換條約ヲ締結シ我ハ千島ヲ獲タリ。

小笠原島

小笠原島ハ、文祿二年(一五九三)我小笠原貞頼ノ發見スルトコロナリ。幕府鎖國令ヲ發シテ後ハ、我國民遠洋航行ニ堪フルノ船舶ヲ有セス、此島亦殆ト委置セラレタレトモ、幕府ノ末葉、官吏ヲ遣ハシ、移民ヲ送り、稍々經營ニカム。初メ文政十年(一八二七)、英國船長此島ニ來リテ、國旗ヲ立ツ、其後嘉永六年(一八五三)、米國水師提督ベルリ、船ヲ此ニ寄セテ、其ノ米國領土タルコトヲ宣言シタリ。我同島經營其歩ヲ進ムルニ及ヒテ、米國ハ抗議ヲ議シタレトモ、我カ容ル、トコロトナラス。同島行政ハ、明治八年ニ至リテ確立シ、遂ニ我本土ノ一部ニ編入セラル。

沖繩

沖繩ハ、琉球國トシテ東洋諸國ニ知ラル、ヤ久シク、我推古天皇ノ御世ニ來リテ朝貢ノ禮ヲ取り、又支那ニ對シテモ、古ヨリ貢納臣服ノ關係ヲ結ヒ其地歩甚タ明ナラス。源爲朝之ヲ征服シテ、其子孫王統ヲ成シ、慶長十四年、薩摩ノ島津氏又之ヲ征服シテ、附屬ト爲シタレトモ、其支那トノ關係、即チ依然トシテ舊ノ如シ。

且琉球國主ハ、弘化六年ヲ以テ、北米合衆國ト通商條約ヲ締結シ、安政五年佛蘭西ト、同六年和蘭ト、通商約條ヲ締結シ、獨立國家トシテ、是等諸國ト交通シ來レリ。

然ルニ、明治五年、我帝國政府ハ、琉球國ヲ以テ我藩ト爲シ、國主尙家ヲ我華族ト爲シ、明治十二年ニ至リテ、藩ヲ廢シテ、沖繩縣ヲ置キ、我內務省ノ管轄ノ下ニ屬セシム。

初メ琉球ヲ我藩トスルヤ、之ヲ各條約國ニ通告シタルニ、米國公使ハ、其ノ

我ニ併合セラレタルコトヲ承認シ、且通商條約上ノ關係ヲ繼續スヘキコトヲ要求シ、我政府之ヲ許シ、佛國亦コレニ異議ヲ挾マス、獨逸及伊太利亦米國ニ均霑スヘキコトヲ求メ、我コレヲ許ス。清國ニ對シテハ、直接ノ交渉ヲ爲サスシテ、從來朝貢弔賀ノ儀ヲ具フル處タリシ福州琉球館ヲ廢止シ、沖繩ト清國トノ間ノ直接交通ヲ禁止ス。斯クシテ我カ琉球處分ハ完結シタリ。

明治七年、琉球人漂流シテ臺灣ニ上陸シ、蕃民ノ爲メニ殺戮セラル、當時臺灣ハ清國ノ領土タルノ故ヲ以テ、我ハ使節ヲ北京ニ遣ハシテ其責ヲ問ヒ清國政府遂ニ其責任ヲ認メテ被害民救恤金十萬兩ヲ我ニ償ヘリ。此談判ハ、北京政府ヲシテ琉球ノ我領土タルコトヲ明白ニ承認セシムルモノタリ、當時清國大官左宗棠ハ、伊犁問題ヲ以テ露國ト交渉談判ノ事ニ當ル、彼ハ琉球ノ日本領土タルコトヲ認ムルヲ不可ナリトシテ、假令伊犁ヲ露

國ニ與フルモ、琉球ノ崇主權ハ保持セサルヘカラサルコトヲ切言シタレトモ、北京政府之ヲ容レヌシテ、我ニ屈シタリト云フ。

我大日本帝國ハ、今日世界ノ一大殖民國タリト雖モ、我ハ未タ專ラ侵畧政策ヲ取リタルコトアラヌ、其ノ領土ヲ擴張シタルハ、一ニ自衛ノ必要上、已ラ得スシテ取リタル手段ノ結果ニ出ツ。

我日本ノ地形狹長、亞細亞ノ極東ニ嶋帝國ヲ形クル、其ノ四面皆海ナルヤ世界國民東洋ノ事ニ從フモノ、皆我ニ集中スルノ姿アリ。其亞細亞大陸ヲ距ル甚タ遠カラサルヤ、他ノ大陸經營ハ、一々我ニ其壓力ヲ及ホサ、ルナシ。幕府ノ末葉ニ於ケル樺太事件ノ如キハ、我ハ水陸二面ヨリ強壓力ヲ受ケサルモノト云フヲ得ヘク、幕府使節ト露國政府トハ、樺太ノ中央北緯五十度ノ地點ヲ以テ日露ノ境界ト爲シ、南北ヲ分有スルコトヲ約シタレトモ、其境界線ヲ益定スルニ至ラスシテ、明治維新トナリ、條約亦無効ニ

歸シ、明治八年五月七日、聖彼得堡ニ於テ締結シタル榎本ゴルチャコフ條約ニテ、樺太ト千嶋トヲ交換シテ、一タヒ其約ヲ結ビ、北方ハ是レヨリ事ナキヲ得タレトモ、朝鮮半嶋ハ是レヨリ多事トナレリ。

朝鮮

朝鮮半嶋ハ固ト獨立國ニシテ、我ト支那トニ相親ムコト久シク、其水陸要害ノ地、一々我ニ緊切ナルヲ以テ、半嶋ニ事アレハ則チ我ハ及ヲ腹心ニ擬セラシム、情アリ、是レ我國民カ、半嶋ノ一事一故ヲ以テ、己ノ存亡ニ關スルモノト爲シ、其心ヲ安スルコト能ハサル所以ナリ。且此半嶋ハ我國民ノ亞細亞ニ於ケル經濟的經營ヲ爲スモノニ對シテハ、當面ノ障屏タリ、我權勢利益ニシテ、此處ニ樹立スヘカラサルカ如クハ、我對外經營ハ復タ云フニ足ラサルナリ。然ルニ我國中ノ未タ展開セサルニ當リテ、此半嶋ハ、既ニ清國政府ノ手ヲ着クル所トナリ、其都府港市ハ、我ト支那ト相對抗スルノ競争場タリ、其勢力ハ時ニ消長アリト雖モ、清ハ其強大ヲ恃ミテ、專横至

ラサルナリ、我實力亦未タコレト相對抗スヘキモノヲ具ヘス。明治十八年四月十八日伊藤博文李鴻章條約、即チ天津條約ナルモノハ、日清兩國共ニ清國ヨリ撤兵シ、清國政府ヲシテ、日本カ半嶋ニ於テ己ト對等ノ地位ニ在ルコトヲ承認セシメタルハ、當時ニアリテハ、我外交ノ大成功タルヲ疑ハス、其後我帝國ノ地位大ニ進ミ、我カ半嶋ニ於ケル權利利益關係重大ヲ加フルニ及ヒテ、清國政府乃チ威力ヲ持シテ、半嶋ノ事ヲ專ラニセントシテ已マス。清ハ半嶋ヲ併呑シテ其強大ヲ加ヘントシ、我ハ半嶋ノ清國ノ手ニ落ツルヲ以テ其死命ヲ制セラル、モノト爲シ、對抗久シキニ涉リテ、此ニ明治二十七八年戰役アリ。明治二十八年四月十七日調印日清講和條約ニ依リテ、朝鮮ハ、清國ニ對シテ、全ク獨立セル國家ナルコトヲ確定シ、我ハ戰勝ノ權利トシテ、將タ將來ノ平和ノ保護トシテ、遼東半嶋及ヒ臺灣澎湖諸嶋ヲ清國ヨリ讓受ケタリ。但シ遼東半嶋ハ、獨露佛、三國ノ忠告ニ

省ミテ、一定ノ償金ヲ取リテ、之ヲ還附シタリ。

明治二十八年講和條約ニテ、我ハ清國勢力ヲ半島ヨリ排除シ得タレトモ之ニ代リテ現ハレタルヲ露國ト爲ス。露國ハ其悉伯利亞經營成ルヤ、滿洲ヲ併セ、更ニ朝鮮半島ヲ領有シテ、以テ其大經畫ヲ定成セントス。彼ハ單ニ半島ノ政治上經濟上ノ權勢ヲ得ルヲ以テ足レリトセスシテ、馬山浦ヲ以テ其大軍港ト爲シ、旅順浦潮ト相連ネテ、極東ノ海權ヲ獨占セント爲ス。馬山浦ハ我對島ト呼應ノ間ニアリ、露國ノ經營ニシテ若シ成ラハ、我帝國ハ俎上ノ櫛ナリ。假令攻畧セラレストモ、其威壓ノ下ニ、自滅スルノ外ナシ。是レ明治三十五年ニ涉ル日露交渉アル所以ニシテ、不幸ニシテ協議成ラス、此ニ明治三十七八年戰役アリ。明治三十八年九月五日ポーツマスニ於テ調印シタル日露講和條約ヲ以テ、露國ハ全ク朝鮮ノ事ニ干與セサルコトヲ約束シ、遼東半島、樺太南半部及ヒ東清鐵道ノ南半ヲ我ニ割

讓ス。

初メ朝鮮半島ト日本トノ間、保護關係アルヤ久シク、明治三十七年八月二十三日日韓條約ナルモノ成リ、外交上ノ事ハ、日本政府ト協議スルヲ要シ日本ノ力ニ依リテ、施政ノ改善ヲ行フヲ約シ。明治四十年七月二十四日ノ日韓協約ニ依リテ、完全ナル保護國トナリテ、是ヨリ統監政治行ハレ。明治四十三年八月二十二日韓國併合條約成リ、同半島ハ此ニ全ク帝國ノ領土トナレリ。

歴史ヲ案スルニ、我大日本ハ、建國ノ初ヨリ、朝鮮半島トノ交通アリ。我ハ嶋國ナリト雖モ、日本海ノ航行甚タ早ク發達シタル爲メニ、海外ニ對スル利害体感極メテ緊切ナルモノアリ。我文物ノ進歩カ、此海外交通ニ賴ルモノ多キト同時ニ、我危懼亦海外ヨリ來ルモノ多シ。乃チ熊襲ノ九州ニ跋扈スルヤ、神功皇后ノ神算、先ツ新羅ヲ征討シテ、而シテ後ニ之ヲ戡定ス

歴史上ヨ
リ出テ來
ル結論

ルコトヲ得。北方蝦夷亦靺鞨ト海ヲ隔テ、氣脈ヲ相通シテ、常ニ相呼應ス。靺鞨ハ肅慎國ニシテ、高麗ノ北ニアリ、今日ノ咸鏡道黑龍江地方ニ涉ル廣大ノ地ヲ占メ、其勢強盛ヲ極ム。齊明天皇ノ御代、阿部比良夫蝦夷ヲ征服スルニ際シテ、舟師二百艘ヲ率キテ、肅慎ヲ撃チ、之ニ依リテ、蝦夷ノ勢力ヲ殺クヲ得タリ。其後大韃靼人、日本ノ地ニ侵入シ、土民ヲ煽動シテ、跳梁橫行五十有餘年。坂上田村麻呂之ヲ驅逐シテ、北邊初メテ定マレリ。而シテ高麗ハ、遼東半嶋ヲ領有シテ、初メテ其強大ヲ成シタレトモ、其背面ニ肅慎ノ之ヲ壓迫スルアリテ、遂ニ自ラ衰弱ヲ招キタリ。是等ノ事歴ニ依リテ之ヲ稽フルニ、我大日本帝國ノ完全ヲ保タント欲セハ、朝鮮半嶋ヲ收メテ、我版圖ト爲サ、ルヘカラス。朝鮮ノ領有ヲ確保セント欲セハ、其勢力ヲ遼東半嶋ニ及ホシ、其背後ノ壓迫ヲ除カサルヘカラス。我北方ノ安固ヲ保ツ、亦海外ヨリ來ルトコロノ勢力ヲ排除スルニアリ。徳川幕府

ノ末葉、樺太問題アリ、明治維新以來、朝鮮問題起リテ、露西亞及ヒ支那トノ外交錯綜ヲ極メ、明治二十七八年戰役、明治三十七八年戰役ヲ經テ、我ハ朝鮮ヲ併合シ、遼東ヲ租借シ、南滿洲鐵道ヲ獲テ、滿洲南部ヲ我勢力範圍ト爲シ、樺太ノ南半ヲ獲得シタルハ、則チ我建國以來ノ歴史的要求ヲ滿タシ、自然的形體ヲ成シタルモノニ外ナラス。其臺灣ヲ得テ、海外殖民地ノ規模ヲ立テ、琉球、小笠原嶋アリテ、我海洋ニ對スル障屏ヲ爲スモノ、亦帝國ノ國ヲ成スノ歴史的自然的結果タリ。誰カ我ヲ侵畧主義ヲ取ルモノト云フ、我ハ我歴史ノ教ユルトコロ、自然ノ導クトコロニ從テ、其自存ノ要件ヲ全クスルモノニ外ナラス。

第三編 殖民地ノ統治組織

第一章 殖民地統治權

源統治ノ根

殖民地ハ、獨立國家ニアラスシテ、獨立國家ニ附屬シテ存在スルモノナリ。隨テ、其固有ノ統治權ナルモノハコレ無ク、統治ノ根原ハ、其所屬國家ニアリ。

我大日本帝國ノ主權ハ天皇ニ在リ、天皇ハ帝國ノ内外ニ於テ、統治權ヲ總攬ス、我殖民地ノ統治權ノ天皇ニ在ルコトハ、多言ヲ要セサルナリ。或ハ天皇ハ帝國憲法ニ依リテ、殖民地ヲ統治スルモノナリ、帝國憲法第四條ノ規定則チ是レナリト云フモノアレトモ、是レ大ニ誤レリ。主權ハ絶對且無制限ナリ、其至高至大ノ權能ハ、主權者之ヲ固有シ、他ヨリ附與セラレタルモノニアラサルナリ。我天皇ノ統治權ハ、帝國憲法ニ依リテ初メテ附與セラレタルモノニアラスシテ、憲法ハ則チ天皇ニ依リテ帝國國民ニ附與

セラレタルモノナリ。且憲法ハ、帝國內ノ統治狀態ヲ規定スルモノニシテ、其以外ニ及フコトナク、殖民地ノ統治ハ、憲法ノ規定ニ依ラスシテ行ハル、モノ多キヲ見テモ、我天皇ノ統治權ハ憲法ノ上ニ超出シ、憲法ノ規定以外ニ於テ、其高權ヲ行フモノタルコトヲ知ルヲ得ヘシ。

殖民地ノ統治者

獨立國家ノ主權者又ハ元首カ、一定ノ政務ヲ親ラ執リ行ヒ、之ヲ其國家機關ニ委任セサルモノ、一二ニシテ足ラス、軍事、外交、殖民經營ノ如キモノ、即チ是レナリ。君主政體ヲ行フ國ニ於テ、君主自カラ之ヲ行フハ、當然ニシテ論究ノ必要ナシ。君主政體ナラサル處ニ於テモ、法制上若クハ實際上之ヲ國家元首ノ親政ニ屬セシムルノ實例甚タ多シ、是レ其政務ノ性質上之ヲ國家ノ一部機關又ハ合議體ニ委任スル能ハサルモノアル爲メナリ。獨逸帝國ノ主權ハ、其聯邦參事會ト云フ合議體ニ在リテ、其ノ對外經營ニ利アラサルヤ、宰相ビスマークハ此事ヲ擧ケテ皇帝ニ一任スヘキコトヲ

主張スルヤ久シク、遂ニ千八百八十六年四月十七日、法律第一條ヲ以テ「獨逸皇帝ハ帝國ノ名ニ於テ保護領ノ保護權ヲ行フ」コトヲ規定セリ、此法律ハ千九百年ノ改正ニ依リテ、一層此趣旨ヲ明白ニスルヲ得タリ。英國ハ古來主權國會ニ在リト稱スルトコロナレトモ、英國皇帝ハ、殖民地ノ統治權ヲ總攬シ、一定ノ事柄ニ就テ兩院ノ參與ヲ許スノミ。其他共和國ノ大統領ニシテ、國會ノ委任ニ依リテ、對外經營ノ事ニ從フノ狀態ハ、殆ト君主ト相異ナルモノナシ。

憲法ト殖 民地

蓋シ今日ノ歐米諸國ノ憲法ハ、主トシテ一國家内ノ君主、貴族、民衆間ノ政治關係ヲ定メ、國家ノ各機關ノ間ノ相獨立スル所以、相調和スル所以ヲ規定スルヲ旨トシ、立憲政治ナルモノハ、立法機關、司法機關、及ヒ行政機關ノ互ニ分立シテ、國務ヲ相成スノ道ヲ立ツルヲ期ス。且十九世紀末、二十世紀ニ及ヒテ發達シタル國際關係、對外經營、殖民政策等ハ、憲法起草者、立憲

政治肇造者ノ想思シ得サル所ノ事タリ。近時憲法ヲ制定スルモノ、亦皆其舊ニ依リテ其要ヲ定ム。夫レ既ニ其事ヲ想思シ得サルナリ、其ノ規定スルトコロ、往々其事ニ適ハサルモノアルハ、固ヨリ其處ニシテ、佛人 *Maitre* カ、國家ノ要務ヲ、悉ク憲法ノ明文ニ原ケントスルノ、危險且困難多キヲ說ケルハ、此邊ノ事情ヲ云ルモノナルヘク、嚴格ナル成文憲法ヲ有スル國ニアリテモ、猶ホ慣行上ノ實例ニ依リ、若クハ裁判官ノ解釋ニ依リテ以テ變通適應ノ道ヲ求ムルヲ常トス、況ヤ憲法適用地域外ノ殖民地ノ事ニ於テヤ、殖民地ノ統治組織ヲ談スルモノ、強テ憲法ニ拘泥スルアラハ恐クハ其義ニ通シ難カルヘシ。

國家ハ憲法ヲ作り得ルモ、憲法ハ國家ヲ作り得ス、其本末源流ノ分自ラ明カナリ、從テ國家ハ、憲法ノ規定ナキトコロニ於テ、其必然ノ任務ヲ果スコトヲ得サルヘカラス。殖民地ノ統治及ヒ經營ハ、今日ノ國家ノ重大要務

ナリ。且憲法ハ國家本土ニ行ハル、ヲ原則ト爲シ、憲法行ハル、ト云フハ、其地域ニ於テハ人民カ、國會議員ヲ選出シテ、國家ノ立法政務ニ參與スルコトヲ云フニ外ナラスシテ、此事ヤ、今日ノ殖民地ニ行ハルヘキニアラス。佛國千七百九十五年憲法カ、佛蘭西殖民地ハ、共和國ノ一部ニシテ、本土ト等シク、憲法ノ行ハル處ナリト規定シタルハ、革命時代ノ空想ヲ描寫セルモノニ外ナラスシテ、遂ニ實行ニ至ラスシテ已ミ、其後共和政府ハ、此思想ヲ把リテ、若干殖民地議員ヲ、母國國會ニ參列セシメタレトモ、是レ只告朔ノ餼羊ヲ存スルノ類ノミ、殖民地ハ依然殖民地ニシテ、佛蘭西共和國タルノ實ナシ。

立憲殖民 地

近時殖民地ニシテ、自ラ憲法ヲ有スルモノアリ、世間之ヲ目シテ、立憲殖民地ト爲ス。千八百六十七年三月二十九日制定、英領北亞米利加條例ハ、即チ世ニ加奈陀憲法ト稱セラル、モノタリ。千九百年七月九日制定、濠太

刺利亞憲法アリ、千九百九年夏英領南阿弗利加殖民地憲法亦成ル。其他

一二殖民地ニシテ、憲法制定ヲ冀望スルモノアリト云ヘハ、將來或ハ多クノ殖民地憲法ヲ見ルコトアルヘシ。但シ殖民地憲法ナルモノハ、殖民地自身ノ固有自主權ニ依リテ制定セルモノニ非スシテ、母國即チ獨立國家ノ高權ニ依リテ制定セラル、モノタルヤ論ナク、其實體ヲ云ハ、殖民地自治規則ヲ粉飾シテ、壯嚴ナル形式ヲ附與シタリト云フニ止ル。

或ハ一定ノ國土カ、獨立國家ナルヤ、將タ殖民地ナルヤ、疑問トナルコトナキニアラスト雖モ、是等ハ事實ニ依リテ之ヲ定ルノ外ナシ。英國千八百八十九年 Interpretation act 第十八條、殖民地トハ、英國諸嶋及ヒ英領印度ヲ除キタル、國王陛下ノ領土ノ各部分ヲ云フトイフ明文アリ。之ヲ解釋スルモノ、則チ印度ハ殖民地ニアラスシテ、一ノ獨立國家ナリト云フアリ。

又英國君主ノ稱號カ、英國國王ニシテ、印度皇帝ナルヨリ推シテ、英國ト印

母國ト殖 民地

立法關係

度トハ人的合同國家ナリト論スルモノアリト雖モ、事實上、印度ハ殖民地ニシテ、英國ハ其母國タリ。印度人民ノ政治的狀態ハ、南阿、濠州、加奈陀等立憲殖民地ヨリモ甚タ劣ルノミナラス、他ノ自治殖民地ナルモノニ比シテ、自治ノ實ナシ。十九世紀中葉以後、英國カ勉メテ印度ヲ殖民地ト稱スルヲ避クルハ、別ニ政畧上ノ理由アリテ存スルカ爲メニシテ、是等形式的稱呼ハ、毫モ母國ノ、其殖民地ヲ統治スルノ體用ト相影響スルモノナシ。或ハ更ニ説ヲ爲シテ曰ク、一定ノ領土ノ爲メニ法律ヲ制定スルニ當リテ母國ノ憲法ノ定ムルトコロニ依リ、母國國會ノ協賛ヲ經ルモノアルトキハ、此領土ハ即チ憲法ノ行ハル、處ニシテ、母國本土ノ一部分ナリト、併ナカラ是レ不通ノ論ナリ。大凡法律ト曰ヒ勅令ト曰フ、其形式ノ何タルヲ問ハス、共ニ是レ主權者ノ命令ナリ、主權者カ其殖民地ノ爲メニ立法ヲ爲スニ當リテ、其ノ法律ノ形式ニ依ルト、命令ノ形式ニ依ルトヲ擇ヒテ、其宜ヲ取ル、法律ヲ擇ヒタルノ故ヲ以テ、殖民地ヲ變シテ、國家本土タラシムルノ謂アルヘカラス。國家カ法律ノ形式ヲ以テ立法ヲ爲スハ、獨リ殖民地ノ爲メノミナラスシテ、保護國、租借地ノ爲メニモ亦之ヲ爲スコトアリ。チューニスハ佛國ノ保護國ナリ、而シテ同處ノ裁判構成法ハ、佛蘭西共和國千八百八十三年二月二十七日ノ法律ヲ以テ制定セラレタルカ如キハ其最モ著明ナル例ナリ。其他英佛獨諸國カ、其保護國租借地ノ爲メニ法律ヲ制定シタルノ實例ハ、此ニ一々枚舉スルノ必要ナシ。

第一章 母國ニ於ケル統治機關

殖民地ヲ統治スルノ權源ハ、國家主權ナリ。主權者又ハ國家元首ハ、統治權ヲ總攬シ、總テノ國家機關、皆其下ニ立チテ働クモノトス、母國ニ於ケル殖民政務、亦其一部ヲ成スモノタリ。

殖民政務

國家ノ高等政務ヲ舉クルノ體用ハ、其國々ニ依リテ一様ナラス。或ハ君主ノ下ニ、國務大臣ヲ以テ組織スルトコロノ内閣アリテ、政務ノ中樞ヲ成シ、行政各部ハ、其指揮命令ノ下ニ働クモノアリ。或ハ君主ノ下ニ、一ノ宰相アリテ、補弼ノ責ニ任シ、行政各部ハ、宰相ノ下ニ統率セラル、アリ。或ハ國家元首ト行政各部長官ト、國會ノ一院又ハ二院トノ共同行爲ニ依リテ、統治シ、尋常政務ハ、特定ノ官廳ヲシテ之ニ當ラシムルモノアリ。日本伊太利諸國ハ第一者ニ屬シ、獨逸ハ第二者ニ屬シ、佛蘭西、北米合衆國ハ第三者ニ屬ス。

日本ノ制度

乃チ我國ノ現行制度ニ就テ之ヲ云ハ、天皇ハ統治權ヲ總攬シ、國務大臣ハ其補弼ノ任ニ任ス、内閣ハ國務大臣ヲ以テ之ヲ組織シ、自ラ政務ノ中樞ヲ成シ、内閣ニ直隸スルトコロノ拓殖局アリテ、專ラ殖民政務ノ事ニ當ルトイフ體統ナリ。

殖民省

殖民政務ヲ擔當スルモノ、果シテ内閣又ハ各省附屬ノ一局ヲ以テシテ可ナルヘキカ。英佛獨諸國トテモ、其初ニ當リテハ、眇タル一局タルニ止リシモ、其殖民政務ノ性質重要ヲ加ヒ、其分量増加スルニ從テ、漸次其地位ヲ昇シテ一省ト爲シ、露西亞、北米合衆國等、亦新タニ一省ヲ置カントスルノ議アリ。又今日ノ殖民國ハ、其中央殖民政務機關ヲ補翼スル爲メニ、一ノ諮問機關ヲ設クルノ例アリ。蓋シ一ノ國家ニシテ、多クノ殖民地ヲ領有シ、其立法行政ノ根源ヲ、中央政府ニ取ラシムルニ當リテ、其事實ヲ調査シ其理義ヲ正タスヲ求メハ、コレカ爲メニ、特殊ノ智識技能ヲ具フルモノヲ集メテ、其事ニ當ラシムルノ方法ヲ定メサルヘカラス、是レ近時各國ニ於テ、諮問機關ノ設立ヲ見ル所以ナリ。

諮問機關

此ニ參考ノ爲メニ、各國ノ、母國ニ於ケル殖民地統治機關ノ概要ヲ舉ケテ相比較スヘシ。

英吉利ニアリテハ、皇帝統治權ヲ總攬シ、樞密院及ヒ國會アリテ、殖民地統治權ヲ參翼ス。印度ノ爲メニ、特ニ印度事務省ヲ置キ、一般殖民地政務ハ殖民省之ヲ管轄ス、其保護國ハ、外務省ノ管轄ニ屬スレトモ、獨リ印度ニ於ケル保護國ハ、印度太守之ヲ統理ス。併ナカラ其例外トシテアイル、オフ、マン、チャンネル、アイランドハ内務省ニ屬シ、燈臺所在地ハ商務院ニ屬シ、アツセンシヨン嶋ハ海軍省所轄タリ。

英國

英國ニ於ケル諮問機關トシテ、世ニ知ラル、モノハ、印度會議ニシテ、印度ニ關スル、立法、行政、法問題ノ諮問ニ應ス。印度會議ニ列スル委員ハ、總員十人以上十五人以下ニシテ、印度事務大臣之ヲ任命ス。但シ委員タルモノハ、十年以上印度ニ在リシコト、歸國後未タ十箇年ヲ經サルコトヲ以テ其任命條件ト爲ス。普通委員任期十年、印度高等官吏ニシテ委員タルモノハ任期五年トス。

佛蘭西

又英國皇領殖民地及ヒ自治殖民地ハ、各々其エゼント、ゼネラルヲ倫敦ニ駐劄セシム、其任務ハ、獨立國家ノ相簡派スルトコロノ公使ト相似タリ。佛蘭西大統領ハ、國家元首トシテ、殖民地ノ事ヲ經理シ、元老院之ヲ補翼ス。殖民省アリ、普通殖民地ヲ管轄シ、其保護國タルチユーニス、東京、安南、カムボヂヤハ外務省管轄ニ屬ス。アルゼリヤノ政務ハ、其事柄ノ性質ニ依リテ、各省ニ分屬ス。

佛國殖民政務諮問機關トシテ、高等殖民會議アリ。殖民地選出兩院議員、殖民地ヨリ特ニ本會議ノ爲メニ選出シタル委員、當局官吏、學識經驗アルモノニシテ殖民大臣ヨリ任命セラレタル者、商業會議所代表者、殖民協會代表者等ヲ以テ組織ス。然ルニ其委員餘リニ多數ニシテ、實際ノ調査審議ニ便ナラサルヲ以テ、千八百九十六年、常任委員ヲ選定シテ、其擔當ヲ明カニシタリ。

佛國ノ國法、殖民地選舉議員ヲ、元老院及ヒ代議院ニ列セシムルノ規定アリ。千七百九十五年ノ憲法カ、殖民地モ共和國ノ一部ニシテ、憲法上同一ノ支配ヲ受クルト云フコトヲ宣明シテヨリ以來、同國共和國政治トナルトキハ、必ス此精神ヲ繼承シ、母子國畫一ノ制ヲ取ラントスルノ傾アリ。現時、佛國憲法ハ殖民地ニ行ハレスト雖モ、其ノ若干ノ殖民地議員ヲ存スルハ、畢竟千七百九十五年ノ憲法ノ爲メニ、告朔ノ餼羊ヲ存スルモノ、ミ。併ナカラ今日ノ殖民地議員ハ、寧ロ殖民地代表者トシテ、母國立法機關ニ參與スルモノト見ルヲ當レリトス。現在マルチニーク、グアデロープ、レユニオンハ各々代議院議員二人、元老院議員二人ヲ出シ、印度ハ、兩院ニ各一人ヲ出シ、交趾支那、セネガル、ギアナハ、各々代議院議員一人ヲ出シ、アルゼリアノ三縣、各々元老院議員一人、代議院議員一人ヲ出セリ。

獨逸ハ、皇帝殖民地ヲ統治シ、帝國宰相之ヲ補翼ス。初メ獨逸外務省所屬

獨逸

殖民局アリテ、一般保護領ノ政務ヲ管轄シ、同局長ハ、外務大臣ヲ經スシテ直接ニ帝國宰相ニ報告ヲ爲シ、及ヒ指揮ヲ舉クルノ制度ナリシカ、近年ニ至リテ、殖民局ヲ進メテ、殖民省ト爲シ、其規模ヲ擴張ス。

獨逸ノ殖民會議ハ、コロニアラトト名ケ、千八百九十年創設ス。其範ヲ佛國ノ高等殖民會議ニ取リタレトモ、其雜駁尠然タル組織ヲ棄テ、其構成ヲ緊肅シ、政府當局者及學識經驗アルモノ二十五名ヲ以テ委員ト爲ス。

要領

以上諸國ノ制度ニ就テ之ヲ稽フルニ、殖民政務ヲ擔當スルモノハ、殖民省ニシテ、國家重要官府ノ一タリ。此官府ノ下ニ、諮問機關ヲ設ケテ、以テ其制度政策上ノ調査研究ヲ盡クス處ト爲ス。併ナカラ廣義ニ云フトコロノ殖民政務ハ、悉ク殖民省ノ所管タリト云フ能ハス。乃チ保護國、租借地ノ如キハ、外務省之ヲ管轄スヘキモノタリ、是レ其保護若クハ租借ノ關係

カ、國際條約ヲ基礎トシ、其政務亦外交ニ依ルモノ多キノミナラス、保護國ハ、其國家トシテノ存在ヲ失ハス、租借地ノ主權、亦租與者ニ保留セラル、爲メ、其理義ヲ明ニスルノ必要アルニ由ル、然リト雖モ、是レ亦原則ヲ擧クルモノ、ミ、實際ハ各國其ノ便宜ニ依ル。英國殖民地ノ管轄ノ次第ハ、前述ノ如キモノアリ、佛國トテモ、其交趾支那ハ、名義上保護國ナルヲ以テ、嘗テ之ヲ外務省ノ管轄ノ下ニ置キタレトモ、今日其實務ヲ取扱フモノハ則チ殖民地省ナリ、清國ニ於ケル租借地ノ事務ニシテ、殖民地省ノ所管ニ屬スルモノアル、亦此類ナリ。

其他、統治機關ヲ補翼スル爲メ、殖民協會、殖民學校等ヲ設クルノ例ハ、英佛獨、諸國ニ於テ之ヲ見ルトコロニシテ、是等ハ國家ノ施設ニアラスト雖モ、其效用ハ則チ廣且大ナルモノアリ。今日殖民經營ヲカムルノ國ニシテ、此種ノ事業ノ爲メニ、其力ヲ致サ、ルモノナシ。

第三章 殖民地統治機關 上

特別統治

殖民地ハ、特別統治地域タリ。特別統治トハ、獨立國家ノ主權ノ下ニ在リテ、自己特有ノ體制ヲ備フルノ謂ナリ。

殖民地ハ、獨立國家ノ主權ノ下ニ立ツモノタリ、併ナカラ、其統治ハ、特殊ノ體制ヲ備フ。其特殊ノ體制ニシテ、強大廣汎ナルトキハ、宛然一ノ國家ノ形ヲ具フルモノアリ。之ニ反シテ、其特殊體制微弱狹小、其政務専ラ母國ノ施置ニ待ツモノニアリテハ、其名ハ特別統治ナリト雖モ、其實ハ其殖民地統治機關ハ、則チ母國官府ノ出張所タルニ過キス。故ニ學者、此母子國關係ニ就テ、之ヲ類別シテ二ト爲ス、其一ハ合一主義ニシテ、母國ノ統治機關ノ力ヲ、出來得ル限リ殖民地ニ及ホシ、母子國ノ同化ト統一トヲ圖ルヲ旨トス、所謂 *systeme des rattachements* 是レナリ。其二ハ放任主義ニシテ

合一主義 放任主義

殖民地ノ事ハ殖民地ヲシテ自ラ之ヲ處理セシメ、已ヲ得サル場合ノ外ハ母國ノ統治機關コレニ關涉スルコトナシ、*Laissez faire*ノ政策ニ出ルモノ即チ是レニシテ、此主義ヨリ之ヲ見レハ、殖民地ハ則チ *Pays d'exception* ナリ。法律家往々殖民地ハ外國ナリト説クモノアリ、其義亦此ニ基クモノニ外ナラス。

古來歐羅巴諸國、其殖民地ヲ治ムルノ道區々タリト雖モ、之ヲ概括スルトキハ、佛蘭西ハ合一主義ヲ取り、英吉利ハ放任主義ヲ取ルモノト云フヲ得ヘシ。

佛國千七百九十五年憲法第六條、殖民地ヲ以テ共和國ノ一部ト爲シ、本土ト等シク憲法ノ行ハル、處ト看做シタルハ、其最モ顯著ナルモノニシテ、其後千八百五十四年元老院宣示ハ、專ラ此主義ニ基ケルモノタリ。千八百七十八年、千八百八十二年、殖民地委員ノ制ヲ設ケタル、千八百八十九年

佛國ト合一主義

千八百九十年ニ於ケル殖民會議、亦同一ノ趣旨ニ出ツ。併ナカラ佛國ハ亦漸ク其ノ不可ナルモノアルヲ覺リテ、徐ロニ其方嚮ヲ改メントスルモノアリ。千八百八十八年ノデスレール案、即チ殖民地選出議員數ヲ増加セントスルノ法律案ハ、大多數ヲ以テ排棄セラレ、千八百九十八年、デストルネー、コンスタンハ、佛領印度交趾支那及ヒセネガル等ヨリ、議員選出權ヲ奪ハントスルノ法律案ヲ提出シ、同案ハ通過セサレトモ、多クノ贊成者ヲ得タリ、千九百年、交趾支那總督ゾーメルハ、殖民大臣ニ申告スルニ、從來ノ合一主義ノ有害ニシテ無益ナルコトヲ以テシ、經濟學者ポリーリユーモ亦アルゼリア、交趾支那等ニ於ケル合一主義ノ成績ノチユーニスニ於ケル放任主義ニ若カサルコトヲ主張スルアリ、佛蘭西共和國傳來ノ政策ノ漸ク將ニ轉遷セントスルモノアルハ、爭フヘカラサルノ事實ナリ。

英國ノ殖民地ヲ治ムル、時ニ合一主義ニ傾キ、或場合ニハ、干涉ヲ專トシタ

英國ト放任主義

ルコトナキニアラスト雖モ、北米合衆國獨立以後ハ、專ラ放任主義ヲ取リ殖民ノ自由自治ヲ助長スルニカム。蓋シ繁盛殷富、廣土稠人ヲ有スルノ殖民地ヲ統治スルモノハ、其道自ラ此ニ出テサルヘカラサルヤ論ナシト雖モ、詩人ノ所謂、木實繁者披其枝、披其枝者傷其心ノ類ニシテ、母國ノ政策殖民地ニ行ハレス、母子國ノ連絡漸ク稀疎ナルニ至ルハ、此主義ニ伴フ必然ノ病患ナリ。英領印度ハ、殖民地タルコトニ就テ争フモノナシト雖モ表面上、印度自ラ皇帝ヲ戴キ、英國ノ法律ニテハ、印度ヲ殖民地ノ外ニ置キ印度太守ハ、皇帝ニ直隸シテ、附近保護國ヲ統轄ス、是レボンヒース其他ノ法律家カ、印度ハ英國ノ殖民地ニアラスシテ、英國ト人的合同ヲ成ストコロノ一國家ナリト云フ所以ナリ。然リト雖モ英國ノ印度ニ對スル其名ヲ避ケテ其實ヲ收ムルヲ以テ、事ニ於テ害ナキヲ得ルモ、他ノ殖民地ニ至リテハ、則チ然ラスシテ、濠洲、南阿、加奈陀等、各々其憲法ヲ有シテ、自ラ立憲

英佛兩國ノ趨勢

政治ヲ行ヒ、加奈陀ノ如キハ、盛ニ外國ト交渉ヲ爲シ條約ヲ締結ス、初メ其ノ條約ヲ締結スルヤ、專ラ英國外交官ノ手ヲ經タレトモ、其後英國外交官ト、加奈陀委員ト協同シテ、其事ニ當リ、近時ニ及ヒテハ、加奈陀政府專ラ交渉談判ノ事ニ當リ、英國外交官ハ袖手傍觀スルノ實アリ、其締結スルトコロノ關稅條約、往々ニシテ母國ノ方針ト相容レサルモノアルニ至ル。近年英國内ニ其勢力ヲ生シ來レル帝國主義ナルモノハ、畢竟此放任主義ノ反動ト看做スヲ得ヘク、佛國ノ合一主義ト英國ノ放任主義トカ、共ニ一タヒ極端ニ馳セテ、今乃チ其ノ反動ヲ見ントスルハ、近頃最モ趣味アル現象ナリ。

其他西班牙、葡萄牙、和蘭諸國カ、或時ハ強テ合一主義ヲ行ハントシテ、失敗ヲ招キ、或時ハ放任主義ニ流レテ、失敗ヲ招キ、就中殖民地ヲ以テ母國ノ財源ト爲サントシテ、賦課徵收ヲ事トシ、若クハ殖民地ノ政治上及ヒ經濟上

ノ改良發達ヲ圖ラスシテ、自ラ困厄ニ陥リタル例ハ、一々殖民史ニ明ナリ。

又殖民地ノ經營方針ニ就テ之ヲ云フトキハ、之ヲ集中主義ト分配主義トニ分ツヲ得ヘシ。乃チ殖民地ニ於ケル或一地點、或一事業ヲ中心ト爲シ其政治上經濟上ノ政策ヲ此ニ集ムルモノヲ、集中政策ト爲シ、其全地域ニ涉リ、全般ノ事業ニ就テ、普ク其力ヲ致スモノヲ分配主義ト爲ス。

集中主義ハ、專ラ商業殖民地ニ於テ行ハレ、時トシテハ鑛業殖民地ニ於テ之ヲ見ルコトアリ。但此主義ハ、地域狹少ニシテ、其天然ノ富資亦限リアル處ニ於テノミ之ヲ實行スルヲ得ヘク、香港、新嘉坡、亞丁ノ如キハ、其地形地理上、其港灣ト市街トノ外ニ、經營ヲカムヘキモノナキ爲メニ、自ラ此ニ至ルモノト云フノ外ナク、阿弗利加鑛業地ニ於ケル施設方針、亦一處ノ一事業ニ集中スルノ策ヲ取ラサルヘカラス。

集中主義

分配主義

然ルニ殖民地ノ面積廣大ニシテ、天然ノ富源饒カナルモノニアリテハ、此主義ヲ取ラスシテ、分配主義ヲ取ラサルヘカラス。乃チ其經營施設ノ要ハ、全地域ニ涉リテ、各種ノ事業ノ發達ヲ圖リ、多數人民ヲ包容シテ、各々其處ヲ得セシムルニアリ。所謂農業殖民地ノ經營ノ方針ノ如キハ、即チ是レニシテ、人口ヲ適法ニ分配シ、到ル處、其業ヲ樂ミ其堵ヲ安セシムルヲ期ス。農業殖民地ヲ經始スルモノハ、先ツ其地域ヲ貫通スルトコロノ鐵道ヲ敷設シ、道路ヲ開キ、水路ヲ通シテ、交通ノ便ヲ全クシ、灌漑排水其他ノ土工ヲ興シテ、農家作業ノ規模ヲ立ツ。且新領土殖民地ハ、所在人民好ミテ都市ニ集中スルノ傾ヲ有スルノミナラス、母國ヨリ移住スルモノ、如キハ、最モ都市ヲ愛シテ、邊陲ニ出ツヲ嫌ヒ、其ノ一タヒ耕作地ニ赴ケルモノ亦漸ク都市ニ還ルヲ望ムノ情ナキ能ハス。是ヲ以テ母子國政府ハ勿論、殖民會社、當業者等、相共ニ其力ヲ此ニ對シテ、農民ヲ開拓地ニ誘致シ、其處

ニ土着セシムルノ道ヲ講シテ至ラサルナシ。

尤モ農業殖民地ニシテ、商業地ヲ有スルモノ、決シテコレ無キニアラスシテ、其商業ノ發達ヲ圖ルハ、則チ農業ノ發達ヲ促カス所以ナルヤ言ヲ待タス。於是乎、商業ノ爲メニハ集中主義ヲ取り、農業ノ爲メニハ分配主義ヲ取ルノ場合ナシト云フヘカラス。併ナカラ、其都市ノ發達ニ力ヲ専ラニシテ、農業地ノ發達ヲ後ニスルカ如キハ、到底失策タラサルヲ得サルナリ。抑モ合一主義ト曰ヒ、放任主義ト曰フ、集中主義ト曰ヒ、分配主義ト曰フ、其ニ抽象的命辭ニシテ、甚タ浮汎ナルカ如クナレトモ、大凡殖民經營ヲ爲スモノニ就テ、其取ルトコロニ原クトキハ、各々一定ノ方針ヲ有タサルモノナク、其大要ハ則チ此類制ノ外ニ出テス。而シテ其ノ合一主義ニ由ルト放任主義ニ由ルトハ、其統治機關ノ組織權ノ上ニ大ナル差異ヲ生ス。乃チ合一主義ヲ取ルトキハ、殖民地ノ重大政務ハ、母國官府之ヲ裁制シ、殖民

統治機關 ノ差異

地ニ於ケル、統治機關ハ、只其成ヲ仰キ、其命令ヲ執行スルト云フ形ヲ成スヘク、放任主義ヲ取ルモノハ、之ニ反シテ、殖民地統治機關ハ、母國ノ宗主權ノ下ニ立チテ、一定ノ範圍ニ於テ、獨立自治ノ政務ヲ行フヲ以テ、其組織ハ自ラ大ニ、其權限ハ自ラ廣カラサルヘカラス、之ヲ今日ノ實例ニ照ラスニ、佛國ハ合一主義ニ傾キ、英國ハ放任主義ニ依ルノ姿アリ。英國ノ自治殖民地、就中南阿、濠洲、加奈陀等、其憲法アリテ、自ラ立憲政治ヲ行フモノニ於テ最モ其體型ヲ見ルヲ得ヘキナリ。或ハ放任主義ハ、自由殖民地、即チ立憲代議制度ヲ備フルモノニ於テ初メテ之ヲ見ルヘシト爲スモノアレトモ必スシモ然ラス。印度ハ立憲代議機關ナシト雖モ、其英本國ニ對スル獨立自由ノ範圍ハ極メテ廣ク、印度自ラ印度皇帝ヲ戴キ、印度太守ハ印度ノ土人國家ニ對シテ保護權ヲ行ヒ、其隣近國ト外交ヲ爲スノ權限ヲ有セリ。又我臺灣、朝鮮亦此類ニテ、就中前者ハ、總督天皇ニ直隸シ、其文武ノ權

能極メテ廣大ナリ。而シテ我拓殖局ハ、内國附屬ノ一局タルニ止ルヲ見テモ我帝國ノ政策、合一主義ニ傾カサルコトヲ證スヘシ。其集中主義、分配主義ナルモノハ、母子國間ノ關係ニアラスシテ、殖民地ニ於ケル經營方針ニ關スルモノタリ。只前者ハ、行政機關ヨリ經濟上ノ施設ニ至ルマテ、一屬ニ集中スルノ實アルニ對シテ、後者ハ其力ヲ其ノ領域内ニ普ク分賦シ、各種機關ノ均衡ヲ保ツヲ旨トスルヲ以テ、兩者ノ間、亦其統治機關ノ體用ヲ同フセス。

第四章 殖民地統治機關 下

長官

殖民地ニ於ケル政務ハ、長官一人アリテ之ヲ統理シ、長官ノ下ニ、部局分課アリ、地方行政機關アリ、各々其擔當事務ヲ行フ。

殖民地長官ノ立法及行政事務ヲ輔翼スル爲メニ、合議體ヲ設クルヲ常ト

合議體

ス。合議體ヲ設クルモノ、其種類甚ク多クシテ、此種類ノ相異ナルハ、則チ其殖民地ノ政治上ノ地位ヲ示スル所以ノモノタリ。

合議體ハ、別チテ二ト爲ヌヲ得ヘシ。其一ハ單純ナル諮問機關是レナリ其二ハ協贊機關是レナリ。

諮問機關

其ノ諮問機關タルモノハ、長官ノ諮詢ニ應シテ、其意見ヲ具申スルモノニシテ、立法、行政其他重要政務ニ就テ、調査審議ノ事ニ當ルト云フニ止リ、其意見ハ、必スシモ命令又ハ處分ノ成立要件タルコトナシ。或ハ法律又ハ勅令ヲ以テ、云々ノ事ハ、諮問機關ノ議ヲ經ヘシトイフ規定ヲ設クルコトナキニアラス。併ナカラ此場合ト雖モ、其機關ノ議決ハ、長官ノ參考資料タルニ過キスシテ、長官ハ、其議決ノ趣旨ト異リタル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ。且諮問機關ノ組織ハ、官吏及ヒ長官ノ任命シタル委員ヲ以テシ、稀レニ其委員ノ一部ヲ、公選ニ依リテ任命スルコトアリト雖

モ、是レ主トシテ任命上ノ便法タリトイフヘクシテ、人民ノ爲メニ其高權ヲ分ツモノト解スヘカラス。

協賛機關

然ルニ協賛機關ハ、根本的ニ其理義ヲ異ニシ、機關其モノハ、自ラ獨立ノ意思ヲ保有シ、其獨立ノ意思ニ依リテ決議シタルトコロノモノハ、則チ長官ノ命令又ハ處分ヲ有效ナラシムルトコロノ一要件タリ。殖民地長官カ立法又ハ行政上ノ要務ヲ行フニ當リテ、案ヲ具シテ此合議體ノ議決ヲ求めルヤ、合議體ノ否決ニ逢フトキハ、之ヲ決行スルヲ得ス。合議體又立案及ヒ修正ノ權利アリ、長官及ヒ母國政府ハ、之ニ對シテ拒否權ヲ行フノ權利ヲ保留スルニ止ル。

協賛機關ノ組織ハ、公選ニ由ルトコロノ議員ヲ以テ成立スルヲ原則トシ、間々官吏又ハ官選議員ヲ参加セシムルコトナキニアラスト雖モ、其合議體ハ則チ獨立セル一協賛機關ニシテ、殖民地長官ハ、其自由意思ヲ奪フ能ハサルナリ。

殖民地統治機關トシテ、協賛機關ヲ備フルハ、殖民地自治ノ主義ニ基ク。自治ノ主義ヲ擴充スルトキハ、協賛機關ヲ組織スルトコロノ議員ヲ、公選スルノミナラス、其殖民地長官ヲ公選シ、且公選議員中ヨリ選出シタル委員ヲシテ、行政ニ参加セシムルモノアリ。

英國ノ體制ニ依ルニ、其皇領殖民地ナルモノハ、其ノ長官ハ、英國皇帝ノ任命スルトコロニシテ、長官ノ下ニ部局分課アリ、官府ト相並ヒテ諮問機關ヲ備フルモノ多シ。其自治殖民地ナルモノハ、協賛機關最モ強大ナル地歩ヲ占メ、其長官亦公選ニ由リテ任命セラル、南阿潑洲、加奈階ノ如キハ、則チ其ノ最モ發達シタル状態ヲ示スモノナリ。

日本
我大日本帝國ノ現行制度上、未タ自治殖民地ニ比スヘキモノナク、其統治機關亦專ラ單獨制ニ依リ、所謂諮問機關スラ存在セス。而シテ朝鮮總督

總督ト軍人

ハ陸海軍大將ヲ以テ之ニ充テ、天皇ニ直隸スルトコロノ親任官タリ、諸般ノ政務ヲ統轄シ、及ヒ陸海軍ヲ統率シテ、朝鮮防備ノ事ヲ掌ル。臺灣總督關東都督、亦陸海軍大將若クハ中將ヲ以テ之ニ充ツ、只前者ハ内務大臣ノ監督ヲ受ケ、後者ハ外務大臣ノ監督ヲ受クルノ點ハ、朝鮮總督ト相異ナルノミ。或ハ我國ニテ、殖民地長官ヲ、武官ヨリ取ルヲ奇異トスルモノナキニアラスト雖モ、殖民地ニ防備及ヒ軍事上ノ任務アル以上ハ、武官ヲ以テ長官ト爲スノ簡且便ナルニ若カサルナリ。武人ニシテ、政治ニ堪フルモノハ得カタカラサルモ、文人ニシテ、武事ニ堪フルモノハ得カタシ。且其ノ武官軍隊ヲ指揮命令シ、統率施置スルノ權能ナキトキハ、克ク其任務ヲ全クスル能ハサルナリ。印度、埃及等、文官ヲ以テ大守又ハ統監ト爲シ、其傍ニ高級武官ヲ置テ、陸海軍ヲ統率セシムルノ制ヲ設クルモ、此ノ制度ハ文武權間ノ軋轢又ハ杆格ヲ來タシ易キノミナラス、不便、經濟亦甚タシ

キヲ以テ、我ハ則チ之ヲ避クルニ務ム。或ハ又武人ヲ長官ト爲ストキハ武斷ニ流レ易キヲ云フモノアリ、併ナカラ我殖民地ノ統治ノ狀態ハ、其反對ニテ、母國ヨリ法令豫算上ノ監督甚タ嚴ナル上ニ、殖民地ノ政務宛然法治國ノ體ヲ成シ、毫末ノ武斷ヲ容ル、ハ餘地アルス。之ヲ英佛諸國、殖民地長官ノ施置自由ナルニ比スレハ、殆ト霄壤ノ差アルヲ見ルヘシ。且武人政務ヲ執ルトキハ嚴ニ傾キ、文官政務ヲ執ルトキハ寬ニ流ル、ハ東西古今ノ通弊ナレトモ、新領土殖民地ノ政ハ、其寬ニ失センヨリハ、寧ロ嚴ニ傾クヲ可トス。就中一タヒ寬ニ流レテ、其弊ヲ現ハシテ後ニ、嚴ニ復ルカ如キハ、失政ノ最モ甚タシキモノニシテ、最モ其後ヲ善クシカタシト爲ス。英國ノ埃及統治カ、ゴルスト統監時代ニ弛解シタル爲メ、キチネル將軍ヲ以テ之ニ代ラシメタルカ如キハ、以テ其情ヲ解スルヲ得ヘク、此事カ文治寬假ヲ尙フトコロノ英國自由黨内閣ノ下ニ行ハレタルヲ見テモ、其要ヲ

知り得ヘシ。

第五章 立法司法及ヒ行政

殖民地ニ於ケル統治事務ハ、分チテ三ト爲ス。其一ハ立法、其二ハ行政、其三ハ司法是レナリ。

政務ノ三 大區別

國家ノ政務ヲ分チテ、立法、行政、司法ノ三ト爲スハ、固ト立憲政治ヲ行フノ國ニ於テ、初メテ其定形ヲ見ルヲ得ヘク、三個ノ政務各々分割アリテ、獨立シタル機關ヲシテ之ヲ擔當セシメ、三機關善ク其獨立ヲ保チテ、而シテ善ク其調和ヲ全クスルハ、世間最モ進歩シタル政治状態ト謂ハサルヘカラス。從テ之ヲ以テ殖民地ノ事ヲ規セントスルハ、較々其倫ヲ失フノ嫌ナキヲ得サレトモ、殖民地ノ政務ノ要、亦寧ロ此三機關ノ分立ヲ急トスル所以ノモノアリ。就中行政ト司法トヲ相獨立セシムルハ、則チ何處ニ於テモ、政務改善ノ第一着手タルノ實アリ、是レ暫ク此ニ此分類ヲ取ル所以ナリ。

第一 立法

立法

立法トハ、其文字ニ依リテ示ス如ク、法規ヲ制定スルノ謂ナリ。殖民地ヲ治ムル、一日モ法規ナカルヘカラス。法規ノ根源ハ、國家主權者ナルヲ以テ、殖民地ノ立法權ノ根源ハ、則チ其母國ノ主權者ニアリ。母國ノ主權者ノ下ニ母國立法機關ト、殖民地ニ於ケル立法機關トアリテ、其事ヲ行フ。而シテ其法規制定ノ系統ヲ云ハ、殖民地立法機關ハ、常ニ母國立法機關ノ下ニ立チ、母國ノ立法機關ト抵觸セサル範圍ニ於テ、其ノ立法權ヲ行フモノタリ。

然リト雖モ、法規ハ制定法ノミヲ云フニアラスシテ、制定法外ニ於テ、法律

ノ効力ヲ有スルモノ亦甚タ多キハ、何レノ獨立國家ニ於テモ之ヲ見ル如ク、殖民地ニ於テ、其ノ最モ多キヲ見ル。

殖民地ノ法規ノ淵源ハ則チ次ノ如シ

- 一、母國制定法律命令
- 二、殖民地制定法律命令
- 三、慣習法
- 四、外國法
- 五、宗教法

一 母國ニ於テ制定シタル法律命令カ、其殖民地ニ施行セラル、コトハ多ク説明ヲ要セサルトコロナリ。我朝鮮及ヒ臺灣ニ施行スヘキ法令ニ關スル規程ニ依レハ、法律ノ一部又ハ全部ヲ施行スルヲ要スルモノハ、勅令ヲ以テ之ヲ定ムルモノタリ。我帝國ノ法律ハ、此ノ如クシテ殖民地ニ

母國法

伸張セラルヘシ。而シテ此法律ノ一部又ハ全部ヲ施行スルコトヲ定ムルノ勅令ハ、法律執行命令ニアラスシテ、自ラ是レ一ノ立法的命令ナリ。我朝鮮及ヒ臺灣ハ、本來帝國ノ法域レヒツグベイツ以外ノ地ナリ、法域外ニ法律ヲ有効ナラシムルモノハ、則チ一ノ立法ナリ。且此勅令ハ、法律ノ全部ヲ無條件ニ施行スルノ外ニ、法律ノ一部ヲ擇ヒテ施行スルノ力ヲ有スルヲ以テ、尋常執行命令ト全ク其性質ヲ異ニスルモノト謂フヘシ。大凡國家ノ立法政策トシテハ、母子國ヲ通シテ、同一法規ノ下ニ之ヲ統一スルヲ以テ理想ト爲シ、出來得ル限り、母國法ヲ殖民地ニ施行スルノ道ヲ求ム。我國法ノ母國法ヲ伸張スルノ方法ヲ定メテ、着々其施行ヲ擴ムルモノ、亦此理ニ外ナラサルナリ。

母國主權者ハ、母國法ノ殖民地ニ行ハル、ヲ期スルノミナラス、又母國立法機關ヲシテ、殖民地ニ施行スヘキ法律ヲ制定セシムルコトアリ。或ハ

母國ニテ
制定セル
殖民地法

此場合ヲ目シテ、母國憲法カ殖民地ニ行ハル、ニ由ルト爲スモノアリト雖モ、是レ大ニ誤レリ。抑モ母國憲法ハ母國內ニ行ハル、モ、殖民地ニ行ハル、コトナシ。主權者ハ、法律ノ形式ヲ有スル法規ヲ制定スルニハ、必ス憲法ニ定ムルトコロノ立法手續ヲ履マサルヘカラス、併ナカラ、斯クシテ制定シタル法律ハ、母國以外ニ及フ能ハサルノ理由ナキナリ。古來佛國法律家中ニハ、佛國憲法ハ其殖民地ニモ行ハル、ト爲スモノアリト雖モ、未タ佛國憲法カ、其保護國ニモ行ハル、ト云ヘルモノアラス。チユーニスハ佛國ノ保護國ナリ、佛國ノ共和憲法ハ此處ニ行ハル、コトナシ。而シテチユーニスノ裁判所構成法ハ、則チ佛國千八百八十三年二月二十七日ノ法律ヲ以テ制定セラレタリ。其他此ノ如キ類例ヲ舉クレハ、僕ヲ更ルモ盡キシ。蓋シ主權者ノ高權ノ至ル處、其命令之ニ伴フ。法律ト曰ヒ、勅令ト曰ヒ、其他ノ形式ノ何タルヲ問ハス、總テノ命令ノ根源ハ、主權者

ナリ。主權者ノ命令ヲ發スルヤ、憲法ノ行ハル、處ハ、憲法ノ定ムルコロニ從ヒ、其ノ行ハレサル處ニ就テハ、自由ニ其命令ノ形式ヲ擇フ。法律ヲ可トスレハ、法律ヲ以テシ、他ノ形式ヲ可トスレハ、他ノ形式ニ依ルヘキノミ、要ハ其實際ノ得失如何ヲ見ルニアリ。從テ我朝鮮及ヒ臺灣ニ施行スヘキ法令ニ關スル規程カ、法律ヲ以テ制定セラレタリト云フコトノ、帝國憲法カ朝鮮臺灣ニ行ハル、コトヲ證スルニ足ラサルハ、猶ホ佛國千八百八十三年二月二十七日ノ法律アルノ故ヲ以テ、チユーニスヲ共和憲法ノ行ハル、範圍内ニ在リト云フヲ得サルト相同シ。

殖民制定

二 殖民地ニ於ケル統治機關、自ラ法規ヲ制定スル場合甚タ多シ。蓋シ母子國間、法制ノ統一ヲ理想ト爲スト云フト雖モ、母國法ノ殖民地ニ及ホスヘカラサルモノアルト同時ニ、殖民地自身亦其特殊ノ事物ノ爲メニ特殊ノ法規ヲ設クルノ必要ヲ見ルヘク、今日殖民地長官ニシテ、一定ノ立法

權ヲ附與セラレサルモノナキハ、則チコレカ爲メナリ。殖民地ノ立法權ハ、殖民地長官之ヲ行フ。只自治殖民地、又ハ立憲殖民地ニアリテハ、公選ニ依リテ組織シタル合議體コレニ協賛スルコトヲ以テ、其成立要件ト爲シ、母國政府亦之ニ對シテ、拒否權ヲ保留ス。

我國法上、臺灣及朝鮮ノ總督ハ、法律ノ效力ヲ有スル命令ヲ發スルノ權能ヲ有ス。臺灣ニテハ之ヲ律令ト曰ヒ、朝鮮ニテハ之ヲ制令ト曰フ。此律令又ハ制令カ、法律ヲ以テ總督ニ附與シタル權能ニ基クヨリシテ、之ヲ委任命令 *Uebertragene Verordnungen* ト爲シ、此ニ多クノ紛争ヲ惹起シ來レルコトアリ。乃チ此立法權ヲ委任スルノ法律ヲ制定スルニ當リテ、朝鮮及ヒ臺灣ハ、帝國憲法ノ行ハル、範圍内ナリヤ否ヤヲ争ヒ、又委任命令ハ、如何ナル範圍ニ於テ有效ナリヤ、換言スレハ、憲法上ノ立法事項ニ就テ、此命令ヲ制定シ得ヘキヤ否ヲ争フ等、紛々トシテ方物スヘカラス。併ナカラ、是レ

畢竟無益ノ論争ナリ。大凡殖民地長官ニシテ、相當ノ立法權ヲ有スルコトハ、今日天下ノ通則ナリ。我朝鮮臺灣總督ニシテ、立法權ヲ有スルト云コトハ、固ヨリ當然ニシテ、此事ハ、勅令ヲ以テ之ヲ定ムルモ可、又法律ヲ以テ之ヲ定ムルモ亦可ナリ。我帝國憲法上、殖民地統治ノ規程ナシト雖モ、我帝國ノ主權者ハ天皇ナルヲ以テ、殖民地統治權ノ根源ハ、天皇ニ在ルコト勿論ナリ。故ニ朝鮮、臺灣總督ニ、立法權ヲ附與スルコトハ、天皇ノ大權ニ由ルノ勅令ヲ以テスルヲ得ヘキナリ。只主權者ハ、自ラ其命令ノ形式ヲ擇フノ自由アリ、明治二十九年法律第六十三號ヲ以テ、臺灣律令ノ規程ヲ定メタル以來、依リテ以テ例ト爲シ、今日朝鮮制令、臺灣律令、共ニ法律ニ依リテ其要件ヲ定メタルハ、立法政策上、コレニ依リテ其形式ヲ莊重ニシタリト云フニ止ル。

且帝國憲法カ、臺灣及ヒ朝鮮ニ行ハル、ト云フコトハ、今日法律家モ之ヲ

説キ、政府ノ官吏モ之ヲ云フトコロナレトモ、是レ大ニ加減シテ之ヲ聽クヘキノ言ナリ。法理上嚴格ナル論理ヲ以テセハ、憲法ノ行ハル、範圍ハ其制定當時ニ於テ、法文上明白ニ。若クハ事實上暗黙ノ間ニ自ラ定リ、其後ニ至リテ、其行ハル、區域ヲ擴メント欲セハ、必スヤ一定ノ形式ヲ經テ之ヲ明カニセサルヘカラス。而シテ憲法カ行ハル、トハ、憲法及ヒ其附屬法カ、全部無條件ニ行ハル、ノ謂ニシテ、衆議院議員選舉法、租税法、民刑事裁判法、徵兵令等カ、平等均一ニ行ハル、ニアラサレハ、未タ以テ憲法ノ行ハル、區域内ナリト云フヲ得ス。又政治上ヨリ云ハ、憲法カ行ハル、トハ、其土地ノ人民カ議員ヲ選出シタル議會ノ協賛ニ依ルニアラサレハ法律及ヒ財政上ノ義務ヲ負フコトナキヲ指シ、立法、司法行政三權ノ分立ハ則チ憲政上ノ必要要件タリ、此要件ヲ缺ク處ニハ、憲法政治アリト云フヲ許サルナリ。而シテ此基準ヨリ云ハ、我朝鮮又ハ臺灣ハ、憲法ノ行

ハル、處ニアラス、且事實上、憲法ヲ施行スル能ハサル處タリ。今日官吏又ハ學者、往々彼ノ如キ言ヲ爲スモノハ、只朝鮮臺灣ノ統治上ノ事カ、恰モ憲法ノ或條項ノ行ハル、カ如キ觀アルヲ見テ、此意味ニ於テノミ、二地ヲ憲法ノ行ハル、處ト爲スモノニ外ナラス。從テ今日二地ニ於ケル、立法行政司法等ノ事ハ、未タ本土ト相統一セラル、モノアラサルナリ。

慣習法

三 慣習法ハ、殖民地ニ於ケル主要法源タリ。只其慣習カ、餘リニ區々ニシテ、其一統スルトコロヲ見出シカタク、且公益ヲ害シ、善良ノ風俗ヲ損フモノ、亦甚タ寡カラサル爲メニ、之ヲ取りテ、法律タルノ效力ヲ附スヘキヤ否ヤ、疑ハシキ場合多キコトヲ知ラサルヘカラス。

四 外國法。五 宗教法等、亦殖民地ニ於テ、制法ト並ヒ行ハル、モノ寡カラス。

外國法 宗教法

今日英國殖民地中、佛國法又ハローマン、ダッチ法ノ行ハル、處アリ、印度

ニハヒンヅール法ト、英國法ト並ヒ行ハレ、マウリシアスハ固ト佛國法ノ行ハル、處ナリシカ、新タナル立法ト、歲月ト共ニ積成スルトコロノ先例トニ依リテ、漸次英國法化シタリ、クエベックニハ佛國古慣習法行ハレ、セントルシアニハ佛國法行ハレ、錫蘭、英領ギアナ、チープ、ナタル、ニウギニアニハローマンドッチ法猶ホ其力ヲ保チ、サイプラス、嶋ハ回教法ト、千八百六十九年ノ土耳其法典ト、共ニ行ハル。其他大凡回教徒ノ居ル處ハ、必ス回教法ヲ見、ヒンヅール人亦其固有ノ慣習法ヲ存スルト云フ有様ニテ、其體制雜然トシテ方物スヘカラサルノ狀ヲ成セリ。之ヲ以テ、法律家往々、此種舊習古慣ヲ取調ヘテ、之ヲ法典ニ編纂スヘキコトヲ主張スルアリ。回教ノ學者 Sir Syed Ahmed Khan ハ、嘗テ其専門的研究ニ基テ、印度政府ノ爲メニ回教法典編纂ヲ企テタレトモ、遂ニ失敗ニ終リ、錫蘭ニテモ、千八百六年、回教徒間ノ慣習ヲ、法典ニ編纂セントシテ、却テ不結果ニ歸シタリ。蓋シ特

殊民族ノ慣習ヲ、文字ニ書見ハスハ、甚タ難ク、假令之ヲ書キ見ハスモ、之カ爲メニ却テ誤解ヲ招キ、若クハ混雜ヲ生スルヲ常トス。夫レ殖民地ヲ治ムルモノ、其土民ノ舊習古慣ニ依ルヲ許シ、強テ更革ヲ企ルコトアルヘカラス。其法制ノ雜駁ナルハ、雜駁ナルカマ、ニ之ヲ放置スヘシ、故ラニ之ヲ舉ケテ法典ト爲シ、一目瞭然タラシムルカ如キハ、實ニ無益ノ業ナルノミナラス、又不可能事タリ。故ニ寧ロ舊習古慣ハ、暫クコレニ觸レズ、只必要ニ應シテ、新タニ法令ヲ出シ、又ハ先例ヲ作りテ、漸次新陳代謝セシムルニ若カス。英國ノマウリシアスニ施ストコロノモノ、頗ル其要ヲ得タリ。

立法政策

且母國立法機關カ、殖民地ノ爲メニ、法規ヲ制定スルコトアルハ、前述ノ如シト雖モ、固ト是レ殖民地ニ於テ施行スヘキ法規ナリ、母國立法機關ノ事ニ從フモノ、殖民地ノ事物ト相親熟セス、又其ノ相隔絶スルヤ、緩急相及ハ

サルノ憾ナキ能ハス。故ニ英佛諸國カ、其實験ニ依リテ、深ク相鑑ミテ、殖民地ノ法規ハ、出來得ルタケ、殖民地立法機關ヲシテ之ヲ制定セシムルノ方針ヲ取レリ。英國ニテハ、千八百八十年ヨリ千九百年ニ至ル二十年間、英國國會カ、其殖民地ノ爲メニ議決シタルハ、僅カニ四十七件、其大部分ハ財政及ヒ行政處分ニ屬シ、法規ヲ以テ目スヘキモノハ、僅カニ十八件ニ過キス。佛國ノ合一主義ニ偏スルヲ以テシテ、猶ホ且千八百七十一年ヨリ千八百九十九年ニ至ル二十九年間、其代議院カ、殖民地ノ爲メニ法律ヲ制定シタルハ、三十一件ニ止ル。由是觀之、殖民地ノ立法ハ、殖民地自ラ之ニ當ルヲ可トシ、母國ハ已ヲ得サルノ場合ニ於テ之ニ及フヘシト云爾。

第二 司法

殖民地ニ於ケル司法事務ノ性質ハ、其ノ母國ニ於ケルモノト異ナルナシ。

司法ノ要務

司法ハ、法規ヲ取リテ之ヲ事實ノ上ニ正スノ謂ナリ。立法ハ、能ク法規ヲ制定スルモ、其ノ適正ヲ保チ、其ノ強制力ヲ有ツハ、則チ司法機關アリテ、其事ニ當ルニ是レ由ル。コレヲ其事ノ順序ニ就テ觀ルトキハ、法規先ツ存シテ、司法之ニ從フノ姿アリト雖モ、司法機關ノ管掌スルトコロノモノハ極メテ廣大ニシテ、制定法ノ正シク行ハル、コトヲ保障スルノミナラス慣習法ヲ取リ、時ニ外國法宗教法等ニ及フコトアリ。法律又ハ慣習等ノ由ルヘキモノナキトキハ、裁判官自ラ條理ヲ取リテ之ヲ斷ス。民事ノ訴訟ハ、法律ナキノ故ヲ以テ、其受理ヲ拒ムヲ得サルヲ以テ原則ト爲シ、千九百七年十二月制定、千九百十二年一月一日實施、端西民法第一條第二項法律ニ規定ナキ場合ニハ、裁判官ハ、慣習法ニ依リテ判決スヘク、慣習法モナキ場合ニハ、自己カ、立法者トシテ設定セント欲スル所ニ從テ、判決スヘシ。

ト云フ規定アルカ如キ、亦此理ニ外ナラスシテ、殖民地ハ母國ニ比シテ、法規不備且錯雜セル爲メ、司法機關ノ行用ハ一層廣汎強大ナラサルヘカラス。

司法行政ノ分立

由來未開國ニハ、司法ト行政トノ區別ナシ。假令其事務ヲ區別スルモ、其機關ヲ相分ツコトナク、刑事訴訟事務ハ、則チ官吏姦曲ヲ擅ニシ、賄賂ヲ貪ルノ資タルモノ多シ。是レ保護國、殖民地ノ施善改善ヲ企ルモノ、先ツ司法ト行政トノ分立ヲ圖ルヨリ始ムル所以ナリ。

司法機關ヲ、行政機關ノ外ニ、獨立セシムルト云フコトハ、歲計ノ膨脹ヲ來タシ、且古來司法行政ヲ舉ケテ、同一官吏ノ手ニ在ルニ慣レタル人民ハ、其ノ權限ノ分割ヲ見テ、忽チ官憲ヲ輕蔑スルノ情ヲ懷クコトナキ能ハス。是レ施政改善ノ事ニ從フモノ、頗ル困難ヲ感スル所ナレトモ、司法機關確立シ、法令其正ヲ得テ、其人民ノ生命財産ハ此ニ初メテ安全ナリ。人々

其堵ヲ安シテ其業ニ從フ、利用厚生ノ事此ニ舉ルヘクシテ、歲計ノ膨脹ニ依リテ其負擔ヲ増スカ如キハ、固ヨリ言フニ足ラス。又司法官ノ嚴正犯スヘカラサルヲ知リ、及ヒ其ノ公明依ルヘキヲ知ルトキハ、其ノ嘗テ侮蔑セルモノ、亦遂ニ栗然トシテ其正ニ就クニ至ルヘキナリ。

司法權獨立

司法機關ヲ、行政機關ノ外ニ分立セシムルコトニ伴フテ、司法權獨立ノ保障ヲ云フモノアリ。何ヲカ司法權ノ獨立ト云フ、裁判所ノ構成ハ、法律ヲ以テ之ヲ定メ、裁判官ハ、刑法ノ宣告又ハ懲戒處分ニ依ルニアラサレハ、其職ヲ免セラル、コトナキノ謂ナリ。而シテ此獨立ノ保障ヲ得ルノ要件トシテハ、裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ備フルモノタルコトヲ要ス。

是等ハ、立憲文明國ニアリテハ、必然ノ事ニシテ、之ニ對シテ例外ナキカ常ナレトモ、殖民地ハ則チ大ニ其趣ヲ異ニスルモノアリ。司法ト行政トヲ分別シ、司法事務ノ發達ヲ圖ルモ、其裁判官ニ獨立ノ保障ヲ與フルコト鮮

シ。蓋シ母國ニ於ケル如キ、法律ニ定メタル資格ヲ備フルモノ、ミヲ以テ裁判所ヲ組織シカタキノミナラス、土人ノ訴訟事件ヲ審理スルニ、土人裁判官ヲ用ユルコトアリ、土人ヲ以テ補助員ト爲スコトアリ、其他殖民地統治政策上、已ヲ得サル場合亦コレ無キニアラスシテ、今日ノ殖民地ハ則チ其裁判所ハ特別法ヲ以テ構成シ、其裁判官ハ、母國政府又ハ殖民地長官ノ權能ヲ以テ任免シ得ルノ制度ヲ設クルヲ通例ト爲セリ。

裁判所ノ組織

裁判所ノ組織ニ、單獨制ト合議制トアリ。初審ハ單獨制、控訴上告ハ合議制ト爲ス。我臺灣ノ地方法院、關東州地方法院ニ於ケル、民事刑事始審ハ單獨制ニシテ、臺灣覆審院、關東州高等法院等ハ合議制ナリ。朝鮮地方法院ハ單獨制ニシテ、覆審法院ハ三人ノ合議制、高等法院ハ五人ノ合議制ナリ。

又殖民地ノ裁判制度ニ、二審制ニ依ルモノト、三審制ニ依ルモノトアリ。

二審制ト三審制

我臺灣、關東ハ二審制ニシテ、朝鮮ハ三審制ナリ。等シク我殖民地ニシテ其人文ノ程度畧ホ相同シキニ拘ハラズ、一ハ三審制ヲ取り、他ハ二審制ヲ取ルハ甚タ奇ナルカ如クナレトモ、司法制度亦其土地人民ノ歴史、及ヒ政治的事情ニ依リテ定ムルヲ以テ、必スシモ相同シキヲ期スヘカラス。

裁判所ノ統一

大凡司法制度ノ要ハ、法律ノ統一ヲ保ツニアリ。三審制度ハ、則チ下級裁判所ノ判決ノ誤レルヲ正シ、法律ノ解釋ヲ一ニ歸セシムルモノナリ、故ニ大審院ハ只一アリテ、二アルヘカラス。一ノ大審院ヲ以テ抗訴院以下ノ裁判所ヲ統フ、是レ其法律ノ統一ヲ保障スル所以ナリ。然ルニ我現行制度ヲ以テスレハ、臺灣覆審院、關東高等法院、皆二審ヲ以テ終審ナリ。朝鮮ハ三審制ナレトモ、其高等法院ハ則チ最上裁判所ナリ。故ニ等シク帝國法ヲ三地ニ施行スルニ當リテ、同一事件ニ付キ、三様ノ相異ナリタル判決即チ法律解釋ヲ見ルコトハ、有リ得ヘキノ事タラサルヘカラス。今日ハ

帝國法ノ殖民地ニ施行セラル、モノ、日尙ホ淺ク、其法律關係稀疎ナルヲ以テコレカ爲メニ大ナル阻格ヲ見サレトモ、他日母子國間ノ法律統一シ事物ノ相關係スルモノ密邇ヲ加フルニ至ラハ、必スヤ司法的統一方法ノ必要ヲ生シ來ルヘキナリ。英國ニテハ、其殖民地ニ於ケル英法解釋ノ統一ヲ保ツカ爲メニ、各殖民地ノ訴訟事件ヲ、樞密院ニ上告スルコトヲ許セリ。上告ハ、所屬高等裁判所ノ認許アルヲ要ス、英國樞密院内ニ、司法委員ナルモノアリテ、此種ノ上告ヲ受理ス、委員ハ、英國高級司法官及ヒケープ加奈陀、濠洲高等判事ニシテ、樞密顧問タルモノヲ以テ之ヲ組織ス。蓋シ多クノ殖民地ヲ統治スルモノハ、此ノ如キ司法的統一機關ナカルヘカラスルナリ。

司法事務要件

殖民地司法事務ノ要件四アリ。其審理判決ハ快速ナルヘシ、是レ其一ナリ。其訴訟入費ハ微少ナルヲ尙フ、是レ其二ナリ。其判決要旨ハ實行の

ナルヘシ、是レ其三ナリ。其審問判決ハ公平ナルヘク、人種、階級、若クハ政治的黨派ノ間ニ差別スル所アルヘカラス、是レ其四ナリ。

以上四要件ハ、母國ニアリテモ、等シク望マシキ所ノ事ナレトモ、殖民地ニ於テ、特ニ之ヲ望ムノ甚タ切ナル所以ノモノアリ。蓋シ殖民地ハ、其社會ノ事物極メテ幼稚ナル上ニ、其民事刑事上ノ案件ハ、極メテ錯雜ナルアリ是レ其ノ最モ司法機關ノ行用ニ待ツモノ多キ所以ナリ。而シテ司法事務ノ流弊、其稽緩久シキニ涉リテ決セサルヨリ甚タシキハナク、其ノ交渉日ヲ經ルノ間ニ、姦邪私曲行ハレ易ク、其終局ニ至リテ、當事者ノ一方カ、其權利利益ヲ認メラル、モ、多ク時日ヲ經ルノ間ニ、幾多ノ困難ト損失トヲ重ヌルヲ以テ、其境遇ノ不幸ナルハ、則チ救護ヲ得サルト殆ト相異ナルコトナシ、是レ施政改善ヲ圖ルモノ、先ツ其司法事務ノ快捷ヲ務ムル所以ナリ。又殖民地人民ノ資力薄弱ナルヤ、訴訟入費多キトキハコレニ堪ヘサ

ル爲メニ、枉屈ヲ伸フル能ハサルモノナキ能ハス、假令訴訟ニ依リテ權利ヲ回復シ、損失ノ賠償ヲ得レトモ、其訴訟入費多キトキハ、其得ル所ハ其喪フトコロト相殺セサルヘカラスシテ、訴訟入費ヲ寡クスルト云フ、亦自ラ司法事務ヲ舉クルノ一大要件タリ。而シテ裁判所ノ判決命令スルトコロノモノハ、ヨク其土俗人情ト相適合シ、其變動ヲ見ルニ足ルモノナラサルヘカラス。且今日ノ殖民地ハ、各種民族雜處シ、其同一民族間ニモ、階級アリ、流派アリ、其宗教、言語、風俗亦相混淆スルヲ常トス、司法機關ハ則チ此間ニ立チテ、其正ヲ秉ル、復タ一毫ノ相偏倚スルトコロアルヘカラサルナリ。

殖民地ノ裁判所ニ、陪審ヲ用ユヘキヤ否ヤハ、自ラ研究ニ値ヘスヘシ。殖民地ノ裁判ヲシテ、其人情風俗ト相一致セシムルニハ、Jury若クハ ASSISSORヲ置クニ若クハナシ。且人民ノ法律的感想ヲ涵養スルノ手段トシテハ

陪審制度ヲ設クルヲ可トスヘシト雖モ、訴訟事務ノ簡捷ヲ圖リ、及ヒ其經費ヲ寡クスルトイフ方針ト相戾ルコトナキ能ハス、審ニ之ノミナラス、陪審制度ハ、隣保郷黨相正スノ風アル處ニ就テ之ヲ設ケテ、初メテ其效アルヘク、其素因ナキモノニ之ヲ強ユルモ、蓋シ其益ナカルヘシ。

第三 行政

殖民地行政ノ體用ハ、猶ホ母國ノ行政ト相異ナルコトナシ。只獨立國家ノ政務カ、内務、外務、財政、軍政ニ分チ得ルニ對シテ、殖民地ニハ軍政及ヒ外交ナシ。大凡軍政外交ニ屬スル事ハ、母國政府之ヲ行ヒ、殖民地ニテ之ニ關與セシムルコトナキハ、今日ノ通則ナリ。(加奈陀政廳カ、通商條約ニ就キ外國ト交渉シ、印度カ陸軍ヲ備ヒ、及ヒ隣近國トノ外交ヲ管掌スルハ、其例外タリ)故ニ殖民地ノ行政ハ、内務及ヒ財政ノ二ニ分ツヲ得ヘシ。

一 内務行政

此ニ内務行政ト云フ、實ハ殖民地統治事務中ヨリ、財政ヲ取り除キタル、總テノ政務ヲ一括シテ之ヲ稱スルモノニシテ、教育、衛生、勸業、保安悉ク此内ニ包含セサルナシ。乃チ其事甚タ多端、詳ニ之ヲ述フルトキハ、自ラ行政學ノ全部ヲ成スモノアルヘシト雖モ、此ニ説クヘキハ、其行政ノ全體ニアラスシテ、專ラ殖民政策ニ關スルモノニ止レリ。

内務行政

統治ノ方針

獨立國家ノ殖民地ヲ經營スルヤ、自ラ一定ノ目的アリテ存シ、統治ノ方針ハ、則チ此目的ヲ達スルニ最モ適當セルモノナラサルヘカラス。殖民地經營ノ目的ニ就テハ、第一編第三章、之ヲ説クコト甚タ詳カナリ。由來行政政策ヲ説クモノ、干涉放任ニ主義ヲ以テ相對比シ、國家干涉説ノ極ハ、社會共產主義ヲ云ヒ、放任ヲ喜ヒテ *Laissez faire* ヲ説キ、個人主義ヲ主張スルノ弊ヤ、無政府亡國論ニ墜ツ。是等ハ、獨立國家ノ如ク、事體錯雜ニシテ其要

ヲ奉ケカタキモノニ對シテハ、自ラ議論ヲ試ルノ餘地アルヘシト雖モ、殖民地ニ至リテハ、其事全ク之ニ異リテ、其獲得ノ理由、其統治ノ目的、甚タ單純且明白ナリ、統治機關ノ要ハ、一ニ其所定ノ目的ニ向テ進ムニアリ。往昔セシルロード其志ヲ立ルヤ、則チ以爲ク、天下自由平等ヲ尙フモノ、アングロサクソン民族ニ若クハナシ、アングロサクソン民族ハ則チ此自由平等ヲ地球上ニ普ク擴ルノ天職ヲ荷ヘリ、我ハ乃チ先ツ此天職ヲ阿弗利加ニ行ハント。然ルニ彼其業成リテ、七十五萬方里ノ新天地ヲ治ムルニ至リテ、忽チニシテ其主義ヲ新ニシタリ。乃チ曰ク、文明相等シモノニハ自由ヲ與ヒ、平等ヲ以テ之ヲ待ツヘシ、文明低度ナルモノニ對シテハ、自由平等ニ代フルニ幸福ヲ以テシ、其職業ヲ與ヒ、其技藝ヲ教エ、其衛生ノ改良ヲ施スヘキノミト。彼カローデシアヲ治メ及ヒケープ政務ヲ執ルニ當リテ、壓制干涉至ラサルナク、嚴厲急促、濕薪ヲ束ヌルカ如キモノアル亦故ナ

シトセス。且天下殖民地人民ヲ過ルコト、自由放任ノ說ヨリ甚タシキハナク、一知半解ノ政治思想ヨリ、意外ノ擾亂ヲ生スルハ珍ラシカラス。特ニ統治者ノ其土民ニ臨ムヤ、一タヒ嚴格主義ヲ取リタラハ、始終一貫シテ之ヲ變スヘカラス。若シ誤テ一タヒ之ヲ寬假スルカ如キコトアラハ、橫流邪行、忽チ其勢ヲ成シ、其弊既ニ成ルノ後ニ及ヒテ、再ヒ嚴格主義ニ復ラントスルモ、遂ニ及フヘカラス、偶々之ヲ試ムルモ徒ラニ反抗ヲ促カスニ過キス。是レ英國政府カ其亞細亞阿弗利加殖民地ニ於テ、備サニ經驗セルトコロニシテ、所謂殖民地内務行政ナルモノ、根本政策ハ、則チ此ニ存セリ。

教育

殖民地人民ノ幸福ヲ進ムルノ一要件トシテ、其教育ヲ施サ、ルヘカラスト雖モ、殖民地ニ於ケル教育事務ハ、其低度ナル初等教育ノ普及ヲ圖ルニアリ。人民日用ノ言語、文字、及ヒ算數ヲ教エ、若シ能フヘクンハ、母國語ヲ

授クルヲ可トス。普通教育以上ノ教育ハ、之ヲ施スモ不可ナシト雖モ、専ラ實業教育ヲ施スニ止ムヘク、其農業、工業等ノ智識技能ヲ授クルハ、則チ其土地人民ノ實利實益ヲ進メ、家々人々、其境遇ニ自ラ安スルニ至ラシムル所以ニシテ、要ハ其設置實用ノ外ニ出テサルニアリ。

歐羅巴諸國ノ殖民地ヲ治ムルモノ、概ネ殖民地教育ニ就テ失敗ノ歴史ヲ有セサルハナシ。乃チ佛國人嘗テ交趾支那人民ヲ佛國化セント欲シテカメテ新教育ヲ施シタルニ、土民忽チ其古來儒教ニ依リテ成立チタル、倫理道德說ヲ厭棄シタルモ、所謂佛國化ナルモノハ、遂ニ望ムヘカラスシテ此ニ一般ニ品性汗下、披離風ヲ成スニ至ル。蓋シ交趾支那人ヲ化シテ、佛蘭西人タラシムルヲ得ハ、佛國ノ倫理、道德說ノ教茲ニ興ルヘシ、併ナカラ其ヲ化シテ佛蘭西人タラシムヘカラストセハ、暫ク儒教ヲ存シテ、以テ其風教ヲ維持スルニ若カサルナリ。又英國政府、印度人ヲ教育スルニ急ナ

ルヤ、カメテ留學生ヲ誘致シテ、政治法律ヲ學ハシム、然ルニ留學生ハ、英國ノ歴史的發展若クハ其保守的風尚ヲ學ハスシテ、獨リパークフオツクス等ノ言論文章ヲ喜ヒ、長上ヲ凌キ、政府ニ抗スルヲ以テ、人世ノ快事ト爲スモノ多ク、是レヨリ印度ニ於ケル政治思想一變シタリト云フ。印度人ノ獨立自由ノ言、當レリヤ否ハ別問題トシテ、コレ有ラシムルハ、決シテ英國ノ政策ニアラサルヤ言ヲ待タス。

衛生

殖民地ノ衛生事務ハ、統治者ノ最モ心ヲ用スヘキトコロナリ。新領土未開地ハ、其土着人民スラ夭折者甚タ多ク、惡疾、傳染病猖獗ヲ極ムルカ常ナリ。母國民其他文明國民ノ其地ニ到ルモノ、其健康ヲ保ツニ苦ムハ、固ヨリ其處ニシテ、其ノ有形無形ノ進歩ニ大關係アルヤ論ヲ待タス。千八百九十九年北米合衆國カ、玖瑪嶋ヲ統治スルヤ、先ツ全嶋ニ大掃除ヲ行ヒ、其推積セル塵芥及ヒ汚穢物ヲ除去シテ、衛生事務ノ端緒ヲ開キタルカ如キ

ハ、近時ニ於テ最モ稱揚スヘキノ事タルヘク、又蚊カマラリア熱ノ傳染ヲ媒介スルト云フコト、學問上ヨリ確認セラル、ヤ、乃チ中米諸地、其汗濕沮洳ヲ拂フテ、蚊ノ母蟲ヲ驅除シ、及ヒ蚊ヲ防クノ方法ヲ盡クシテ、此ニマラリア熱ノ流行ヲ絶ツヲ得タリ。由來蠻煙瘴雨人生ニ適セスト爲ス處ニシテ、一タヒ開明國民ノ支配ノ下ニ立チテ、化シテ商工業地トナリ、農業地トナリ、其風土亦甚タ人ノ健康ニ適スルヲ見ルモノ、皆其衛生醫事其功ヲ成スモノナラサルナシ。

勸業

勸業及ヒ公共事業ハ、内務行政ノ主要部ヲ占ムルノミナラス、交通經濟、農業政策等、皆此施設ニ待タサルモノナシ。殖民地統治者ハ、其土民ノ農業ヲ獎勵スルヤ、其農具ノ用法、肥料ノ使用、耕作方法ノ改良ヲ教ユルヲ第一ト爲シ、農事試驗場ヲ設ケ、及ヒ巡回教師ヲ派遣スル等、其指導誘掖ノ道ヲ盡クシテ及ハサルヲ畏ル。只其ノ改良進歩ヲ圖ルニ專ラナルヤ、往々ニ

シテ、實地ト相懸絶シテ、實用ニ適セサルノ弊ニ流ル。往年、印度政府荐リニ農事試験場ヲ各處ニ設置シテ、土民ヲシテ就テ學ハシムルヲ期シタレトモ、試験場ハ英國風ノ試作ニ餘念ナク、土民ハ之ヲ見ルモ依リテ學フヘキモノト爲サス、政府折角ノ施設モ、遂ニ珍卉奇草ヲ栽培スル處トナリ、農事ト相關係セサルニ至ル。故ニ農事獎勵ノ要ハ、善ク土民ノ事情ヲ詳カニシテ、其ヲシテ一步一步改良進步ノ途ニ上ラシムルノ計ヲ求ムルニ止ムヘク、實行的ナラサル指導誘掖ハ、其効果ナキノミナラス、土着人民ヲシテ政府ノ干涉ヲ嫌惡セシムルニ過キス。

且殖民地人民ノ實業進步ヲ圖ルノ基礎ハ、其交通機關、其他公共事業ノ規模ヲ成スニアリ。故ニ殖民地ヲ經營スルモノハ、先ツ其陸土ヲ貫通スルトコロノ鐵道ヲ敷設シ、道路開通、運河開鑿、水路改良等、畧ホ其形ヲ成シテ而シテ後ニ初メテ其經濟政策ヲ談スヘク、灌溉、排水、堤防、諸工事亦農業殖

公共工事

民地經營ノ第一要件タリ。是等基礎要件具ハラヌシテ、漫ニ農工業ノ改良進步ヲ説クモ、其効果甚タ乏シキノミナラス、其方針モ亦變移シ易クシテ、土着人民ヲシテ依安スルトコロヲ得サラシム、是レ殖民地經營上、最モ慎ムヘキコトニ屬セリ。只是等諸事業ハ、其性質上內務行政ニ屬スルモ其資金ヲ要スルコト多キト、其事業ノ大ナルトノ爲メニ、獨立ノ資金ヲ備ヒ、獨立ノ機關ヲシテ之ニ當ラシムルコトアリ。然リト雖モ其功一タヒ成レハ、其事ハ則チ內務行政ノ一部トシテ取扱ハレサルヘカラス。殖民地ニシテ、完全ナル地方自治制度ヲ行フモノハ、甚タ稀レナリ。併ナカラ、其ノ自治主義ニ出ルト否トヲ問ハス、隣保鄉黨ヲ單位トシテ、小地方區劃ノ上ニ、大區劃ヲ置キ、順次中央政廳ト相承ケテ、其官務公務ヲ處理スルコトハ、母子國相異ナルコトナシ。特ニ殖民地人民、言語、風俗、慣習、性情等、一々母國ト相同シキ能ハサルヲ以テ、母國官吏ヲ以テ成立ツトコロノ

地方自治

殖民地統治機關ハ、是等地方的小區劃ヲシテ、出來得ル限り、其官務公務ヲ自ラ處理セシムルノ方針ヲ取ラサルヘカラス。就中盜賊及ヒ殺傷罪ノ取締ノ如キハ、隣保伍什、相依リテ以テ警察權ヲ補助セシムルノ便益多キニ如カス。又衛生、教育等亦地方小區劃ヲ設ケテ、其自ラ治ムル所以ノモノヲ知ラシムルハ、是亦殖民地人民ヲ誘掖シテ、其共同生活ノ改良進歩ヲ圖ラシムル所以ナリ。

殖民地ニ於テ、先ツ發達スルモノハ都市ナリ。商業殖民地ハ、其港灣都市ノ外ニ經營スヘキモノナキヲ以テ、其發達ヲ獨リ都市ニ見ルヤ論ナク、農業殖民地ニアリテモ、中央政廳ノ在ル處、農産物及ヒ輸出入品ノ集散スル處、自ラ一ノ中心點ヲ成シ、其富資文物、他ノ地方ニ秀拔スルモノアルヲ致スハ、蓋シ自然ノ數ナリ。從テ母國ノ文化ヲ殖民地ニ移入スルモノ、先ツ都市ヨリ始メテ、漸次各地方ニ及ホストイフ順序ヲ取ラサルハナク、地方

都市ト田舎

自治制度ノ如キモ、先ツ都市ニ於テ之ヲ行ヒ、各地方ハ、都市ヲ模範トシテ漸次自ラ取リテ之ヲ學ハサルヘカラス。

防備警察

殖民地ノ防備警察ノ事、亦論理上内務行政ノ下ニ屬セサルヘカラス。警察事務カ内務行政ノ一部タルハ論ナシ、殖民地ニモ國防事務アリ、軍隊アルカ常ナレトモ、其主タル目的ハ、警察的任務ニアリテ、一般的國防ト其類ヲ異ニス。

尤モ印度ハ強大ナル陸軍ヲ備ヒ、埃及亦兵力ヲ以テ重ヲ爲ス、其他殖民地軍隊ヲ以テ、母國ノ兵力ノ一部ヲ形成スルモノナキニ非スト雖モ、是等ハ寧ロ母國ノ軍政軍備ノ一部トシテ研究シ、講述スヘキモノニシテ、殖民政策ハ之ニ與アラス。且領土征服、一揆叛亂ノ鎮壓、國際的防備等ニ至リテハ、其事殖民地ニ於テ起リ、其土地人民ト重大ナル關係ヲ有スルニ拘ラス一般軍事上ニ屬スルヲ以テ、此ニ言及セス。

殖民地ノ統治ハ、其警察力ニ依頼スル所甚々大ナリ。之ヲ以テ、尋常警部
 巡查ノ外ニ、警察軍隊即チ憲兵ヲ置クノ必要アルノミナラス、殖民地軍隊
 ナルモノヲ以テ、之ヲ掩護スルノ必要ヲ見ル場合多シ。殖民地軍隊ノ兵
 卒及ヒ巡查等ハ、出來得ル限り、土着人民ヲ用ユルヲ可トス、只士官、下士官
 警部、上級巡查ハ、母國人タルヲ要ス。

殖民地警察ノ要務ハ、其ノ母國ニ於ケルモノト異ナルナシト雖モ、最モ治
 安保持ヲ慎ミ、匪違ヲ事前ニ察知シテ、之ヲ禁遏スルコトニ務メサルヘカ
 ラス。且警察權ト土民トノ間ニ誤解ヲ生シ易ク、母國ヨリ派遣シタル將
 士官憲、往々ニシテ、土俗ヲ解セサル爲メニ、意外ノ錯誤ヲ生スルコトナキ
 ニアラス。其ノ力メテ土着人民ヲ用ユル所以ノモノハ、畢竟是等ノ過ヲ
 寡クスル所以ナリ。且各部落人民ヲシテ、隣保相依リテ、警察伍班ヲ結ヒ
 水火、盜賊、及ヒ衛生警察ニ關スル任務ヲ相分タシムルハ、最モ適切ノ方法

タリ。又殖民地軍隊ヲシテ、公共土木ノ事ニ從ハシムルノ例多シ、是レ其
 規律ト健康トヲ保ツ所以ナルノミナラス、又文明ノ德澤ヲ邊境ニ普及セ
 シメ、併セテ土着人民ヲシテ、軍隊ニ依信セシムル所以ナリ。

二 財政

殖民地ノ行政ニ就テ説クヘキモノ、財政其多ニ居ル。且母子國間ノ財政
 關係、殖民地自身ノ財政政策、各種租稅、官營事業、公債等、其要項甚々多端ナ
 ルヲ以テ、此ニ節目ヲ分チテ、以テ其要ヲ舉クヘシ。

大凡租稅、公債、官營事業等、財政ニ關スル通則ハ、獨立國家タルト殖民地タ
 ルトヲ以テ、其基礎ヲ相異ニスヘキ謂レナク、母國ニ就テ説クヘキモノハ
 子國ニ就テ之ヲ擴充スヘキヤ言ヲ待タスト雖モ、既ニ母子國ト云フ、此ニ
 相對的觀念ヲ生シ、又文明獨立國家ノ經濟狀態カ、天下ヲ通シテ畧ホ相同
 シキニ反シテ、殖民地ナルモノ、其文明ノ程度千差萬別ナル上ニ、其經濟的

事物亦極メテ多種、極メテ多様ナリ。故ニ文明獨立國家ノ爲メニ、説クモノヲ、財政上ノNormalナルモノトセハ、殖民地ニ對シテ云フトコロノモノハ主トシテ其理數ノAbnormalナルモノニ屬スヘク、母國ニテ取ルヘカラスルモノモ、子國ニテハ取ラサルヘカラスルノ必要政策タルモノアルコトヲ知ラサルヘカラス。

第一 母子國間ノ財政關係

今日文明獨立國家カ、其領土權ヲ擴メテ、新領土殖民地ヲ有ツヤ、其國土人民ヲ收メテ以テ一大國家ヲ成ス、母子國ハ一體ナリ、本支相保チテ、其間ニ利害ヲ相異ニスルカ如キコトアルヘカラス。只其母國ト曰ヒ、子國ト曰フ、既ニ相對的觀念アリ。其存在ヤ相對的ナリ、各々其特異ノ事情特異ノ要求ヲ生スルコトアル、亦已ヲ得サル所ナレトモ、此特異ヲ相調和シテ、以

母子國關係

テ其完體ヲ保ツハ、則チ殖民政策ノ根本要義ナリ。母子國間ノ財政關係ヲ説ク所以ノモノ、亦此ニ外ナラス。

今日文明獨立國家ノ、其新領土殖民地ニ對スル財政政策ヲ定ムル所以ノモノヲ知ラント欲セハ、須ラク先ツ其ノ新領土殖民地ヲ獲得シ、及ヒ保有スルノ根本理由ヲ尋釋セサルヘカラス。往昔西班牙、葡萄牙諸國ノ殖民經營ヲカムルヤ、其目的トスルトコロノ、未開人民ヲ使役シ、其天賦ノ富源ヲ開發シテ、之ヲ母國政府、又ハ母國企業者ノ利得ト爲スニアリ、所謂鑛物獲得時代ナルモノ即チ是レニシテ、殖民經營ノ理由一ニ此ニ在リ、其財政政策ナルモノ亦此目的ノ外ニ求ムヘカラス。其後和蘭カ、千八百三十一年ヨリ千八百七十五年ニ至ル間、其東印度領土ニculture systemヲ施シテ、盛ニ甘蔗糖栽培ヲ行ヒ、之ニ依リテ母國ノ國庫ヲ利スルコト、八億四千四百萬フロリン(六億七千五百二十萬圓)ニ及ヒタルカ如キハ、古今稀觀ノ事ニ

シテ、當年ノ和蘭ハ、農産獲得ニ専ラナルモノト云フヲ得ヘク、彼カ歐羅巴大戦争時代ヨリ累積セル國債ヲ整理シ得タルハ、則チ一ニ此資源アルニ是レ由レリ。然リト雖モ、往昔ノ西班牙、葡萄牙、若クハ近代ノ和蘭ノ爲ストコロノ事ノ如キハ、他ノ時、他ノ場所ニ於テ、之ヲ求ムヘカラス。且所謂獲得主義ナルモノハ、其新領土殖民地ノ、天賦ト人力トヨリ生スル、富資ヲ奪ヒ去リテ、其繁榮發達ヲ求ムルニ由ナカラシムルノミナラス、母國亦遂ニ其弊ヲ受ケテ自ラ窮セサルヘカラス。西班牙、葡萄牙カ、コレカ爲メニ困弊ヲ招キタルコトハ、歴史上ニ明白、和蘭亦今日ニアリテハ、其殖民地ノ歲計ノ缺陷ニ苦ミ、其殖民地人民ノ未開貧困ナルコト、其母子國ノ關係圓滿ナラサルコトヲ憂フルモノ、亦故ナキニアラス。

且今日文明國民、相競フテ其領土擴張ヲカムル所以ノモノハ、是ニ依リテ其強大ヲ成シ、其繁榮發達ヲ贏チ得ントスルカ爲メニシテ、新領土殖民地

ノ繁榮發達ハ、則チ其母國ノ繁榮發達ヲ確保シ、舖張スル所以ナラサルヘカラス。雷ニ之ノミナラス、或場合ニハ、一定ノ領土カ、二國若クハ數國間ノ必争ノ區トナリ、或一國ハ乃チ此一定ノ領土ノ得喪ヲ以テ、其ノ存亡ヲ決セサルヘカラサルニ至ルコトアリ。此場合ニ於テ、或一國カ此領土ヲ獲得シ、保有シ、其施政ヲ改善シテ、以テ己レノ保障ヲ全クスルコトハ、則チ其國家ノ自存要件タラサルヘカラス。是レ今日ノ殖民經營カ、單純ナル財政上ノ差引勘定、若クハ經濟上ノ損益計算ニ依リテ、説明スルヲ得サル所以ナリ。夫レ殖民經營ノ由テ來ル所既ニ此ノ如シ、故ニ殖民地ヲ以テ母國ノ歲計ヲ利スルノ犠牲ト爲シ、利益獲得ヲ是レ求ムルノ甚タ非ナルト同時ニ、自由放任ヲ是レ旨トシ、其ノ母國ノ累トナラサルヲ是レ幸トシテ、其ノ嚮背ヲ問ハス、其ノ離反獨立ヲ願ミサルカ如キモ、亦甚タ非ナリト謂ハサルヘカラス。

近時歐羅巴諸國ノ殖民經營方針ハ、主トシテ殖民地ノ自營的發達ヲ助クルニアリテ、復タ往時ノ獲得主義ヲ取ルモノナシ。蓋シ英國ハ、北米合衆國獨立以後、其殖民地ニ對スル方針一變ス。佛國ハ、北亞米利加、印度等ニ於テ、其志ヲ失フテヨリ後、其殖民地ヲ慰撫スルニ力メ、其マルチニークグワデロープレユニヨン等、最モ其母國ノ德澤ヲ受ク。獨逸亦新タニ殖民經營ニ從事シ、其母國ノ國庫金ヲ支出スルコト甚タ多クシテ、殖民地ヨリ取立ツヘキモノハ殆トコレ無シ。之ヲ概スルニ、諸國ハ最早殖民地ヨリ徵收獲得スルコトヲ求メス、只殖民地ヲシテ、出來得ル限り、自ラ其歲計ヲ支持セシメ、其已ヲ得サルモノニ限りテ、母國ヨリ之ヲ補助スルニ止ム。且殖民地ノ繁榮發達ヲ圖ル爲メニ、鐵道敷設、港灣改良、水利、土木事業ヲ起スニ當リテハ、母子國相共ニ力ヲ合セテ、其功ヲ成スヲ務ム。

今日文明國民ノ新領土殖民地ヲ保有スルモノニシテ、殖民經營ノ爲メニ

國務ヲ費サ、ルモノナシ。蓋シ殖民經營上、母國ノ負擔ニ屬スヘキモノ

- 一 領土獲得費
- 二 一揆叛亂鎮定費
- 三 母國ニ於ケル殖民地統治機關ノ經費
- 四 母子國間及ヒ各子國間交通機關ニ關スル經費
- 五 陸海軍費

殖民地ノ負擔ニ屬スヘキモノ、

- 一 殖民地ニ於ケル殖民地統治機關ノ經費
- 二 殖民地ノ特殊ノ防備及ヒ警察費
- 三 殖民地内ノ繁榮發達ヲ圖ル爲メノ經費

是レナリ。以上ハ今日多ク行ハル、學說ト、近時各國ノ實例トニ依リテ其概要ヲ舉クルモノニシテ、諸國ノ財政方針ノ存スルトコロハ、則チ之ニ

殖民地補助

外ナラス。然リト雖モ、是レ只其大要ヲ云フニ止リ、其實際ニ就テ之ヲ見ルトキハ、殖民地人民ノ經濟狀態、未タ其統治機關ノ經費ヲ負擔スルニ堪ヘサルモノハ、母國ヨリ之ヲ補助セサルヘカラサルニ對シテ、殖民地ノ資力餘アルモノハ、却テ母國ノ爲メニ、其殖民地費ノ幾分ヲ負擔スルモノアリ。近時英國ハ、殖民地ニ補助セス、又獲得ヲモ爲サスト云フ方針ヲ取リ居レトモ、其英領西印度甘蔗業困難ニ陥リ、延イテ財政ノ破産ヲ招カントスルニ及ヒテ、千八百九十八年、英國國會ハ、此一小嶋ノ爲メニ十七萬四千五百磅ノ補助金ヲ給與スルコトヲ議決シテ、其道路開通、農事試驗場設置ヲ助成シ、又千九百年ニハ、英本國ト西印度トノ間ノ貨物運送汽船ニ、一箇年四萬磅ノ補助金ヲ與ヘ、以テ同嶋經濟恢復ノ爲メニ施設スルトコロアリ、千九百二年ニハ、同嶋甘蔗糖業ノ補助金二十五萬磅ヲ附與シ、同年、南阿弗利加殖民救助金二百五十五萬磅ヲ附與シタルカ如キハ、近時人ノ耳目

ヲ動カス所ノ事タリ。佛蘭西ハ、千九百年ノ財政法ヲ以テ、殖民地ハ自ラ其ノ行政及ヒ警察上ノ經費ヲ支辨スヘク、特別ノ場合ニアラサレハ、母國ハ之ヲ補助スルコトナシ、且殖民地ハ、母國ノ軍事費ニ就キ、相當ノ分擔ヲ爲スヘシト云フコトヲ規定シタレトモ、實際ハ、母國ノ殖民地ノ爲メニ支出スルモノ、千九百五年度ニ於テ、一億九千八百萬フランニ上リ、爾後追々増加ノ模様アリ。獨逸國ノ殖民地經營ノ不經濟ナルハ、更ニ甚タシク、千九百五年度歲計上、殖民地給助費七千五百九十二萬八千マーク、尤モ當時南西阿弗利加叛亂ナカリセハ、單純ナル補助金ハ、二千九百二十八萬六千マークヲ以テ足りタラン、爾後殖民地ノ收入漸次増加シタレトモ、其經費亦之ニ伴フテ増加スルノ姿アリ。

今日ニテハ、母國ニシテ、殖民地ノ給與ヲ受クルモノナシ。併シナカラ、由來殖民地ハ、天賦ノ富源豊富ニシテ、其繁榮發達亦極メテ急速ナルニ對シ

母國殖民
費分擔

テ、其經費ハ則チ極メテ輕微ナルヲ以テ、其財政ニ餘カヲ生スルコト容易ナリ。從テ其母國軍事費カ、殖民地アルカ爲メニ、膨脹スルノ實アルニ於テ、殖民地ヲシテ、其有事ノ日ニ備フルカ爲メニ、母國國庫ニ對シテ、相當ノ出資ヲ爲スコトハ、決シテ謂レナシトセス。千九百二年英國殖民地會議以來、此事常ニ母子國間ノ問題トナリ、英國自治殖民地ハ、之ヲ負擔スルノ意思アリ能力アルヤ明白ナリト雖モ、之ヲ實施スルノ方法ハ、未タ定ラス。尤モ皇領殖民地ハ、既ニ定規ヲ成セルアリ、錫蘭ハ、千八百九十七年以後、其歲入ノ九、二分ノ一パーセントヲ、海峽殖民地ハ、十七、二分ノ一パーセントヲ、マウリシアスハ、七、二分ノ一パーセントヲ、香港ハ、其地方防備費ヲ越ルコトナキ事ヲ要件トシテ、其歲入ノ二、千パーセントヲ、母國ニ納レ、英領印度ハ、現金ヲ貢納セサレトモ、其ノ二十一萬ノ常備兵ヲ養フハ、決シテ印度自身ノ地方的防備ノ爲メニアラスシテ、其防備費ノ大部分ハ、則チ母國ニ

對スル負擔ト云フヘク、近時ノ歲計上、印度軍事費一億八千萬圓、其内五千六百萬圓ハ、手當金、年金等トシテ、英本國ニテ支拂フモノタリ。佛國殖民地モ、法律上母國軍事費ヲ分擔スヘキ筈ナレトモ、千八百六十六年以來、殖民地ハ極メテ微少ナル負擔ヲ爲スニ止リ、獨リ印度支那ハ、千八百九十八年ニ五百萬フラン、千九百五年ニ千三百萬フランヲ納メタリ。其他諸國、亦此說ヲ唱フルモノアレトモ、未タ其實例ヲ成スニ及ハス。

第二 殖民地ノ租稅制度

今日新領土殖民地ヲ治ムルモノ、最モ其租稅制度ノ肇造ヲ難シト爲ス。蓋シ未開國民、野蠻民族ノ治者、其被治者ニ取ルモノ甚タ多ク、其財務ヲ費ヤスコト、制限ナシト雖モ、被治者則チ之ヲ知ラス、或ハ見テ以テ常トス、治者ハ其被治者ノ生産物ノ一部若クハ大部分ヲ官沒シ、其身體ヲ強制使役

征取ト租稅

シ、其ノ富メルモノニ就テ強制借上、若クハ強制貢納ヲ行フモ、租税ナルモノハ則チ一般ニ輕易且簡單ナリ。然ルニ文明國民一タヒ之ニ臨ムヤ、一切ノ歲計ヲ租税ニ求メントス。於是乎、未開國民野蠻民族、則チ其疇昔ノ官沒強要ノ痛苦ノ大ナルヲ忘レテ、新タナル賦課徵收ノ甚タ重キヲ怨ミ且威力ヲ以テ之ヲ迫ラサルトキハ、其負擔ヲ免カル、コトヲ是レ倖フノ情アリ。彼等ニシテ、租税ハ公正ノ義務、當然ノ負擔タルコトヲ認知セシムルハ、決シテ容易ノ業ニアラサルナリ。

且殖民地統治機關ハ、其ノ行動ヲ全クスルタケノ資金ヲ租税ニ求メサルヘカラスト雖モ、他ノ一方ニ、殖民地人民ノ富資福利ノ増進ヲ圖ル爲メニハ、其負擔ノ輕キヲ求メサルヘカラス。乃チ殖民地ニ於テ賦課スルモノハ、其負擔カ、全部人民ニ公平ニ分配セラレテ、之ヲ徵收スルニ多クノ手數ト費用トヲ要セサルノ税目ヲ擇ハサルヘカラス。且其税目ハ、彈力アリ

租税原理

テ、所在人民ノ經濟的進歩ト相適合シ、負擔者其痛苦ヲ感セスシテ、實收入ヲ増加シ得ルモノナルヲ尙フ、從テ此點ヨリ云ハ、直税ヨリハ、間税ヲ擇ハサルヘカラス。

殖民地ノ間税トシテ、先ツ舉示スヘキモノハ、關稅ナリ。關稅ヲ分チテ、輸入税及ヒ輸出税ト爲ス。輸入税ハ、何レノ殖民地ニアリテモ、其歲入ノ主タル要目タリ。只關稅率高キニ過クルトキハ、其貿易ノ發達ヲ妨クルノミナラス、結局其實收入ヲ多クスル能ハサルヲ以テ、今日保護主義ヲ取ルノ國ニアリテモ、其殖民地ハ、保護的關稅ヲ設ケスシテ、專ラ歲入主義ヲ取リ、租税實收入ト貿易ト、相共ニ増進スルヲ圖ル。現時英領印度ハ、五分税ニシテ、鐵鋼鐵類ハ一分、機械ハ無税ナルヲ以テ、其收入甚タ寡シト云フモ、仍ホ總收入ノ四分七厘。ジャヅアハ八分。佛國殖民地ハ一割五分。尤モ英領自治殖民地ニシテ、關稅收入多キモノハ、總收入ノ三割一分、其ノ熱

關稅

帶殖民地中ニハ三割八分ニ及フモノアリ。

英國殖民地ハ西印度以外ハ概シテ輸入ノ關稅率一割ヲ越ルコトナク、香港、海峽殖民地ハ全ク關稅ヲ課セス。

佛國ニテハ其千八百九十二年一月十一日ノ法律ヲ以テ、殖民地ヲ分チテ二ト爲シ、其一ハ佛蘭西本國ノ法定關稅率ヲ用ユ、佛本國ノ輸入品ニハ課稅セス、殖民地特產物ヲ本國ニ輸入スルモノニハ、特殊ノ輕稅ヲ課ス、此制度ニ屬スルモノハ、マルチニーク、グアデロープ、レユニオン、佛領ギアナ、サンプール、ミクエロン、ガブーン、ニウカレドニア、印度支那、マダガスカル等ナリ。其二ハ、母國ノ關稅法ヲ用ヒスシテ、適宜其稅目稅率ヲ定ム。之ニ屬スルモノハ、セネガル、佛領ギニア、アイボリーコースト、ダホメー、佛領コンゴ、タヒチ、海洋洲殖民地ソマリランド、其他殖民地ナリ。チユーニス亦特殊ノ關稅制度アリ、其農產物ヲ佛國ニ輸入スルモノハ無稅ナリ、但シ

之ヲ輸送スルニ佛國船ヲ以テシ、且年々命令ヲ以テ定ムルトコロノ分量ヲ越ユヘカラス。外國ヨリチユーニスニ輸入スルモノニ對シテハ、保護稅ヲ課ス。但シ英國トハ、特定ノ條約アリテ、今千九百十二年マテ、其輸入綿糸布ニ五分以上ノ關稅ヲ課セサル約束ナリ。

獨逸殖民地、蘭領東印度等、亦收入主義ニ基クトコロノ關稅率ヲ設ク。北米合衆國ハ、其ポルトリコニ母國關稅法ヲ施行スルモ、比律賓ニハ、特定關稅制度アリ。

又歐羅巴諸國ハ、千八百八十五年伯林條約ヲ以テ、阿弗利加ノ中心ニ、無關稅地域ヲ設ケ、コンゴ自由國全部、佛領コンゴ一部、葡萄牙領東及ヒ西阿弗利加、ローデシアノ北端、英領中部阿弗利加保護地、伊太利領ソマリランド等之ニ含マル。此地域ハ、則チ門戶開放機會均等ノ理想ヲ現ハセルモノタリ。其後千八百九十年、ブルツセル會議ニテ、コンゴ流域ニ於

テ、一割以内ノ輸入税ヲ課スルコトヲ約束シタレトモ、其大方針ハ、伯林條約ヲ保持スルニアリテ、渝ルコトナシ。

臺灣

我臺灣ハ、領有ノ初メニ於テ、關稅統一主義ヲ取り、我關稅定率法及ヒ協定關稅ヲ、外國輸入品ニ課シ、臺灣ト本土トノ間ニハ、關稅ヲ設ケス、其處置宛モ佛國ノアルゼリアニ對スルモノト一般ナリ。是ニ由リテ、臺灣ノ外國トノ貿易ハ發達セスシテ、獨リ本土トノ間ノ貿易ノミ進歩シタリ。然ルニ朝鮮ハ全ク其趣ヲ異ニシ、同嶋併合當時、一切ノ外國條約ハ廢棄シタルヲ以テ、協定關稅ハ、名義上消滅シタレトモ、我政府ハ、其關稅協定率ヲ十箇年間保持スルコトヲ宣明シ、且母子國間ニハ、移出入税ノ名ヲ以テ、從來ノ課稅ヲ準用シタリ。此事ニ關シテハ世間多少ノ議論アリト雖、殖民政策上ヨリ云ハ、臺灣、アルゼリヤノ如クスルハ寧ロ異例ニシテ、世間ノ通則ハ、殖民地ノ關稅制度ヲ母國ヨリ獨立セシメ、專ラ收入主義ニ依リテ、其輕

朝鮮

キニ從フニアリ。但シ母子國間、食物原料品等ニ就キ、特別取極メヲ爲スコトモ、亦今日ノ通則タリ。

輸出税

輸出税ヲ課スルコトハ、文明國家内ニ於テハ、殆ト見ルヘカラサル所ナレトモ、之ニ反シテ、殖民地ニアリテハ、殆ト之ヲ見サル處ナシト云フヲ得ヘシ。乃チ殖民地ノ歲計ハ、主トシテ間接税ニ依ラサルヘカラスシテ、輸出税亦好箇ノ一財源タリ。且文明國民ノ輸出税ヲ排スル所以ノモノハ、其ノ輸出貿易ヲ不利ナラシムルヲ畏ル、ニアリ、内地工業發達ヲ圖リ、及ヒ商業ノ進歩ヲ求ムル爲メニ、輸出獎勵ヲコススヘケレ、輸出品ニ課稅スルノ愚ヲ爲ササルナリ。然ルニ殖民地ニアリテハ、是レト全ク其ノ趣ヲ異ニスルモノアリ。蓋シ殖民地ヨリ輸出スルモノハ、多クハ特殊ノ天產物ナリ、コレニ輸出税ヲ課シテ其價ヲ高クスルモ、其賣行キヲ妨クルコトナキノミナラス、偶々其價ヲ高クスルニ由リテ、其天產物ノ漸盡ヲ防止スル

コトアリ。阿弗利加内地ニ於ケル、象牙護謨ノ如キ、即チ是レニシテ、若シ其價廉ナルトキバ、外商則チ其レタケ多ク買取リ去ルヘクシテ、其原品ハ其レタケ早ク取り盡サルヘク、寧ロ其價ヲ高クシテ、其存在ヲ保持スルニ若カサルナリ。又馬來聯邦ハ、千九百三年以來、錫粗鑛一ピカルニ付キ三十弗ノ輸出税ヲ課ス、是レ聯邦内地ノ錫製鍊業ヲ保護スルノ必要ニ出ルモノタリ。印度ハ、米百封度ニ付キ二、二分一ルーピーノ輸出税ヲ課シ、年々收入六十萬磅交趾支那ハ、米、魚、生糸等ニ、マダカスカルハ家畜ニ輸出税ヲ課ス。是等ハ、收入主義ノ外ニ、其内地人民ノ生活上ノ必要品ヲ、過度ニ輸出スルノ危険ヲ防止スルノ政策ヲ含メリ。其他阿弗利加ニ於ケル、英佛獨諸國ノ殖民地、西印度諸地、菲律賓等、皆收入主義ノ輸出税ヲ存セサルハナシ。

消費税亦殖民地税トシテ一大要目タリ。消費税ヲ課スルノ目的ニアリ

消費税

其一ハ、之ニ依リテ所在人民ノ消費ヲ減殺セントスルモノニシテ、酒類、鴉片等ニ課税スルモノ是レナリ。千八百九十年ブルツセル會議ノ決定ニ依リテ、阿弗利加熱帶地ニ於ケル領屬地ニハ、酒類消費税ヲ課スヘキコトナレリ、乃チ北緯二十度、南緯二十二度ノ間ニ於テハ、毎ヘクトリトル十五フランヨリ少カラサル税ヲ課スヘキ取極メナリ、其後、千八百九十九年ノ條約ニテ、アルコール五十パーセントヲ含ム所ノ酒類ハ、毎ヘクトリトル七十フラン（一ガロン一圓）ヲ課スヘキモノト爲シタリ。印度其他ニモ酒ノ消費税ヲ課スルノ制度アリ、共ニ禁遏主義ニ出ツ。其二ハ、收入ヲ目的トスルモノニシテ、印度ノ鹽税ノ如キハ其著例ナリ。印度ノ鹽消費税ハ、一マウドニルーピー（一封度十六錢）ニシテ、其歳入七千七百萬ルーピーニ上リ、總歳入ノ十分ノ一ヲ占ム、其一人一年ノ負擔約二十錢ナルヲ以テ、世間其ノ重キニ過クルヲ云フモノ多シト雖モ、印度政府ハ則チ以爲ク、由來

專賣制度

此租稅ヲ設クル所以ノモノハ、印度人全部ヲシテ、普ク且等シク、一定ノ負擔ヲ爲サシムルヲ旨トス、鹽稅ハ、印度人ノ爲メニハ一ノ人頭稅ナリ、此稅ヲ廢止セハ、之ニ代ルニ人頭稅ヲ以テセサルヘカラスト、蓋シ亦已ヲ得サルナリ。馬來聯邦ノ、阿片、酒類、公設賭場ノ課稅、西班牙系統ノ殖民地カ、酒類、煙草、骨牌、武器等ニ課稅スル、亦主トシテ收入主義ニ出ツ。又此消費稅ノ變形セルモノヲ、專賣制度ト爲ス、英領印度、蘭領印度ノ阿片專賣、佛領印度支那ノ鹽專賣、チユーニスニ於ケル煙草、火藥、鹽專賣ノ如キ、皆消費稅徵收ノ一便法トシテ、此專賣制度ヲ設ク。

以上、間稅ニ就テ其要ヲ述ヘタリ、更ニ是ヨリ直稅ニ就テ其梗概ヲ示スヘシ。

直稅

殖民地ノ財政ハ、間稅ヲ主トスヘキコトハ、既ニ之ヲ云ヘリ。只經濟上將タ財政政策上、直稅ヲ徵收スル場合アリ。乃チ阿弗利加諸地ニ行ハル、

Income tax ハ、人頭稅ノ變形セルモノタリ、埃及ノ地租ハ、水ノ使用料ト云フヲ得ヘク、印度ノ地租ハ、小作料タルノ實アリテ、文明國民間ニ於ケル租稅論ヲ以テ、之ヲ推スヘカラサルモノアリ、是等ハ、總テ殖民地稅トシテ、特別ニ研究セサルヘカラス。

小屋稅

歐羅巴諸國ノ、阿弗利加殖民地ヲ治ムルモノ、必ス先ツ小屋稅 Hut tax ヲ賦課ス。是レ一ハ以テ一定ノ收入ヲ得ントスルモノナレトモ、又之ニ依リテ、土人ヲ刺撃シテ、勞務ニ服セシムルノ方策ニ出ツ。英領南阿弗利加ノ小屋稅ハ、極メテ高ク、ナタールハ、一家毎ニ一年十四シルリング、ポストラントハ一磅ナリ。千八百九十六年六月、英國政府シラレヲネノ背地ニ保護權ヲ行フニ當リテ小屋ニハ五シルリング、大家ニハ十シルリングヲ課スルノ命令ヲ發シタルニ、土民直稅ノ意味ヲ解セスシテ、之ヲ以テ、漸次其財産ヲ官沒セントスルモノト爲シ、武器ヲ取リテ叛クニ至リ、兵力ヲ用キ

テ之ヲ鎮壓シタリ。當時調査委員ハ、小屋稅廢止スヘキコトヲ主張シタレトモ、殖民省ハ此議ヲ容レス、小屋稅ヲ以テ、國家ノ永久直稅ト爲シタリ。佛領コンゴールハ、小屋ニ三フラン、較々大ナル家ニハ六フランヲ課シ、マダカスカル、ソマリランド等ハ二フランヲ課ス。故ニ此稅ヲ課セント欲セハ、先ツ其土民ノ風俗慣習ヲ案シテ、是ト相違フコトナキヲ期スヘク、且土民ヲシテ、善ク其租稅ノ趣旨ヲ解シテ、訛誤ニ陥ルコトナカラシムルヲ要ス。

人頭稅

人頭稅ハ、其性質小屋稅ト相同シク、最モ單簡ナル直接租稅ナリ。英領印度ニハ、人頭稅ナシ、只縮甸ニハ、小屋稅ト人頭稅トヲ混合シタル如キ、一種ノ課稅 *shahemoda* アリ、人口ニ準シタル納稅額ヲ、部落ニ分賦シ、其部落ハ各家ノ資力及ヒ人數ニ應シテ、相當ノ金額ヲ賦課ス、平均一年、一家ノ納ムルトコロ十ルーピーナリ、之ヲ徵收シテ之ヲ地方費ニ充ツ。交趾支那、亦人

頭稅ヲ以テ地方費ヲ支辨ス。但シ其亞細亞人ノ入國者ニ課スル人頭稅ハ、特別稅率ヲ用ユ、是レ支那人ノ入國ヲ制限スルノ目的ニ出ルモノタリ。マダガスカルハ、普通人頭稅ノ外ニ、未婚者ニ附加稅ヲ課シ、トランスヴァールハ、千九百二年ノ法律ヲ以テ、土人ノ成年男子ニ二磅、一人以上ノ妾ヲ畜フルモノニ、更ニ一人二磅ヲ課シ、犬ヲ畜フモノハ、一頭ニ付キ一年十シリングクヲ納メシム。オレンジリバーコロニー亦一人一年一磅ナリ、チユーニスハ、成年回教男子ニ二十フラン、アルゼリアハ、土人ヲ五級ニ分チ五フランヨリ六フランニ至ル、ジャヴァ、菲律賓等亦此種ノ租稅アリ。地租ハ、殖民地ノ直稅トシテ、最モ重要ナル地位ヲ占ム。由來幼穉未開ノ社會ニアリテハ、土地所有權トイフ觀念ナク、君主又ハ酋長ハ常ニ地主ノ地位ニ立チ、人民ハ則チ借地料ヲ納メテ、其土地ヲ使用スルモノト爲ス。印度、ジャヴァ等ノ地租ハ、即チ借地料ヨリ進化シ來レリ。

地租

印度ノ地租ノ來歴ハ、極メテ區々ナリ。永久ノ納租額ヲ定ムルモノアリ、一定時ノ租額ヲ定メ置キテ時々之ヲ更改スルモノアリ。ベンガルハ、千七百九十三年永久設定ヲ行ヒ。アグラマドラス亦其例ニ依ル。併ナカラ永久設定法ハ、社會ノ進歩、土地ノ收益ノ増加ニ依リテ、國庫ノ收入ヲ増加スルコトナク、徒ラニ納稅者ヲシテ、不當ノ利ヲ專ラニセシムルノ實アリ、是レ近時甚タ永久設定ヲ喜ハサルニ至レル所以ナリ。

印度ニ於ケル、一定時的地租設定法、亦二ニ分ツヘシ。其一ハ *Revenue* ニシテ、中部地方、アグラオウドバンジャブ地方之ニ屬ス。ゼミンダーハ收稅者ナリ、土地使用者ヨリ租稅ヲ徵收シテ、之ヲ政府ニ納メ、己其間ニ一定ノ手數料ヲ受ク。千八百八十五年サハランプル法ニ依レハ、政府ハ土地ノ純益ノ半額ヲ取ルノ規定ナレトモ、其適用ハ區々ニシテ、アグラニテハ其貢納額ハ純益ノ五十パーセントヨリモ少ク、中部地方ハ七十五パーセ

ント、バンジャブハ四十五パーセントトイフ有様ナリ。其二ハ *Ryotwari* ニシテ、小農組織ノ地方ニ行ハル、一種ノ地代制度ナリ。マドラス、ボムベイブルマアツサム等ノ地方之ニ屬ス。此地租即チ地代制度ハ、土地使用者ノ總收益中ヨリ、耕作費ヲ差引キタル純益ノ、五十パーセントヲ政府ニ納メシムルモノタリ。實際ハ、總收益ノ五分ノ一ヲ貢納スヘキ割合ナレトモ、地味ニ依リ、地位ニ依リテ、適宜之ヲ輕減シ、其負擔重キニ過クルコトナカラシム。以上二種ヲ通シテ、大凡一定時的設定ハ、定期ヲ以テ、其貢納額ヲ改定セサルヘカラスシテ、普通ハ三十年、バンジャブハ二十年ヲ定期ト爲ス。尤灌漑水利事業ノ進歩ニ依リテ、其農業狀態ニ、急劇且重大ナル變化ヲ來タス處ニアリテハ、此定期以外ニ於テ、地租改定ヲ行フモノトス。埃及ハ、古來地租甚タ重キ處ナリ。然ルニ千八百九十九年以來、埃及政府ハ、直稅ヲ減シ、間稅ヲ増シテ、以テ其負擔ノ公平且普及ヲ圖リ、大ニ煙草稅

ヲ増加シ、今日ニテハ、總歲入ノ八分ノ三ハ間稅、八分ノ五ハ直稅トイフ割合ナリ。英國占領以後、一エーケル二十八シリングノ稅率ヲ十八シリングニ輕減シ、土地ノ純收益ノ三十パーセントヲ貢納セシムルコトヲ以テ標準ト爲ス。埃及ニ於テハ、灌漑水利成レル處ノミ、農業地タルヲ得ルヲ以テ、有租地ハ即チ水利ノ及フトコロト、其範圍相同シク、水利事業ノ發達ニ伴フテ、有租地亦増加スルヲ以テ、近時埃及ノ財政改善シ、其公債整理ノ緒ニ就クヲ得タルハ、主トシテ水利事業ノ效果ニ是レ由ルト云フ。馬來聯邦ハ、不思議ニモ、其地租制度ハ印度埃及ト相異ナリテ、寧ロ歐米諸國ト酷ク相肖タリ。且其租率ハ甚ク輕クシテ、耕地ハ、毎エーケル二十錢乃至四十錢、宅地ハ、毎エーケル一弗乃至二弗ナリ。ジャメーカノ地租制度ハ較々複雑ナレトモ、土地總收入ノ五分ノ一ヲ貢納セシムルヲ期ス。其他英領熱帶殖民地ニ於テハ地租ナシ、コレ有リテモ、重要ナル財源ニアラス

シテ其制度殆ト見ルニ足ラサルナリ。

ジャヅアハ土地ハ政府ノ所有、地租ハ即チ借地料ナリト云フ原則ヲ取り、一定時期ヲ以テ、借地料ヲ調定スルノ方法ヲ取り、佛蘭西ノ保護國タルチユーニスハ、菓樹園、穀類耕作地等ニ、各々一定ノ地租アリ。此ニ奇トスヘキハ、農夫ニシテ、佛國工場ニテ製作シタル農具ヲ使用スルモノハ、其地租ハ十分ノ一ニテ足レリト爲スコト是レナリ。佛國ハ、極端ナル政策ヲ用キテ、以テ農事ノ改良ヲ促カス、他ノ一方ニハ、佛國製作品ノ賣込ヲ圖レリ。其他部落共有地ニ對シテハ、土地貸附料ノ六、二五パーセントヲ課稅ス。併ナカラ、佛國今日ノ方針ハ、チユーニスノ租稅制度ヲ、出來得ル限り、單純簡短ナラシムルニアルヲ以テ、是等ノ制度モ、追々改更セラルヘキヤ論ナシ。菲律賓ニテハ、米國ノ領土トナリテヨリ後、地租ハ正規ノ地方收入タリマニラ市ハ、土地價格ノ二パーセント、其他ハ二分ノ一パーセントヲ稅

率ト爲ス。此外ニ所得稅營業稅ヲ課スル處アリト雖モ、特ニ説明スヘキ必要ナシ。

第三 殖民地ノ公債

今日財政上ノ通則トシテ、殖民地ハ其財政ノ獨立ヲ全クスルヲ尙フ。之ヲ以テ、大凡殖民地ヲ治ムルモノハ、先ツ其ノ特別會計ヲ定メ、其歲出ハ其地域内ノ歲入ヲ以テ之ヲ支辨セシムルヲ期ス。其地域内ノ歲入ヲ求メテ、猶ホ且足ラサルニ及ヒテ、母國之ヲ補助スルモ、殖民地ノ支出ハ膨脹シ易ク、母國ノ補助ハ甚タ吝ナルカ常ナルヲ以テ、其財政ノ事ニ當ルモノハ毎ニ其心カヲ苦ムルノ實アリ。且新領土、新開地ハ、新タニ興作スヘキノ事業甚タ多く、鐵道敷設、運河開鑿、港灣開築、灌溉排水、堤防、道路、水路等諸工事先ツ成ルニアラサレハ、其生産業ノ發達ヲ見ルヘカサルノ實アリ。然

殖民地公債

ルニ殖民地人民ノ租稅負擔重キニ過クルトキハ、其經濟的發達ヲ阻止スルコト甚タ大ナルノミナラス、租稅増徴ヲ以テシテハ、一時ニ多額ノ資金ヲ得ル能ハス、是レ殖民地亦公債ヲ起スノ必要アル所以ナリ。

殖民地ニシテ、公債ヲ外國ニ募ル場合ニ於テ、母國政府之ヲ保證シ、且其發行ニ就テ、援助ヲ與フルカ常ナリ。蓋シ殖民地公債ヲ募集スルニ當リテ母國ノ信用ニ依ラサレハ、發行シ得サルコトアリ、假令發行シ得ルモ、母國ノ信用ヲ加フルノ有利ナルニ若カス、是レ其保證ヲ要スル所以ナリ。

且殖民地ニシテ公債ヲ募ルハ、前述ノ如ク、直接間接ニ、其生産ヲ増進シ、其富資ヲ豊カニスルヲ旨トスルモノナルヲ以テ、之ヲ目シテ生産的債務ト云フヲ得ヘク、又不生産公債ヲ發行スルコトハ、殖民地ノ爲メニ甚タ好マシカラサルヤ言フ俟タス、是レ今日殖民地ヲシテ公債ヲ發行セシムルハ其生産的事業ニ投スル場合ニ限ルヘシト爲ス所以ナリ。然リト雖モ、實

際ハ必スシモ此理論ノ如クナル能ハスシテ、過去ニ於ル殖民地公債中、不生産的債務ニ屬スルモノ甚タ多キヲ知ラサルヘカラス。乃チ古來債務ヲ負フコト最モ多キモノハ、英領印度及ヒ埃及ニシテ、全世界ノ殖民地公債ノ四分ノ三ハ、此二者ニ屬シ、又印度埃及ノ公債ノ大部分カ、所謂不生産的債務ニ基クモノナルコトモ、爭フヘカラサルノ事實タリ。是レ今日殖民地ノ財政ヲ云フモノ、二者ヲ取リテ、以テ殷鑑ト爲ス所ナリ。

埃及公債

埃及カ、負債ノ爲ニ、其政治上ノ境遇及ヒ國際關係ヲ一變スルニ至レル次第ハ、普通歴史ニ於テ明白ナル所ニシテ、千八百七十三年ニ於ケル公債高二千八百萬磅、其利率平均十四パーセントト稱ス、其後同政府ハ、益々浪費ニ耽リ、蘇士運河開通式ノミニテ、百萬磅ヲ費ヤシ、遠征軍ヲ起シ、不急ノ土木ヲ興ス等、債務ハ一年一年増加シ、千八百七十六年英佛兩國カ債務ノ整理ニ着手シタルトキニハ、公債總額八千九百二十萬八千四十八萬磅、一年ノ

公債費六百五十六萬五千二十三磅ニ達ス。而シテ外國人ノ眼ニハ、埃及人民ノ負擔力猶ホ饒カナルカ如ク誤解サレタレトモ、其實ハ、同地ノ地主ハ、土地收入ノ三分ノ二ヲ、租稅トシテ徵收セラレ、既ニ其負擔ノ重ニ苦シミツ、アルヲ以テ、此上ニ賦課徵收ヲ求ムルニ由ナシ。於是乎、英佛兩國會議ニテ、千八百八十年七月十七日、債務整理法^{Debt Liquidation Act}ヲ制定シテ、一面ニハ四乃至七パーセントノ低利借替ヲ行ヒ、他ノ一面ニハ *caisse de la dette* ナル行政組織ヲ設ケ、債權國民ノ代表者相共同シテ、埃及ノ財政ヲ監督シ、此ニ初メテ債務整理ノ緒ニ就キ、千八百八十五年、更ニ三分利公債九百四十二萬四十磅ヲ發行シ、其募集意外ノ功ヲ成シ、此資金ヲ以テ、公債ノ整理アレキサンドリア償金支拂等ヲ爲シタル上ニ、百萬磅ヲナイル三角地工事、水利事業ニ投スルヲ得タリ。爾來買入償却、利率引下交々行ハレテ、千九百四年ニ至リテ、利率ハ三分乃至四分半、公債高ハ九千四百萬磅、其公債費ハ、千八

百八十年ニ比シテ約五十萬磅ヲ節約スルコトヲ得タリ。是ヨリ後、復タ埃及ノ財政困難ヲ云ハサルノミナラス、其水利事業ノ發達ニ依リテ、國庫ノ收入ヲ増加シ得テ、公債ノ信用益々高シ。

印度公債

印度ハ、本來公債甚々寡ク、大ミユチー前ニハ、其總額四千九百萬磅ニ止リシカ、千八百六十二年ニハ、軍事費公債發行ノ爲メ、公債總額殆ト二倍シテ九千五百萬磅トナリ、公債利子年々四百三十萬磅ヲ要スルニ至ル。其後不生産的公債ハ漸次整理セラレタレトモ、政府事業舉行ノ爲メニ、新タニ公債ヲ募集スルモノ多ク、千九百四年ニ於テ、其ノ英國ニテ發行セルモノ、總テ一億三千三百四萬六千磅、其利率ハ二分半乃至四分ナリ。又印度内ニテ發行シタル公債、七千九百九十四萬九千磅、其利率三分乃至四分半。今日發行スルトコロノ公債ノ大部分ハ、鐵道敷設及ヒ水利事業ノ爲メニ募集セルモノニシテ、所謂不生産的公債ナルモノ、發行極メテ寡キハ、ヨ

ク其整理ノ功ヲ成セルモノト謂フヘシ。

其他、英領熱帶殖民地ニシテ、公債ノ負擔アルモノハ、甚々稀ナリ。其ノ百萬磅以上ノ公債ヲ發行セルモノヲ舉クレハ、錫蘭、ジャマイカ、トリニダツト、マウリシアス、ゴールドコースト及ヒラゴス等ニシテ其起債ノ原因生産的ナル爲メニ、之ニ依リテ財政ノ困難ヲ招キタル例ナシ。且千八百九十九年制定、殖民地公債條例ナルモノアリテ、英本國ハ、其殖民地ノ公債ヲ引受クルヲ得ヘク、其年限ハ五十箇年ヲ限リトシ、其利率ハ二、四分ノ三パーセントヲ降ルヘカラス、殖民地ハ、此公債元利支拂ノ爲メニ、相當ノ財源ヲ提供スルコトヲ要ス。此條例ノ下ニ、馬來各邦、ジャマイカ、サイプラス、ラゴス、ナイジャコースト、保護地、ゴールドコースト等ハ、各々鐵道、道路、港灣、水利等ノ資金ノ供給ヲ得タリ。

佛國殖民
地ノ公債

佛蘭西殖民地ハ、公債ヲ募集セントスルトキハ、母國政府ノ承認ヲ受ケサ

ルヘカラスト雖モ、母國政府ノ政策ハ、殖民地ヲシテ、自己ノ信用ニ依リテ之ヲ募集シ、自己ノ責任ヲ以テ之ヲ處理セシムルニアリ。千八百九十六年、東京安南ニテ、八千萬フランノ公債ヲ募集シタルハ、殖民地收入ヲ抵當トシ、母國政府之ヲ保證シタレトモ、千八百九十八年、鐵道擴張費公債二億フランヲ募集スルトキニハ、母國政府ハ、其募集ヲ許可シタルノミニテ、保證ヲ爲サス、又増シ抵當ノ提供ヲ許サス、專ラ其殖民地ノ信用ニ依リテ發行セシメタルニ、佛國民盛ニ其募ニ應シ、大成功ヲ示シタリ。佛國殖民地ハ、負債甚タ寡ク、東京安南公債ノ外ニ千九百年、マダカスカルハ六千萬フランヲ發行シ、千九百二年、佛領西阿弗利加ハ、鐵道、港灣、及ヒ衛生設備ノ爲メ、六千五百萬フランヲ發行シタルカ如キヲ見ルノミ。其利率亦甚タ低ク、東京安南公債、マダカスカル公債等、二分半乃至三分半ニ止ル。チユーニスカ佛蘭西ノ保護國トナリタルハ、其財政紊亂、負債累積セルカ爲メ

ナリ、佛國之ヲ統治スルニ及ヒテ、大ニ其財政ヲ整理シ、其公債ハ、漸次三分利ニ借替ヘタリ。

今日英佛諸國市場、殖民地公債ノ人氣ニ投スルモノ多ク、且其利率ハ比較的ニ低ク、其發行價格ハ比較的ニ高キハ、一見甚タ奇ナルカ如クナレトモ今日ノ殖民地公債ナルモノハ、概シ生産的事業ニ投スヘキ資本タルト、殖民地ハ、多クハ獨立自營、國際政治關係以外ニ超然タルヲ得ルトニ是レ由ルヘシ。且其募集高モ甚タ多カラスシテ金融界ノ情況ヲ見テ、之ヲ發行スルトキハ、最モ投資者ノ意ニ適フヲ得ルヤ言フ俟タサルナリ。

第四編 統治政策

第一章 對人政策

今日政治學ヲ講究スルモノ、皆其對象ヲ人及ヒ土地ニ取リテ、其理義ヲ述フルノ序次ヲ立ツ。本章ニ題シテ、對人政策ト爲スモノ、亦其人ニ關スル政務ノ要ヲ擧ケント欲スルニ過キス。併ナカラ、殖民政策ハ、普通政治學ノ一支部ニ屬シ、其事ノ專ラ殖民經營ニ關スルモノヲ限ルヲ以テ、本章ニ説クトロノモノ、亦殖民地ニ於ケル土着人民ヲ治ムルノ要義、及ヒ勞力供給問題等ノ外ニ出テス。

一 土着人民ニ對スル政策

國家統治者ノ衆民ニ對スルヤ、一視同仁、母國ト殖民地トヲ以テ、此大旨ヲ異ニスルコトナキノミナラス、人種、宗教、等族、階級ノ異同ヲ問ハス、正義ト仁愛トヲ以テ之ヲ一統セサルヘカラス。

然リト雖モ其殖民地ニ關スルモノハ、自ラ殖民地ノ歴史アリ、且歐羅巴諸國ノ殖民經營、其由テ來ル久シキモノアリテ、殖民地ノ土着人民ヲ治ムル

對人政策 ノ沿革

所以ヲ知ラント欲セハ、暫ク其沿革ニ就テ、其ノ本源ヲ尋ヌルヲ要ス。古時、西歐羅巴諸國ノ盛ニ殖民經營ヲ行フニ至レル所以ノモノハ、主トシテ未開人民ヲ強制シテ、其勞力ニ服セシムルニアリ。勞力ヲ強制シテ此ニ初メテ其埋藏セル富源ヲ開キ、其未タ世ニ知ラレサルノ利益ヲ收ムルヲ得ヘキナリ。蓋シ西班牙葡萄牙等ノ全盛時代ニ當リテ、歐羅巴ハ人口不足甚クシク、經濟上ノ諸經營、皆勞力足ラサルカ爲メニ、其功ヲ空クスルノ情アリ。於是乎、當時ノ對外經營ハ、則チ人口存スルトコロノ新天地ヲ得ルニアリ。西班牙人ノ、墨其斯古、白露ニ於ケル、葡萄牙人ノ、西阿弗利加、東阿弗利加ニ於ケル、ダツチ人ノマラツカ、ジャヅア、錫蘭ニ於ケル、皆其土着人民ヲ強制シテ勞役ニ服セシメ、若クハ奴隸トシテ之ヲ使役スルヲ以テ主一目的ト爲シ、其ノ猶ホ足ラサルトコロハ、阿弗利加ノ黑人ヲ以テ之ヲ補フ。其中央亞米利加、伯刺西爾、西印度ノ如キ、皆此方針ニ出テ、北亞米利

加スラ、一時ハ、此政策ノ下ニ立チタリ。當時ノ殖民事業ナルモノハ、皆此類ニシテ其土着人民ハ、則チ投資ノ目的物ニシテ、原料品若クハ原動力ヲ以テ之ヲ見ルノ實アリ。十六世紀以來、奴隸ノ輸送極メテ多カリシニ拘ハラス、千八百三十年ニ於テ調査シタルニ、歐羅巴諸國ノ殖民地ニ現存スル所ノ奴隸ハ、僅ニ二百五十萬人ニ過キサリシハ、畢竟其死亡率ノ甚タ大ナリシヲ證スルモノタリ。其後、奴隸ニ關スル國際的設定成立シタリト雖モ、其遺痕猶ホ存シ、又當年ノ強制勞働ノ方法ハ、今日ニ於テ *Convict* トシテ、到ル處ニ其形ヲ留ムルモノアリ。乃チ此殖民政策ノ行ハル、時ニ當リテハ、殖民者ハ、土着人民ノ人格ヲ認メサルナリ。既ニ人格ヲ認メス、之ニ對スル所以ノモノ、其當ヲ得サルコト多キハ言ヲ俟タスシテ、是等ノ殖民地ハ、土着人民ノ減少著シク、*玖瑪サンドミンゴ*ノ如キハ十八世紀末ニ至リテ、全ク其土着人民ヲ見ル能ハス、*白露グエネズエラ*等、土人未タ全

滅セサルモ、猶ホ其減少ノ甚タシキニ驚カサルモノナシ。

此ノ如キ對人政策ノ不當ナルコトハ、古人ト雖モ心附カサルニアラスシテ、西班牙政府ハ、千五百十二年ニ於テ、早ク既ニ土人保護法ヲ制定シ、千五百四十二年、西班牙國王チャールス五世ハ、殖民地ニ關スル智識及ヒ經驗アルモノヲ召集シテ、會議ヲ開キ、土人保護方法ヲ講究セシメタリ。是ヨリ後、漸次土人解放ノ方針ヲ取り、且土着人民ヲ新タニ奴隸ト爲スコトヲ禁止シ、人民ヲ土地ノ附屬品ト看做シテ、地主之ヲ任意ニ處理シタルトコロノ*エンコミエンダ*制度ノ如キモ、亦漸ク廢止セラル、ニ至ル。葡萄牙政府ハ、千七百九十九年法律ヲ以テ、土着人民ヲ強制シテ勞役ニ服セシムルコトヲ禁シタルトモ、實際ハ、今日モ強制勞役猶ホ行ハル、處多シ。但シ今日ノ通則トシテ、其地方ノ公共事業ニ限り勞役ヲ強制シ、之ヲ以テ金錢ノ負擔ニ代ルモノトス。

且殖民地ニ於ケル土着人民ノ多クハ、未開無智ノ徒ナルヲ以テ、文明國民ト共ニ立チテ、生存競争ヲ爲スコトハ、其ノ最モ難キ所ナリ。故ニ近時文明國民ノ殖民地ヲ開發スルヤ、土着人民容易ニ金錢ヲ得、且奢侈贅澤ヲ學ヒ、姦商狡徒、此ニ乘シテ之ヲ誘導蠱惑ス、其産ヲ破リ家ヲ失フモノ多キハ固ヨリ其處ナリ。之ヲ以テ、殖民地統治者則チ最モ高利貸ニ對スル取締ヲ嚴ニシ、酒類、煙草等ヲ禁遏スルノ方法ヲ取り、勤勉貯蓄ヲ教テ、以テ其利用厚生ノ道ヲ開クヲ力ム。其ノ存在ヲ保チカタキモノ爲メニハ、保留地ヲ設ケテ、此ニ棲息セシム、今日阿弗利加ノ各地、殆ト此制ナキハアラス。保留地ナルモノハ、一定ノ地域ヲ、國有又ハ公有ト爲シ、所定ノ土着人民ニ限リ、此ニ來リ居リテ、耕作業ニ從事スルヲ許スモノニシテ、英、佛、獨諸國ノ阿弗利加殖民地、皆廣大ナル地域ヲ剩シテ、是等土着人民ヲ收容スルノ處ト爲ス。

保留地

統治方針

夫レ母國民ト曰ヒ、殖民地人民ト曰フ、共ニ其獨立國家ニ從屬スルトコロノ人民ナリ。統治者ハ、則チ其總テノ安寧ヲ保チ、幸福ヲ進ムルヲ期セサルヘカラス。只殖民地人民ハ、概シ其文明ノ程度低ク、其ノ歴史及ヒ事情、母國民ト相同キ能ハス、其低キモノハ、漸次之ヲ進ムヘク、其相同キ能ハサルモノハ、漸次之ヲ調和スルコトヲ務メサルヘカラス。故ニ統治者ノ期スルトコロハ、等シク安寧幸福ニアリト雖モ、其取ルトコロノ政策ハ、則チ母子國相同シキヲ得サルナリ。奢侈贅澤ハ、人世文明ノ徽章ナリト云フモ、此風一タヒ殖民地ニ入ルトキハ、其不幸云フヘカラスシテ、或ハコレカ爲メニ流離顛沛ノ極ニ陥ラサルヘカラサルモノアリ。自由平等ハ、立憲國民ノ甚タ尙フトコロナリト雖モ、其政治上及ヒ社會上ノ體形未タ備ハラサルモノニシテ、此ニ耽ルトキハ、無政府狀態ニ陥ラサレハ、則チ混亂自滅ノ窮ヲ招クニ終ルヘキナリ。是レ爲政者ノ此ニ最モ其心ヲ致シテ、指

導駕御、以テ其過誤ヲ正スヲカメサルヘカラサル所以ナリ。前章ニ述フル如クセシルロード初メテ志ヲ立ルノ日、慨然トシテ以爲ラク、自由自治ハ、アングロサクソン民族ノ特長ナリ、此阿弗利加ヲ以テ、我自由自治ノ境ト爲スコトハ、則チ我等ノ天職ナラサルヘカラスト、彼ハ即チ自由放任ヲ主義トスルモノナリ併ナカラ、彼一タヒマタベランドヲ奄有シ、及ヒ喜望峯殖民地總理大臣トシテ、政局ニ當ルヤ、復タ自由放任ノ説ヲ口ニセス、其爲ストコロハ、則チ峻厲卓發、寸毫ノ假借スル所ナシ。彼乃チ曰ク、異民族集リテ、同一領土ノ上ニ居ルトキハ、之ニ處スルノ道ハ、則チ單純且明白ナリ、文明程度相等シキモノニハ、同等ノ權利ヲ與、其程度劣レルモノハ之ヲ壓服スヘキノミト。彼ハ階級制度ヲ嚴ニシ、黑人ニハ選舉權ヲ與フルコトヲ拒ミ、黑人ニ酒類ヲ與ヘス、其勞働ヲ督勵シ、其職業ト工藝トヲ教ユ。曰ク彼等ニハ、平等自由ノ代リニ、幸福ヲ與フルヲ要スト。ローヅノ

言ヤ甚タ可ナリ、只彼ハ餘リニ促急、餘リニ緊迫ニシテ、往々ニシテ失誤ヲ招クノミナラス、彼ノ爲ストコロハ、土着人民ノ解スルトコロトナラスシテ、其善政美法モ、徒ラニ怨恨ヲ買フノ淵源トナリタルコト多シ。蓋シ殖民統治ノ要ハ、其土着人民ニ幸福ヲ與フルニアリト雖モ、土着人民ニシテ其幸福タル所以ヲ感知セシムルニアラサレハ、則チ之ヲ與フルモ益ナシ是レ之ヲ導クニ其道ヲ以テシ、徐ロニ其功ヲ成スヲ尙フ所以ナリ。

二 勞力供給問題

往昔ノ殖民政策カ、未開地ノ人民ヲ使役スルニアリシハ、既ニ言フトコロノ如シ。住時ニアリテハ、天下到ル處ノ未開地ニ於テ、用ユヘキノ勞力甚タ饒カナリシヤ論ナク、又鑛業其他、一定ノ採收業ハ、勞力ノ需要自ラ限りアリテ、容易ニ其供給ヲ全クスルヲ得タルヲ疑ハス。併ナカラ、是等土着人民ハ、數百年間稅政ノ下ニ在リテ、其人口著シク減退シ、奴隸貿易亦國際

變遷

的禁事トナリタルヲ以テ、近代ニ及ヒテハ、殖民地ハ概テ人口稀薄ノ實アリ。他ノ一方ニハ、近時ノ殖民經營ハ、則チ農業ヲ主トシ、又鐵道敷設、水利土木事業等、甚タ急ナルヲ以テ、勞力ノ需要ハ則チ甚タ大ナルアリテ、此ニ勞力供給ノ缺乏ヲ見サルナキノ勢ヲ成シ、所謂勞力供給問題ナルモノ則チ此ヨリ出テ來レリ。

而シテ今日、殖民地ハ、到ル處勞力缺乏ヲ告クルニ對シテ、文明國ハ、到ル處人口夥多ニシテ、或ハ其過剩人口ノ處理ニ苦ムノ情ナキ能ハス。之ヲ以テ、十九世紀末ニ及ヒテハ、世間殖民經營ヲ説クモノ、概テ新領土ヲ獲テ、以テ母國ノ過剩人口ヲ放出スルノ地ト爲スヘキコトヲ云ハサルハナキ有様トナレリ。之ヲ十六七世紀ノ殖民政策カ、未開地ヲ勞力供給ノ無盡藏ト爲シ、土着人民使役ヲ以テ主目的ト爲シタルニ比スレハ、其轉變亦甚タシト云ハサルヘカラス。然リト雖モ、所謂過剩人口放出説ナルモノハ

過剩人口
ト勞力缺
乏

全ク一時ノ幻想ニ外ナラスシテ、今日ノ經濟的事物ノ理數ヲ以テスレハ人口ニ過剩ナルモノハ有リ得ヘカラス、農業、森林業以外、鑛業、漁業、製造工業等、人口増殖シ、人文進歩スルニ從テ、其製産品ノ消費増加シ、之ニ伴フテ職業増加シ、勞力ノ需要亦増加ス。獨逸ハ、千八百八十年頃、年々二十萬人ノ移民ヲ放出シタルトモ、今日ハ、出稼人ハ二萬人ヲ越エサルノミナラス外國勞働者ノ入り來ルモノ、年々多ヲ加フ。而シテ其人口ハ、則チ千八百八十年代以後、益々増殖シ來レルノ實アリ。是レ同國ノ内地經濟的事物ノ發達カ、人口ノ需要ヲ増加シタル確證ニシテ、同國政治家カ、過剩人口放出ヲ以テ其殖民經營ノ根本理由ト爲シタルノ、全ク誤レルコトヲ自證スルモノタリ。且獨逸ハ、年々人口六七十萬人ヲ増加シ、其増殖力天下無比ト稱スルヲ以テシテ、猶ホ且右ノ如キ現象アリ、其増殖力コレニ若カサルモノニアリテハ、過剩人口ノ有リ得ヘカラサルコトハ一屬明白ナリ。夫

レ人口ハ常ニ必ス増殖極リナキモノナリヤ、佛蘭西人ハ殆ト増殖力ナシト云フヲ妨ケス、英吉利人、北米合衆國人ノ如キモ、統計上其總人口ハ増加シツ、アルニ相違ナシト雖モ、其生産比例ハ則チ遞減ヲ示スニアラスヤ。此勢ニ依リテ之ヲ推ストキハ、將來或ハ文明國ヲ通シテ、人口不足、勞力缺乏ヲ患フルニ至ルコトナキヲ保セス。將來ハ暫ク言ハス、今日實際上過剩人口ナルモノ存在スル處ナク、從テ母國ノ過剩人口ヲ移シテ、殖民地ノ勞力缺乏ヲ補フト云フカ如キハ、架空、據ナキノ言ナリ。

移民ト殖 民地

且人性向上限リナシ、今日獨立國家ノ本土内ニ棲メルモノハ、文明進歩、社會發達、其懇望ヲ滿タスノ道甚タ備ハリ、其政治經濟ニ依リテ以テ安宅樂土ヲ成スアリ、之ヲ棄テ、殖民地ノ流氓トナルカ如キハ、豈人ノ情ナランヤ。歐羅巴人古來移住ヲ求ムルモノ多シト云フモ、是レ皆其國內ニ於ケル、政治上、宗教上、若クハ經濟上ノ痛苦、自ラ堪フル能ハサルモノアリテ、此

ニ初メテ移住ヲ企ツルニ至ル、乃チ多ク外國移民ヲ出スノ國ハ、其國民ノ狀態ニ不可ナルモノアルニ由ラサルハナク、多ク移民ヲ出スト云ヘハ、則チ其國民ノ不幸ヲ自ラ語ルモノナラサルハナシ。愛蘭、伊太利、洪牙利、露西亞、巴爾幹各地ハ、歐羅巴移民ノ源泉タル所以ヲ尋ヌルトキハ、則チ思半ハニ過クルモノアラン。而シテ是等移民ハ、決シテ自國ノ殖民地ニ赴クヲ欲セスシテ、他ノ文明ノ程度高ク、若クハ自由自營ニ適スル處ヲ求メテ、此ニ居ル。今日歐羅巴移民ノ流動スルモノ年々百五十萬人、其百萬人ハ北米合衆國ニ、他ハ南米各地、若クハ英國殖民地ノ自由自營ニ適スル處ニ向フモノタルコトヲ知ラハ、亦以テ其性情ヲ解スルヲ得ヘク、獨逸ハ、千八百四十八年以來、約半世紀ニ涉リテ、數百萬人ノ移住者ヲ出シタレトモ、其ノ自國殖民地ニ在ルモノハ、僅カニ二三萬人ニ止ルヲ見テモ、移民ナルモノハ、母國ノ殖民事業ト、全ク相關涉セサルヤ明白ナリ。

策 勞力供給

然ラハ殖民地ノ勞力缺乏ヲ滿タスニ、其道アリヤ、曰クコレ有リ、其一ハ、土着人民ヲ獎勵シ、訓練シテ、勞務ニ服セシムルコト是レナリ。其二ハ、適當ナル勞働者ヲ輸入スルコト是レナリ。

殖民地ハ、人口稀薄ナルカ常ナリ、併ナカラ、稀薄トイフモ、土着人民コレ無キニアラスシテ、其ヲシテ、勉勉其事ニ從ハシメハ、亦以テ大ニ爲ストコロアラシムルヲ得ヘキナリ。然ルニ、未開人民ノ常態、之ヲ強制シテ勞務ニ服セシムレハ、則チ已ヲ得スシテ行作スルモ、之ヲ強制スルモノナク、而シテ其生存ハ極メテ簡易ニシテ、輒ク自ラ給スルヲ得ルヤ、怠惰淫佚日ヲ曠クス。阿弗利加各地ノ如キハ、爲スヘキノ業アルモ猶ホ之ヲ務メス、其農業ハ、主トシテ婦女ノ勞作ニ依リテ行ハレ、男子ハ、狩獵ト賭博トノ外ハ、殆ト何事ヲモ爲サ、ルカ多シト云フ。故ニ殖民地ノ勞力缺乏ヲ濟フノ道ハ第一ニ、其土着人民ヲシテ勤勉力行以テ其業務ヲ擔當セシムルニアリ。

勤勞督勵

強制勞役即チ *Cotave* ナルモノハ、古代ハ一般ニ行ハレタレトモ、今日ニテハ、公共土木事業、其他土民ノ共同事務ニ屬スルモノ、外ハ、之ヲ強ユル能ハサルヲ以テ、他ノ方法ヲ以テ獎勵シ、之ヲ督促セサルヘカラス。

課税
土着人民勤勞督勵ノ一方便トシテ、租税ヲ賦課シ、其ノ勞作ヲ餘儀ナクスルコト多シ。ローデンヤ、ナタール、トランスヴァール等ノ小屋税、又ハ人頭税ハ、土着人民ヨリ金錢ヲ徵收スルコトニ依リテ、彼等ヲシテ勞銀ヲ得サルヘカラサルコトヲ自覺セシム。此事南阿弗利加ニ始リテ、東阿弗利加西阿弗利加各地ニ及フ。土人一人ヨリ一年二磅若クハ其以上ヲ徵收スルコトハ、甚タ重キニ過クルカ如クナレトモ、勞銀ヲ得ルヲ求メシムルニハ、是モ亦已ヲ得サルナリ。南阿弗利加、千八百九十四年、グレングレイ法ハ、十年以上ノ男子ニシテ、前年中、少クトモ三箇月以上正規ノ勞務ニ服シ又ハ雇役セラレタルコトヲ證明シ得サルモノハ、一年十シルリングノ租

税ヲ負擔セシメ、三十六箇月間勞務ニ服シタルモノハ、其租税ヲ免除ス。而シテ其獎勵督促ノ方法ヲ盡クシテ、猶ホ且遊惰放佚ニ流ル、モノニ對シテハ、刑法上ノ浮浪罪ヲ適用シテ、之ヲ懲罰スルノ例亦甚々多シ。

勞働契約制

又土着人民ヲシテ規則正シク勞作セシムルノ一方法トシテ、勞働契約制アリ、勞働時間、勞働賃銀、其他待遇法ヲ定メテ、一定時間、一定業務ニ服セシメ、之ニ違フモノハ體刑ニ處スルモノタリ。雇主ハ雇入ノ際ニ、其勞銀ヲ前渡シ、其契約履行ヲ強制ス。アマゾン上部護謨採取者、黑其斯古勞働者等、多ク此例ニ依リ、ジャグア、ヒリツピン等、今仍ホ此制ノ痕跡ヲ留ムルアリ。只此制、往々ニシテ勞働者ヲ虐使シ、奴隸ニ類スル境遇ニ陥ラシムルノ虞アルヲ以テ、近時歐羅巴諸國漸ク其制限ヲ設ク、乃チ千八百七十九年蘭領印度ハ、其制規ヲ設ケテ、勞働者勞務ニ服スルノ意思ナク、虛偽ノ目的ヲ以テ、前渡金ヲ受取リタルモノハ、一月乃至六月ノ強制勞役ニ服セシム

ヘント爲シ、獨逸ハ、東阿弗利加ニテハ、雇主ノ一月分以上ノ前渡金ヲ爲スコトヲ禁シ、此金額ヲ越テ供給シタル物品代價ヲ要求スルコトヲ許サス又千九百年ノ命令ヲ以テ、ニウギニアニ於ケル有色勞働者カ、契約上ノ要件ヲ破リ、服從ノ義務ヲ怠リ、若クハ遁走シタルモノニ、罰金、隔離、禁錮、若クハ體刑ヲ加フルコトヲ許シ、千九百二年二月十四日、カメルーン總督命令ヲ以テ、勞働者ノ募集ハ、政廳ノ許可ナクシテ之ヲ行フヲ得ス、募集ヲ爲スモノハ、其勞作ノ場所、勞働時間、及ヒ勞働者ノ員數ヲ定メテ、許可ヲ乞フヘク、勞働契約ハ、必ス文書ヲ以テ之ヲ認メ、事業ノ性質、場所、契約期間、勞働日數、食物住所、傷病手當、及ヒ歸還方法ヲ明記セシメ、勞働ハ一日十時間ヲ越ユルヲ許サス、支拂ハ獨逸貨幣ヲ以テシ、醫療及ヒ歸還費用ハ、雇主ヲシテ負擔セシメ、政廳ハ之ニ對スル監督方法ヲ設ケテ、之ヲ勵行ス。佛領コンゴ

1千九百三年ノ命令、亦勞働契約ノ規程ヲ設ケ、契約書ハ、勞働者立會ノ

上官吏ノ面前ニ於テ作製セシム。南阿、キムバレーノ金剛石採掘労働者印度アツサム製茶地方ノ労働者等、皆此契約労働者ヲ用ユ。不規律ニシテ勤勞ニ馴レサルモノヲ使用スルニ當リテハ、此ノ如キ方法ヲ取ルコト亦已ヲ得サルニ出テ、土着人民亦自ラ此間ニ於テ、勤勉力行ノ風ヲ成スヲ得。

勞力保存

且殖民地人口稀薄ナル處ニ於テ、其土着人民ノ放散ヲ防止スルノ方策ヲ求ムルコト、亦甚タ必要ナリ。土着人民ニ職業ヲ與^ハ、其堵ニ安セシムルハ、統治ノ要務タルヤ論ナク、多クノ殖民地ニテハ、其労働者ノ移出ヲ禁ス。獨逸ノ諸殖民地ニテハ、政府ノ許可ナクシテ、其労働者ヲ移出スルコトヲ得ス。コンゴ自由國、即チ今日ノ白耳義領コンゴ^ー及ヒ佛領西阿弗利加ハ、政廳ノ許可ナクシテ、労働者ヲ募集スルヲ得ス、政廳ハ、其殖民地以外ニ移出スルモノニ就テハ、一時的許可ヲ與フルニ過キス。アイボリーコ

ーストニテハ、移出労働者一人ニ付キ、二十五フランノ移出税ヲ課シ、佛領コンゴ^ーハ移出労働者ノ旅行券一通ニ百フランヲ徵收シ、ラゴ^ー及ヒ北ナイジャ^ーニテハ、土着労働者ハ、所轄官廳ノ許可ナクシテ、其領土外ニ赴クヲ得ス。是等亦勞力保存ノ一政策トシテ、今日ニ認メラル、トコロノ制令タリ。

勞力供給者

而シテ今日歐羅巴諸國ノ殖民地ニ對シテ、勞力ヲ供給スルノ地位ニ在ルモノハ、印度及ヒ支那ナリ。印度労働者ハ、其賃銀ノ低キト、其供給力ノ豊富ナルトノ爲メニ、各熱帶地ノ歡迎スル所タリ。印度政廳ハ、カルカッタマドラス、ボンベイ其他一定ノ地點ヲ指定シテ、労働者移出處ト爲シ、此ニ擔當官吏ヲ置キテ、其保護及ヒ取締ヲ行フ。印度労働者ノ向フトコロハマウリシアス、ジャマイカ、英領ギアナ、トリニダツト、ナタール、ヒジ^ー、蘭領ギアナ、南阿弗利加、西印度諸嶋ニシテ、嘗テ佛領ギアナ、アンチルス、レユニ

フン等ニモ赴キタルコトアリ。又支那労働者ハ、海峽殖民地、スマトラ、英領ギアナ等ニ赴クモノ多ク、嘗テ南阿米利加鑛業地ニ赴クモノ多カリシモ、今ハ渡航杜絶ス。且米國及ヒ濠洲ハ、契約労働者ノ移入ヲ禁スルヲ以テ、印度支那労働者ノ契約ニ依リテ移出セラル、モノハ、今ハ是等ノ地ニ赴クモノナシ。抑モ米國濠洲等ニテ、契約労働者ヲ排斥スル所以ノモノハ、無智下劣ニシテ、自由ヲ尊ハサルモノニアラサレハ、契約ノ下ニ其身體ヲ束縛サル、ナク、無智下劣ナル労働者ノ入り込ムハ、其社會ニ害毒ヲ流カス所以ナリト爲スニアリト雖モ、大凡労働者ノ隔絶未知ノ地ニ赴クモノハ、最モ其職ヲ得ル能ハサルヲ憂フ、從テ契約労働者ノ入國ヲ禁スルハ則チ普通労働者ハ勿論、善良ナル熟練職工ヲモ併セテ排除スル所以ナリ眞ニ勞力移入ノ必要ヲ感スルモノハ、此制ヲ取ルヘカラサルヤ明白ナリ。

勞力輸入ノ利害

然リト雖モ、外國労働者ヲ多ク移入スルトイフコトハ、一時ノ便益ヲ得ルヤ論ナキモ、其ノ土着人民ノ爲メニ、永久ノ利益タルヘキヤ否ヤ。社會ノ調和ヲ保チ、事物自然ノ發暢ヲ求ムルノ上ヨリ云ハ、之ヲ移入スルコトナキノ優レルニ若カサルナリ。蓋シ殖民地ハ、勞力ニ乏シト云フト雖モ土着人民ヲ獎勵シ訓練スルトキハ、必スヤ相當ノ效果ヲ收ムヘク、統治者ノ務ムヘキハ則チ此ニアリ。彼外國労働者ヲ移入スルノ事ノ如キハ、萬已ヲ得スシテ、而シテ後ニ之ヲ行フヘキナリ。

第二章 土地制度

古來殖民政策ヲ説クモノ、皆其重ヲ土地制度ニ置キ、或ハ之ヲ以テ、有ラユル殖民的經營ノ基礎ナリト爲ス。蓋シ世間、土地ヲ離レテ爲シ得ルノ業ナク、且殖民地ニ於ケル土地制度ハ、多ク肇造ニ屬スルト同時ニ、其一長一

短ノ、諸般ノ經營ニ影響スルコト甚タ大ナルヲ以テナリ。

土地カ諸般ノ經營ノ基礎タルコトハ、文明國ト未開地トヲ擇ハス、母國タルト子國タルトニ依リテ、相異ナルコトナシ。然ルニ文明獨立國家ニ於テ、之ヲ説クコト甚タ稀レナルニ對シテ、獨リ未開國殖民地ニ於テ、之ヲ論スルノ喧シキハ何ソヤ。抑モ今日ノ獨立國家ハ、其經濟上ノ發達、其由來久シキモノアリ、土地ニ對スル公私法ノ規律、亦嚴且密ヲ極ムルヲ以テ今日ニ及テ、政策ヲ行フノ餘地ヲ見出スコト甚タ寡シ。然ルニ未開國殖民地ハ、則チ之ニ反シ、土地廣ク人口稀レニシテ、公有地、共有地ノ外ハ多クハ無主ノ地ニシテ、私人ノ土地所有權ヲ認メサル處スラ甚タ稀レナラス。而シテ其農業ノ發達進歩ヲ圖ルノ要ハ、土地私有制度ヲ確立セシムルニアリト云フモ、如何ナルモノニ土地所有ヲ許シ、且如何ニ之ヲ分配スヘキカ、總テ統治者其主義方針ヲ定メテ、所在人民ヲシテ之ニ依ラシムルト云

土地政策

フ順序ナルヲ以テ、土地問題ノ研究、土地政策ノ實驗ハ、獨リ殖民地ニ於テ最モ善ク其要ヲ舉クルヲ得ヘキナリ。

且殖民地ニ於テモ、土地投機ノ弊害ヲ防止シ、及ヒ自作農民保護ノ必要上土地ノ完全ヲ保ツノ方策ヲ立ツルカ如キハ、其事殆ト文明國ニ於テ見ルトコロノモノト相異ナルナシ。故ニ本章、先ツ其文明國ト畧ホ相同シキモノヨリ説キ起シテ、其ノ甚タ相異ナルニ及ハントス。

一 殖民地ニ於ケル土地兼併及ヒ投機賣買ニ

對スル政策

殖民地ノ都市、港灣、及ヒ其附近ニ於ケル土地經濟ノ状態ハ、母國新開地ニ於テ見ルトコロト、殆ト相異ナルコトナク、土地投機流行シ、高利貸跋扈スルコトハ、母國トテモ時ニコレ無キニアラスト雖モ、殖民地ハ則チ常ニコレ有り、其弊害モ亦極メテ甚タシキモノアリ。是レ土地増價課稅制度ノ

如キモノカ先ツ殖民地ニ於テ其端ヲ起シ、且ヨク其効果ヲ奏スルモノアル所以ナリ。

土地増價稅

土地増價課稅制 *Wertzuwachssteuer* ナルモノハ、今日英、獨、諸國ノ國稅トシテ人ノ耳目ヲ引クトコロノモノナレトモ、其性質及ヒ來歴ヨリ云ハ、是レ寧ロ殖民稅ナリ。

土地増價課稅ノ概要ヲ舉クレハ、一定時期ニ於ケル土地ノ價格ヲ基準トシ、其ヨリ五年、十年、若クハ十五年ヲ隔テ、其土地ノ價格ヲ評量シ、其ノ自然的増價、即チ地主ノ新タナル投資加工等ニ基カスシテ、經濟界ノ自然ノ進勢ニ依リテ、騰貴シタル價ニ就キ、課稅スルモノニシテ、其稅率ハ、一割五分、二割時トシテハ二割五分ノ高キヲ見ルモノアリ。其課稅方法ハ極メテ多種多様、且獨リ定期評量ニ依リテ徵收スルノミナラス、不動産權ノ移動ニ際シテ、之ヲ賦課スル場合多シ。今日土地増價課稅ノ理由ヲ説明ス

ルモノ則チ曰ク、土地ノ自然的増價ナルモノハ、主トシテ其社會共同ノ力ニ依リテ生スルモノニシテ、地主獨リ之ヲ專ラニスヘキ理ナシ、是レ其幾分ヲ共同財源トシテ提供セシムル所以ナリト。蓋シ此課稅カ、獨逸フラインクフォルト、ケルン、ゲルゼンキルヘン、ドルトムント、各市カ、自治財源トシテ之ヲ徵收シ、リッペ、リユーベック、ハムブルグ等、亦之ヲ地方稅トシテ設定シタルヲ以テ、此ノ如キ説明ハ最モ適切ナルヲ見ルヘシ。併ナカラ國稅トシテ之ヲ徵收スルモノニ對シテハ、此説明ニテハ不十分ナリ。畢竟土地價格ノ自然的増加ハ、課稅容易ニシテ、國庫ハ之ニ依リテ相當ノ收入ヲ得、納稅者亦其負擔ニ苦マサルヲ以テ、國家カ新財源ヲ求ムルニ急ナルノ日ニ於テ、之ヲ擇フノ已ヲ得サルヲ見タリト云フヲ當レリトス。國稅トシテ之ヲ論スルノ根據ハ、則チ相續稅ト相似タルモノアリ。

然リト雖モ、殖民政策ヨリ之ヲ解説スルニハ、自ラ獨立ノ見地アリ。乃チ

未開國、殖民地等ハ、恰モ今日ノ文明國ノ昔時ノ如ク、土地所有權ナルモノ確立セス、其拓殖經營進ムニ從テ、漸ク土地分配ノ事アリ。於是乎、此間ニ乘シ、土地ノ兼併ヲ企テ、拓殖經營上自然ノ進勢ニ依リテ、獨リ己ノ私利ヲ擅ラニスルモノアリ。特ニ新開ノ都市、若クハ其附近ハ、則チ最モ土地投機ノ流行ヲ招キ易ク、是等投機流行ハ、土地兼併、地價暴騰ヲ來タシテ、一般商業工業ヲ營ムモノ、自由ト發達トヲ阻害スヘク、投機ハ、往々ニシテ破綻ヲ生シテ、恐慌、不景氣ヲ招クコトアリ、是等ヲ防止スルノ一策ハ、則チ土地増價課税法ナリ。

且此課税ハ、所有權確立後、久シキヲ經ルニ及ヒテハ、甚タ設定シカタク、英國ニテ、此課税法ヲ設定スル際ニ、多ク非難者ヲ生シタルハ、固ヨリ其處ナリ。歴史家ハ、佛國路易第十四世時代ニ、此課税法アリ、ナポレオン第一世ハ、此制度ヲ確立シタリト稱スルモ、路易十四世時代ハ、土地私有制度ノ極

メテ幼稚ナル頃ナリ、ナポレオン一世時代ト云フモ、其大革命ニ依リテ、佛國民力、貴族寺院ノ領地ヲ奪ヒ、及ヒ公有地ヲ得テ、是等ヲ各家各人ニ分配シテ後、幾クモナキ時ナルヲ以テ、容易ニ之ヲ行フヲ得タラン。今日未開國、殖民地等ニテ、此税法カ甚タ實行シ易キモ、亦其理相同シ。獨逸ハ、清國膠洲灣ヲ租借スルヤ、千八百九十八年、土地條例ヲ制定シテ、土地ノ自然増價ニ課税シ、ニウジーランド、ニウサスウエルス、サウスオウストラリア、グインズランド、ヴィクトリア、タスマニア等、皆土地増價課税制度アリ。乃チ濠洲ニウジーランド等新開地ハ、土地私有制度ノ設定中、若クハ設定後未タ時ヲ經ルコト多カラサルニ際シテ、土地ノ兼併及ヒ土地投機盛ニ行ル、アリ、此時ニ當リテ土地増價税ヲ課スルハ、一ハ以テ財政上ノ好財源ト爲シ、一ハ以テ土地ノ兼併及ヒ投機ヲ防止スルヲ得ヘキナリ。

其他、土地及ヒ農業ニ對スル金融機關ヲ完備シ、所在人民ヲシテ高利貸ノ

干繋ヲ離レテ、安全ナル資金ノ供給ヲ得セシムルアラハ、亦土地所有者及ヒ一般人民ノ生計ノ基礎ヲ固クシ、間接ニ、土地兼併及ヒ投機ノ弊ヲ防クコトヲ得ヘキナリ。

二 土地ノ分配及ヒ保持ニ關スル政策

今日殖民地ノ多クハ、農業經營ヲ以テ其主眼ト爲スノ實アリ。而シテ農業ノ基礎ハ、農民各々其堵ニ安シテ、其業ニ勤ムルニアリ、農民ヲシテ其堵ニ安シ、其業ヲ勤メシムルノ要ハ、其土地ノ分配適度ニシテ、且其分配サレタル土地ヲ保持スルノ道アリテ存スルニアリ。

土地ノ分配ハ、何ヲ以テ適度ト爲スヘキカ、其原則ハ則チ甚々簡單ナリ、曰ク、一農家ノ所有スヘキ土地ハ、其一家族カ、其全力ヲ注イテ、耕作シ得ル面積ヲ以テ、限度ト爲スヘシ。若シ此限度ヨリモ大ナルトキハ、耕作粗濫ニ流カレ、天物ヲ暴殄スルノ虞アルノミナラス、小數者先ツ土地ヲ專占シテ

分配ノ程

後ニ來ル者ヲシテ、必要ナル土地ヲ得ルニ由ナカラシム。若シ又之ニ反シテ、土地ノ分配狹小ニ過クルトキハ、家々人々、其所有地ノ耕作ニ依リテ自ラ支フ能ハスシテ、坐ナカラ貧窮ニ陥リ、遂ニ相率キテ他郷ノ流氓トナルニ至ルヘシ。是レ農業殖民地ハ、最モ土地ノ分配ヲ慎ミ、且一旦適度ニ分配シタル土地ノ、分割喪失スルコトヲ防止スルニ力メサルヘカラスト云フ所以ナリ。

然リト雖モ、是レ只其原則ヲ然リト爲スノミ。其實際ヲ云ハ、農夫ノ耕作力ハ其地味、氣候、農具、肥料等ノ改良、耕作術ノ進歩如何ニ依リテ、其功程ヲ同クセス、特ニ其耕作物ニ從テ、コレニ必要ナル面積ノ大小相異ナルヲ以テ、豫シメ一定ノ限界ヲ示ス能ハサルヤ論ナク、是等ハ、一ニ其實地ニ就テ、其基準ヲ定メ、且事物ノ進歩ニ伴フテ、其準度ヲ改ムルノ外アルヘカラス。